

平成 26 年度 文化庁委託事業

**社会課題の解決に貢献する  
文化芸術活動の事例に関する調査研究  
報告書**

平成27年3月

株式会社 野村総合研究所



## 目次

<b>第1章 本調査の概要</b> .....	<b>5</b>
1－1．背景と目的 .....	6
1－2．本調査の進め方 .....	6
1) 調査対象 .....	6
2) 調査項目 .....	8
3) 調査手法 .....	8
1－3．調査研究体制 .....	8
<b>第2章 経済・人口問題の解決</b> .....	<b>9</b>
2－1．経済・人口問題に係る課題と解決に貢献した事例 .....	10
2－2．都市・地域のブランディング .....	10
2－3．観光産業の振興 .....	21
1) 観光地への新たな魅力の付加 .....	22
2) 観光地としての魅力の新生 .....	33
2－4．産業（観光以外）の振興 .....	42
2－5．遊休物件の活用 .....	44
1) 廃校・休校の活用 .....	44
2) その他の物件の活用 .....	48
2－6．若者の転入の増加 .....	51
2－7．にぎわいの創出 .....	55
<b>第3章 居住問題の解決</b> .....	<b>59</b>
3－1．居住問題に係る課題と解決に貢献した事例 .....	60
3－2．負のイメージを持たれた場所のイメージアップ .....	60
3－3．治安の回復・維持 .....	64
<b>第4章 健康・福祉問題の解決</b> .....	<b>67</b>
4－1．健康・福祉問題に係る課題と解決に貢献した事例 .....	68
4－2．心のケア .....	68
4－3．健康の増進 .....	71
<b>第5章 人権問題の解決</b> .....	<b>75</b>
5－1．人権問題に係る課題と解決に貢献した事例 .....	76
5－2．個々の存在意義・アイデンティティの確認 .....	76
5－3．社会的包摂 .....	77
1) 移住者・外国人 .....	77
2) 身体障害者・ひきこもり .....	80

第6章 教育問題の解決.....	85
6－1．教育問題に係る課題と解決に貢献した事例.....	86
6－2．表現力・コミュニケーション力の育成.....	86
第7章 コミュニティの形成.....	89
7－1．すべての問題に係るもの.....	90
7－2．コミュニティの形成.....	90

## 第1章 本調査の概要

### 1-1. 背景と目的

近年、地域では文化芸術活動が様々な社会課題の解決につながっている事例が見られている。日本は、少子高齢化、人口減少などの課題を抱え、こうした課題に行政としても、今後とも正面から向き合っていく必要性が年々増しているが、文化芸術活動がこうした課題に対して成果を挙げるものが多い。それらの事例を分析し、日本の文化芸術活動が向かうべき1つのモデルとしていくことは、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会において、日本が先進国共通の社会課題の解決のための先行モデルを示していく上で、極めて有益なことである。

本調査研究は、文化芸術が、課題の解決に向けて貢献した事例を、様々な観点から収集し、それを踏まえた上で、文化芸術の社会的役割を考察することによって、今後の我が国の文化政策を戦略的に企画立案することを目的として、実施するものである。また、文化芸術を、個々人の内面の充実に留まることなく、成熟社会を迎えた我が国が世界に向けて新たな価値観を提示し、貢献していくための必要不可欠な手段として、積極的に活用するための方策を検討することを目的として、実施するものである。

(文化庁「本事業仕様書」より引用)

### 1-2. 本調査の進め方

#### 1)調査対象

本調査では、はじめに各種の論文・報告書などを基に、顕在化している社会問題を洗い出し、そのなかから文化芸術が課題の解決に貢献した事例を整理した。なお、ここでの社会問題は、我が国における大多数の人々の共通認識になっていると想定されるものに限定している。

文化芸術が解決に貢献できると考えられる問題は、「経済・人口問題」(第2章)、「居住問題」(第3章)、「健康・福祉問題」(第4章)、「人権問題」(第5章)、「教育問題」(第6章)の5つに整理される。あわせて、これらすべての問題解決に資すると考えられる「コミュニティの形成」(第7章)にも貢献できると考えられる。なお、ここでは芸術家の育成など文化芸術の振興を目的としたものは除外している。図表・1は、文化芸術が解決に貢献できると考えられる問題と課題、主な事例をまとめたものである。本報告書では、これらの事例の概要について取り上げている。

図表・1 社会課題の解決に貢献した主な事例

問題		課題		事例							
経済・人口	地域間競争の激化における都市・地域の埋没	都市・地域のブランディング		← ヨコハマトリエンナーレ	静岡県舞台芸術センター（SPAC）	りゅうとびあ（新潟市民文化会館）	サイトウ・キネン・フェスティバル松本				
		観光産業の振興	観光地への新たな魅の付加	← アーカスプロジェクト	国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ	札幌国際短編映画祭	東川町国際写真フェスティバル	ゆうばり国際ファンタスティック映画祭	山形ドキュメンタリー映画祭	パシフィック・ミュージック・フェスティバル	
	産業の停滞		観光地としての魅力の新生	← 十和田市現代美術館	金沢21世紀美術館	別府現代芸術フェスティバル	六甲ミーツ・アート	アース・セレブレーション	富士山河口湖音楽祭		
		産業（観光以外）の振興		← たざわこ芸術村	瀬戸内国際芸術祭	大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ	中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス	富山県利賀の演劇によるまちおこし			
		遊休物件の活用	廃校・休校の活用	← 美濃和紙あかりアート展	金山町建築コンクール						
	人口の減少・少子高齢化		その他の物件の活用	← にしがも創造舎	京都芸術センター	アーツ千代田3331	アルテピアッツァ美唄	各種芸術祭での活用			
居住	地域のイメージの悪化	負のイメージを持たれた場所のイメージアップ		← BankART 1929	あいちトリエンナーレ	東山アーティスト・プレイスメント・サービス					
	治安の悪化	若者の転入の増加		← 直島町	神山町						
		にぎわいの創出		← 鳥の劇場	八戸ポータルミュージアム「はっち」	天満天神繁昌亭					
健康・福祉	過大なストレスの発生	心のケア		← 舞洲工場	モエレ沼公園	ホスピタリティ・プロジェクト					
	高齢化・医療費の増大	治安の回復・維持		← 黄金町バザール	豊島区の文化政策						
人権	孤立感の拡大	個々の存在意義・アイデンティティの確認		← ARCT	JCDN	劇団四季（こころの劇場）	アーツプロジェクト				
	マイノリティの排除	社会的包摂	移住者・外国人	← 釜ヶ崎芸術大学	可児市文化創造センター						
			身体障害者・ひきこもり	← アルス・ノヴァ	音遊びの会	otto & orabu	日本センチュリー交響楽団				
教育	表現力・コミュニケーション力の不足	表現力・コミュニケーション力の育成		← 篠山チルドレンズミュージアム	コロガルパビリオン	芸術家と子どもたち					
すべての問題に係るもの		コミュニティの形成		← いわき芸術文化交流館アリオス	かえっこ	こへび隊・こえび隊					

## 2)調査項目

各事例について「取り組みの背景」、「取り組みの内容」、「取り組みの成果」などをできるだけ簡潔にまとめている。成果については、できる限り定量的に裏付けを行っているが、定量的に測れないものは定性的に記述を行う、もしくは実施内容をもって成果と位置づけている。

## 3)調査手法

調査は主に「文献調査」及び「関係者ヒアリング調査」によって行った。「文献調査」では具体的には、各事業の公式 Web サイト、実施報告書、各出版物（カタログ、公式記録、書籍など）、学術論文、新聞記事を基に行った。

なお、事例の収集の初期段階においては以下の有識者のアドバイスを得た。

- ・太下 義之 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株) 芸術・文化政策センター 主席研究員
- ・加藤 種男 企業メセナ協議会専務理事、アサヒビール 芸術文化財団 事務局長
- ・佐々木 雅幸 同志社大学経済学部特別客員教授、文化庁 文化芸術創造都市振興室長

## 1-3. 調査研究体制

本調査研究は、各分野の専門的な知見を活用するため野村総合研究所と各分野に精通する外部の調査員で協力して行った。具体的な体制は次のとおり。

### 野村総合研究所

- ・綿江 彰禪 公共経営コンサルティング部 主任コンサルタント（主担当）<sup>1</sup>
- ・木村 和代 社会システムコンサルティング部 副主任コンサルタント
- ・小松 康弘 公共経営コンサルティング部 グループマネージャー

### 調査員

- ・小山 文加 ヤマハ音楽振興会ヤマハ音楽研究所研究員／アーツカウンシル東京調査員（音楽分野）
- ・林 立騎 Port 観光リサーチセンター主任研究員／アーツカウンシル東京調査員  
（演劇・伝統芸能分野）
- ・横堀 応彦 東京藝術大学大学院専門研究員／アーツカウンシル東京調査員（音楽・演劇分野）

---

<sup>1</sup> 本文中の出所の記述のない写真については、全て綿江が撮影したものである。



## 第2章 経済・人口問題の解決

## 2-1. 経済・人口問題に係る課題と解決に貢献した事例

「経済・人口問題」を、さらに「地域間競争の激化における都市・地域の埋没」、「産業の停滞」、「人口の減少・少子高齢化」、「中心市街地の衰退」の4つに分類している。文化芸術は、これらの問題に関して「都市・地域のブランディング」、「観光産業の振興（観光地への新たな魅力の付加、観光地としての魅力の新生）」、「産業（観光以外）の振興」、「遊休物件の活用（廃校・休校の活用、その他の物件の活用）」、「若者の転入の増加」、「にぎわいの創出」などの課題の解決に貢献できると考えられる。

図表・2 「経済・人口問題」に係る課題の解決に貢献した主な事例

問題		課題		事例							
経済・人口	地域間競争の激化における都市・地域の埋没	都市・地域のブランディング		← ヨコハマトリエンナーレ	静岡県舞台芸術センター（SPAC）	りゅうとびあ（新潟市民文化会館）	サイトウ・キネン・フェスティバル松本				
				← アーカスプロジェクト	国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ	札幌国際短編映画祭	東川町国際写真フェスティバル	ゆうばり国際ファンタスティック映画祭	山形ドキュメンタリー映画祭	パシフィック・ミュージック・フェスティバル	
	産業の停滞	観光産業の振興	観光地への新たな魅力の付加	← 十和田市現代美術館	金沢21世紀美術館	別府現代芸術フェスティバル	六甲ミーツ・アート	アース・セレブレーション	富士山河口湖音楽祭		
			観光地としての魅力の新生	← たざわこ芸術村	瀬戸内国際芸術祭	大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ	中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス	富山県利賀の演劇によるまちおこし			
		産業（観光以外）の振興		← 美濃和紙あかりアート展	金山町建築コンクール						
	人口の減少・少子高齢化	遊休物件の活用	廃校・休校の活用	← にしすがも創造舎	京都芸術センター	アーツ千代田3331	アルテビッツア美唄	各種芸術祭での活用			
			その他の物件の活用	← BankART 1929	あいちトリエンナーレ	東山アーティスト・プレイスメント・サービス					
		若者の転入の増加		← 直島町	神山村						
	中心市街地の衰退	にぎわいの創出		← 鳥の劇場	八戸ポータルミュージアム「はっち」	天満天神繁昌亭					

## 2-2. 都市・地域のブランディング

近年、グローバル化が進捗し、ヒト・モノ・カネといった資源は、以前より国境を超えることが容易になり、各都市・地域はその魅力を発信する重要性が高まっている。図表・3のとおり、魅力的な都市・地域の構成要素として、経済、教育、福祉、交通インフラなどとあわせて文化芸術も重要な要素の1つと考えられている。

図表・3 主な都市間比較の調査と指標

調査名	指標
森記念財団・都市戦略研究所 「世界の都市総合力ランキング」	・「経済」、「研究・開発」、「居住」、「環境」、「交通・アクセス」とあわせて、「文化・交流」が評価指標となっている。
Economist Intelligence Unit 「Best cities ranking and report」	・「緑地 (Green space)」、「スプロール (Sprawl)」、「自然 (Natural assets)」、「接続性 (Connectivity)」、「孤立性 (Isolation)」、「公害 (Pollution)」とあわせて、「文化資源 (Cultural assets)」が評価指標となっている。
AT Kerny 「Global Cities Index」	・「ビジネス活動 (Business activity)」、「人的資源 (Human capital)」、「情報交換 (Information exchange)」、「政治参加 (Political engagement)」とあわせて、「文化的経験 (Cultural experience)」が評価指標となっている。

我が国では、文化芸術により「都市・地域のブランディング」に成功している事例が見られる。ここでの、ブランディングのアプローチとして、「世界レベルで一流の文化芸術施設・事業の整備を行い、都市の活動を世界に対して発信する」、もしくは、必ずしも情報発信するだけの十分な文化的、金銭的、人的資源を持たない地方公共団体においては、「情報発信する領域を特定の分野に絞り、日本国内、もしくは世界に対して発信する」ことが挙げられる。

前者の事例としては、「(1) ヨコハマトリエンナーレ」、「(2) 静岡県舞台芸術センター (SPAC)」、「(3) りゅーとぴあ (新潟市民文化会館)」、「(4) サイトウ・キネン・フェスティバル松本」などが挙げられる。

また、後者の事例としては、「(5) アークスプロジェクト」、「(6) 国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ」、「(7) 札幌国際短編映画祭」、「(8) 東川町国際写真フェスティバル」、「(9) ゆうばり国際ファンタスティック映画祭」、「(10) 山形ドキュメンタリー映画祭」、「(11) パシフィック・ミュージック・フェスティバル」などが挙げられる。

### (1) ヨコハマトリエンナーレ

#### 概要と主な成果

- 横浜市において2001年より3年に1度開催されている美術国際展。これまでに5回実施されている。
- 第5回は2014年8月1日～11月3日(89日間)に実施され、横浜美術館や新港ピア(新港ふ頭展示施設)などが会場となった。19の国と地域から65組の作家が参加した。
- 期間中に、約21.5万人が来場し、うち約0.5万人が外国人であった。
- 第4回(2011年)では、事業費約9億円に対して、経済波及効果は約32億円、雇用発生数は303人、パブリシティ効果は約47億円であった。
- 海外における評価も高く、artnet newsにおいて、世界で最も素晴らしい20の美術国際展にも選ばれている。

・ヨコハマトリエンナーレ<sup>2)</sup>は、2001年から神奈川県横浜市において3年に1度実施されている国際美術展である。従来から、国際交流基金が国際美術展の定期開催を目指していたところ、横浜市が誘致を行い実現に至った<sup>3)</sup>。

<sup>2)</sup> 2011年(第4回)より表記が「横浜トリエンナーレ」から「ヨコハマトリエンナーレ」に変更となった。

<sup>3)</sup> 1997/12/23 東京新聞

- ・これまで2001年、2005年、2008年、2011年、2014年の計5回実施されている。

図表・4 ヨコハマトリエンナーレ 2014（第5回）の概要

会期	2014年8月1日~11月3日（89日間）
会場	横浜美術館、新港ピア（新港ふ頭展示施設）
主催	横浜市、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会
参加作家数	65組（79作家）
総事業費	約8.8億円
来場者数	約21.5万人（中学生以下約2.6万人、外国人約0.5万人）
チケット販売枚数	約10万枚
チケット価格	1,600円（一般・当日）

図表・5 ヨコハマトリエンナーレ 2011（第4回）の概要

会期	2011年8月6日~11月6日（83日間）
会場	横浜美術館、日本郵船海岸通倉庫（BankART Studio NYK）
主催	横浜市、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会
参加作家数	77組（79作家）
総事業費	約8.4億円
来場者数	約33.4万人
チケット販売枚数	約17万枚
チケット価格	1,800円（一般・当日）

横浜美術館での展示①



横浜美術館での展示②



横浜美術館での展示③



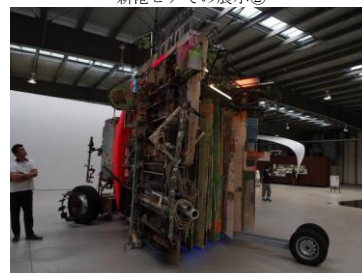
みなとみらい駅での展示



新港ピアでの展示①



新港ピアでの展示②



- ・第4回（2011年）の経済波及効果は31.8億円、雇用発生数は303人、パブリシティ効果は46.7億円であった<sup>4</sup>。
- ・ヨコハマトリエンナーレは artnet news「World's Top 20 Biennials, Triennials, and Miscellennials」や fineart.about.com「Top 15 International Art Biennales」に選ばれるなど、様々な媒体において世界的にも重要な国際美術展であると評価されている。

<sup>4</sup> (株)浜銀総合研究所「ヨコハマトリエンナーレ 2011 経済波及効果等の推計結果の修正について」



## (2) 静岡県舞台芸術センター（SPAC）

## 概要と主な成果

- 1997 年に静岡県により設立された文化施設。
- 東静岡駅横に立地する静岡芸術劇場のほか、東京ドーム 4 倍の広さを持つ舞台芸術公園内の野外劇場、屋内ホール、稽古場棟、宿泊棟などからなる。
- 設立当初から専属の劇団を有している。
- 芸術監督の宮城聡氏と劇団で作られる作品は世界的にも高い評価を得ており、これまで世界 11 ヶ国から招聘されている。
- 「マハーバーラタ～ナラ王の冒険」は、2014 年に世界で最も評価の高い演劇祭の 1 つであるアヴィニョン演劇祭に正式招聘され、メイン会場で上演された。

- ・ 静岡県舞台芸術センター（Shizuoka Performing Arts Center : SPAC）は、1997 年に静岡県により設立された文化施設である。
- ・ 設立時は鈴木忠志氏が芸術総監督を務め、2007 年より宮城聡氏に交代し、現在に至るまで精力的な活動を続けている。日本でも数少ない専属の俳優を雇用する公立文化施設でもある。
- ・ SPAC には、東静岡駅横にある静岡芸術劇場（最大 401 席）のほか、日本平にある東京ドーム 4 個分の広さを持つ舞台芸術公園に本部棟、野外劇場「有度」（約 400 席）、屋内ホール「楢円堂」（約 110 席）と稽古場棟や宿泊棟といった環境が整っている。
- ・ 2011 年からは、「Shizuoka 春の芸術祭」（2000～2010 年まで 11 回開催）を改称した「ふじのくに せせかい演劇祭（World Theatre Festival Shizuoka under Mt.Fuji）」をスタート。世界中から招かれた演劇、ダンスなどの作品が上演されている。

静岡芸術劇場①



静岡芸術劇場②



野外劇場「有度」



屋内ホール「楢円堂」



稽古場棟



宿泊棟



- ・ SPAC の活動は日本の公共劇場の中でも他に類を見ないものであり、SPAC が制作した作品はギリシア、ロシア、フランス、イタリア、アメリカ、コロンビア、中国、韓国など世界 11 ヶ国から招聘され、公演を行っている。

- ・また、2014年には「マハーバーラタ〜ナラ王の冒険」が世界で最も評価の高い演劇祭の1つであるアヴィニョン演劇祭に正式招聘され、メイン会場で上演するなど、世界的に知名度の高い劇場となっている。

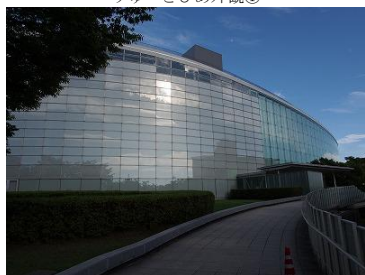
### (3) りゅーとぴあ(新潟市民文化会館)

#### 概要と主な成果

- 1998年に新潟市により設立された文化施設。
- 白山公園内のコンサートホール、劇場、能楽堂などからなる。
- 2004年に、舞踊部門芸術監督として金森穰氏を迎えると、日本初の劇場専属舞踊団である Noism を設立した。
- Noism は日本国内をはじめ海外 8 ヶ国 11 都市でも公演を行うなど精力的な活動を行っている。
- りゅーとぴあは、新聞に 160 回/年、雑誌 231 回/年など、メディアに数多く扱われ、新潟市のステイタス向上に貢献している。

- ・ りゅーとぴあ（新潟市民文化会館）は、1998年に音楽・舞台芸術の殿堂を目指し、新潟市により設立された文化施設である。
- ・新潟市中央区の白山公園内のコンサートホール（最大 2,000 人）、劇場（最大 903 人）、能楽堂（最大 387 人）の 3 つのホールとスタジオ、練習場、ギャラリーなどからなる。
- ・ 2004年に舞踊部門芸術監督として金森穰氏を迎えると、日本初の劇場専属舞踊団である Noism を設立した。
- ・ 現在は、正式メンバーで構成されるメインカンパニー Noism1（ノイズム・ワン）と 2009年に立ち上げた研修生が所属する Noism2（ノイズム・ツー）の 2 つのカンパニーからなり、現在、金森氏をはじめとする 3 名の指導者のほか、Noism1 に 10 名、Noism2 に 8 名のメンバーが所属している。

りゅーとぴあ外観①



りゅーとぴあ外観②



りゅーとぴあ内観



- ・ Noism は現在も日本で唯一の劇場専属舞踊団であり、新潟を拠点に日本国内をはじめ海外 8 ヶ国 11 都市でも公演を行っている。2009年にはモスクワ・チェーホフ国際演劇祭との共同制作、2011年にはサイトウ・キネン・フェスティバル松本の制作のオペラ&バレエにカンパニーとして参加するなど、その活動は多岐に渡っている<sup>5</sup>。
- ・ りゅーとぴあとしての注目度も高く、新聞に 160 回/年、雑誌に 231 回/年（ともに 2010~2012 年の平均数）<sup>6</sup>と、メディアに数多く扱われ、新潟市のステイタス向上に貢献している。

<sup>5</sup> Noism Web サイト

<sup>6</sup> 市民芸術文化会館「指定管理者自己評価（H25年度）」

## (4) サイトウ・キネン・フェスティバル松本

## 概要と主な成果

- 小澤征爾氏率いるサイトウ・キネン・オーケストラは、世界で最も重視されているクラシック音楽誌の1つである「Gramophone」において、世界の優れた20のオーケストラに選出されている。
- サイトウ・キネン・フェスティバル松本は、このサイトウ・キネン・オーケストラにより長野県松本市にて1992年より毎年実施されているクラシック音楽・フェスティバルである。
- キッセイ文化ホール(長野県松本文化会館)、まつもと市民芸術館などが会場となっている。
- 23回目となる2014年には8月～9月の会期中に19公演が行われ、人口約24万人の松本市に約5.4万人の鑑賞者が訪れた。

- ・1984年に、戦前から日本の楽壇の発展に尽力した故斎藤秀雄氏(1902~1974年)の没後10年を記念し、指揮者の小澤征爾氏など国内外の門下生による「斎藤秀雄メモリアルコンサート」が実施された。
- ・このコンサートをきっかけとして「サイトウ・キネン・オーケストラ(以下、SKO)」が設立され、1987年のヨーロッパ・ツアーをはじめとして、1989~1991年の間にサルツブルク音楽祭やカーネギーホールといった国際的な舞台で成功を収めた。
- ・その後小澤氏は、SKOの日本の拠点として音楽祭の開催を目指し、メンバーが合宿して練習できる環境の整った自然豊かな地方都市として松本市が開催地に決定し、1992年に小澤氏が総監督を務める「サイトウ・キネン・フェスティバル松本<sup>7</sup>(以下、SKF松本)」が開催された。

図表・6 サイトウ・キネン・フェスティバル松本2014の概要

会期	2014年8月10日~9月6日
会場	キッセイ文化ホール(長野県松本文化会館)、まつもと市民芸術館、ザ・ハーモニーホールなど
主催	公益財団法人サイトウ・キネン財団、サイトウ・キネン・フェスティバル松本実行委員会
公演数	19公演
総事業費	約6.5億円 <sup>8</sup>
来場者数	約5.4万人

- ・SKF松本は、国内外から注目を集め、20回以上の開催を経た現在においても公式公演だけで約5万人の鑑賞者数を維持している(2014年:約5.4万人、2013年:約5.0万人、2012年:約8.8万人、2011年:8.6万人、※2013・2014年は雨天でパレードが中止)。
- ・2014年の経済波及効果は10.1億円とされている<sup>9</sup>。
- ・なおSKOは、世界で最も重視されているクラシック音楽誌の1つである「Gramophone」において世界の優れた20のオーケストラの1つに選出されている。
- ・また、松本市は2003年に制定した「文化芸術振興条例」のなかでSKF松本を「地方色を保ちながら松本市の名を世界に発信していく<sup>10</sup>」存在として期待している。

<sup>7</sup> 2015年からはセイジ・オザワ松本フェスティバルと改称予定である。

<sup>8</sup> 2015/02/24 朝日新聞

<sup>9</sup> 松本市「サイトウ・キネン・フェスティバル松本 2014 経済的及び文化的効果算出調査報告書」

<sup>10</sup> 松本市松本市文化芸術振興基本方針(本文)

## (5)アーカスプロジェクト

## 概要と主な成果

- 茨城県守谷市にて 1994 年より毎年実施されているアーティスト・イン・レジデンスプログラム。
- 公募により 3 名を選定し、8 月～12 月まで滞在制作を行っている。
- 世界的知名度も高く、2014 年は世界 78 ヶ国・地域から 640 名の応募があった(選考の倍率は 200 倍以上)。
- アーカスプロジェクトでこれまでに招聘したアーティストの半数以上が、日本に再来日しており、守谷や日本のファンを国外に作ることに成功している。

- ・ 茨城県守谷市は、人口約 6.5 万人の都市である。
- ・ 茨城県では「国際性と芸術をキーワードとし、かつ先進性を兼ね備えた新しい施策の展開を図るため<sup>11)</sup>」、1994 年より守谷市にて「アーティスト・イン・レジデンスプログラム」をプレ事業として実施した。
- ・ 本事業は、内外の専門家や地域住民の関心と呼ぶとともに、若手アーティストの育成プログラムとして成果をあげ、2000 年から「アーカスプロジェクト」として本格的に始動した<sup>12)</sup>。
- ・ 現在、このプロジェクトは茨城県と守谷市が中心となって運営されている。

図表・7 アーカスプロジェクト(2014 年)の概要

滞在期間	2014 年 8 月 26 日～12 月 3 日 (10 月 11 日～10 月 12 日は一般公開)
会場	アーカススタジオ (もりや学びの里内)
主催	アーカスプロジェクト実行委員会 (茨城県、守谷市、財団法人茨城県国際交流協会)、茨城県南芸術の門創造会議 (茨城県、取手市、守谷市、東京藝術大学、取手アートプロジェクト実行委員会、アーカスプロジェクト実行委員会)
参加作家数	3 人 (応募 640 人 (78 ヶ国・地域))

- ・ アーカスプロジェクトでは、2003 年度から公募によって世界中からアーティストを招聘し、長期滞在用のスタジオと住居を提供している。制作の過程では地域との交流の機会も生まれている。
- ・ 1994～2013 年度の間に 28 ヶ国・地域から 88 名を招聘している。
- ・ 招聘した作家のうち 50 名以上が再来日を果たしている<sup>13)</sup>。

## (6)国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ

## 概要と主な成果

- 沖縄市で 2005 年から実施されている児童・青少年向けの演劇フェスティバル。
- 2014 年は東京都、那覇市も会場となり、15 ヶ国の 29 作品を上演し、約 1.3 万人を動員した。
- 児童・青少年向けの演劇フェスティバルとしてはアジア最大規模となっている。

- ・ 「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ」は 1994 年に沖縄本島中部の市町村を開催地として実施され、2005 年からは会場を沖縄市に絞って再開され、毎年夏に開催されてきた。

<sup>11)</sup> アーカス Web サイト<sup>12)</sup> アーカス Web サイト<sup>13)</sup> アーカス Web サイト



- ・「国境と言葉を超えた文化交流と共感の創出」を目的とし、「優れた文化芸術との出会いが、子どもと大人の感性を磨き、家庭や地域のコミュニティの再生をうながし、多くの国々の人々との友情の輪をさらに広げていくこと<sup>14)</sup>」を目指している。
- ・2013年までは「キジムナーフェスタ」の愛称で沖縄市と民間4団体（エーシーオー沖縄（芸術文化協同機構）、NPO法人ITF沖縄、NPO法人沖縄県芸術文化振興協会、沖縄市「文化芸術による創造のまち」支援事業実行委員会）により開催された。
- ・2014年からは沖縄市が主催から抜け、開催場所を沖縄市のほか、那覇市と東京にも拡大して行われ、より多くの観客が鑑賞した。

図表・8 国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ2014の概要

会期	2014年7月26日～8月3日
会場	沖縄県・沖縄市（沖縄市民会館、沖縄市民小劇場あしびなーなど）、那覇市、東京都
主催	エーシーオー沖縄（芸術文化協同機構）、NPO法人ITF沖縄、NPO法人沖縄県芸術文化振興協会、沖縄市「文化芸術による創造のまち」支援事業実行委員会
作品数	15ヶ国29作品
鑑賞者数	約1.3万人
総事業費	約8千万円 <sup>15)</sup>

- ・2014年は15ヶ国から29作品を上演し、約1.3万人を動員。児童・青少年向けの演劇フェスティバルとしてはアジア最大規模となっている。

## （7）札幌国際短編映画祭

### 概要と主な成果

- 北海道札幌市にて2006年より毎年実施されているショートフィルムに特化した映画祭。
- 世界より作品を募集し、表彰を行うとともに、応募作品を売買できる国内唯一のショートフィルムのマーケットも備えていることが特徴である。
- 第9回には世界95の国と地域から3,016作品の応募があり、映画祭は2014年10月8日～13日（6日間）に実施され、受賞作品約200本が上映された。
- 作品の9割以上が国外（フランス、ドイツ、韓国など）からの応募となっており、国際的な知名度も高い。

- ・札幌市では、2006年より映像産業の振興、映像教育、文化振興、シティプロモート、国際交流、地域振興などを目的として札幌国際短編映画祭が実施されている。
- ・本映画祭は、短編映画を対象としている点に特徴がある。また、応募作品の売買の場も設けられており、国内唯一のショートフィルムのマーケットとして機能している。

図表・9 第9回札幌国際短編映画祭の概要

会期	2014年10月8日～10月13日（6日間）
会場	札幌プラザ2・5など
主催	SAPPORO ショートフェスト実行委員会、札幌市
上映数	約200本

<sup>14)</sup> 国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ公式 Web サイト

<sup>15)</sup> 2014/06/03 朝日新聞

- ・札幌国際短編映画祭の知名度は向上しており、2014年には世界95の国と地域から3,016作品の応募があった。また、日本からの応募が243本に対して、フランス（462本）、ドイツ（222本）、韓国（198本）など、全体の9割以上が国外からの応募となっており、国際的な知名度も高い。

### （8）東川町国際写真フェスティバル

#### 概要と主な成果

- 北海道東川町にて、1985年から毎年実施されている写真フェスティバル。これまで31回実施されている。
- 第31回は2014年8月4日～9月2日の約1ヶ月間（メイン会期は6日間）に実施され、人口約8千人の東川町に約5千人が来場した。
- 同時開催される写真甲子園には、全国の高校の約1割にあたる約500校から作品の応募があった。
- 日本で最も存在感のある写真のフェスティバルとなっている。

- ・東川町は人口約8千人の、豊かな自然に囲まれた町である。東川町の自然は、多くの写真の被写体となってきており、「この美しい環境を後世のために守り育てながら、人々がいきいきと暮らす町であり、住民でありたい<sup>16)</sup>」との思いから、1985年に、全国でも類を見ない「写真の町宣言」を行い、第1回東川町国際写真フェスティバルを開催した。
- ・東川町国際写真フェスティバルは、毎年夏の約1ヵ月間に実施され、国内外のトップレベルの写真家を顕彰する「写真の町東川賞」を中心に写真展やシンポジウム、ワークショップなど様々な事業が実施されている。2014年の会期中には約5千人が来場した。

図表・10 第31回東川町国際写真フェスティバル

会期	2014年8月4日～9月2日 (メイン会期：8月4日～8月9日(6日間))
会場	北海道東川町
主催	東川町写真の町実行委員会 (東川町、東川町観光協会、東川町農業協同組合、東川町商工会など)
来場者	約5千人

- ・同時開催される写真甲子園も、事業の目玉の1つとなっている。写真甲子園は、全国の高校写真部・サークルを対象とし、1チーム3名による団体戦で技術力・表現力、創造性を競う。高校生にとっての最大の写真の大会として定着し、2014年には521校の応募があった（全国の高校の数は約5千校）<sup>17)</sup>。

<sup>16)</sup> 東川町国際写真フェスティバル Web サイト

<sup>17)</sup> 創造都市ネットワーク日本 Web サイト

## (9) ゆうばり国際ファンタスティック映画祭

## 概要と主な成果

- 北海道夕張市にて 1990 年から毎年実施されている SF、ホラー、ファンタジー、アドベンチャー、アクション、サスペンスなどを対象とした映画祭。これまで 25 回開催されている。
- 第 25 回は 2015 年 2 月 19 日～23 日(5 日間)に実施され、人口約 9 千人の夕張市に約 1.4 万人が来場した。
- また、映画関係者が多く訪れることから、ロケ地として夕張が選択される機会が増えており、映画の街としての夕張の知名度の向上に貢献している。

- ・夕張市は、過去に炭鉱町として栄え、ピーク時には人口 10 万人を数えたが、炭鉱閉山後は約 9 千人にまで減少している。
- ・観光資源にも乏しいことから、1990 年に、竹下登内閣の「ふるさと創生資金」の 1 億円を元手としてゆうばり国際ファンタスティック映画祭が開催された<sup>18</sup>。
- ・映画祭はこれまでに 25 回実施されている。
- ・映画祭の目的は、「まだ見ぬ新しい才能の発見・育成や、映画による世界各国間の文化交流・相互理解の促進を通じて、市民、映画人、観客の三者のコミュニケーションによる出会いの場を映画祭が提供すること<sup>19</sup>」であり、コンペティションの充実に取り組んでいる。
- ・元々、夕張市内には多くの映画館が軒を連ねており、また、夕張市がロケ地となった映画「幸福の黄色いハンカチ」のラストシーンにたなびく黄色いハンカチが市民のアイデンティティとなっていたことが映画祭開催の土壌となった。
- ・ゆうばり国際ファンタスティック映画祭は、SF、ホラー、ファンタジー、アドベンチャー、アクション、サスペンスなどのジャンルを対象とし、毎年 2 月下旬に 5 日間行われ、長短編合わせて 100 本以上の娯楽性あふれる映画を上映している。

図表・11 第 25 回ゆうばり国際ファンタスティック映画祭の概要

会期	2015 年 2 月 19 日～2 月 23 日 (5 日間)
会場	ゆうばりホテルシュエパロ、夕張市内会場
主催	ゆうばり国際ファンタスティック映画祭実行委員会、 NPO 法人ゆうばりファンタ
動員	約 1.4 万人

- ・2015 年度の映画祭の来場者数は約 1.4 万人であった。
- ・また、映画祭を通して、多くの映画関係者が夕張を訪れることにより、夕張の風景などが記憶に残り、ロケ地として夕張が選択される機会が増えているという<sup>20</sup>。映画のまちとしての夕張市の知名度の向上に貢献している。

<sup>18</sup> 児玉徹「湯布院映画祭—その自律的な文化情報発信装置としての機能について—」

<sup>19</sup> ゆうばり国際ファンタスティック映画祭 Web サイト

<sup>20</sup> 北海道開発協会「開発こうほう」(2005 年 8 月号)

## (10)山形ドキュメンタリー映画祭

### 概要と主な成果

- 山形市にて 1989 年より 2 年に 1 度実施されている、ドキュメンタリー作品に特化した世界的にもユニークな映画祭。これまで 13 回実施されている。
- 2013 年の映画祭は 10 月 10 日～17 日(8 日間)に実施され、約 2.2 万人が来場した。123 の国と地域から 1,761 本の作品の応募があった。
- アムステルダム国際ドキュメンタリー映画祭、ニヨン映画祭と並び、世界の 3 大ドキュメンタリー映画祭と呼ばれている。

- ・ 1989 年に、山形市の市制 100 周年を記念する行事として、山形国際ドキュメンタリー映画祭が開催され、以後、2 年に 1 度実施されている。これまでに 13 回開催されている。
- ・ 長く市の事業として実施されてきたが、2006 年に任意団体だった実行委員会を NPO 法人化し、2007 年より自主運営になっている。なお、山形市は事業への補助という形で支援している(2012 年・2013 年あわせて 1.5 億円)。
- ・ 山形国際ドキュメンタリー映画祭は、ドキュメンタリー作品に特化した、世界的にもユニークな映画祭である。映画祭では、世界中から先鋭のドキュメンタリー映画を募集し、プレゼンテーションを行う。
- ・ 第 13 回は 2013 年 10 月 10 日～17 日(8 日間)に実施された。
- ・ 山形国際ドキュメンタリー映画祭は、国内外から多くの映画ファンが訪れるイベントとなっており、2013 年の映画祭では 123 の国と地域から 1,761 本の作品の応募があり、約 2.2 万人が訪れている。
- ・ 山形国際ドキュメンタリー映画祭は、アムステルダム国際ドキュメンタリー映画祭、ニヨン映画祭と並び、世界の 3 大ドキュメンタリー映画祭と呼ばれている。

図表・12 第 13 回山形ドキュメンタリー映画祭の概要

会期	2013 年 10 月 10 日～10 月 17 日(8 日間)
会場	山形市内の映画館、公民館など
主催	認定 NPO 法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭
動員	約 2.2 万人

## (11)パシフィック・ミュージック・フェスティバル

### 概要と主な成果

- 北海道札幌市にて 1990 年より毎年開催されている国内外の若手音楽家の育成を目的とした国際教育音楽祭。
- オーディションによって選ばれた若手音楽家が世界中から札幌に集まり、著名な音楽家から約 1 カ月間、集中的に指導を受ける。
- 2014 年は、1,351 人から選抜された 26 ヶ国・地域の 122 人が参加し、受講生と講師による演奏会が 7 月 12 日～8 月 7 日に開催された。
- これまでに PMF で学んだ音楽家は、世界 70 ヶ国・地域から延べ 3 千人を超え、修了生の多くが各地の主要なオーケストラに所属するなど、プロの音楽家として活躍している。

- ・パシフィック・ミュージック・フェスティバル（Pacific Music Festival : PMF）は、アメリカ出身の指揮者、作曲家である故レナード・バーンスタイン氏の提唱によって1990年に創設された国際教育音楽祭である。
- ・教育者としても知られるバーンスタインは、1988年に北京と上海で音楽祭を開催する計画を進めたが<sup>21</sup>、1989年の天安門事件を受けて中国での開催が中止されたことから、急遽、北海道が候補地に挙がり、札幌市の迅速な対応により開催に至った。
- ・PMFは、若手音楽家を育成する「PMF アカデミー」を中核とする教育事業と、アカデミー生や教授陣による演奏会事業、音楽普及事業の3部門から構成される。
- ・PMF アカデミーでは、毎年1千人を超える応募者の中からオーディションによって選ばれた若手音楽家が世界各国から札幌に集まり、世界的に著名な音楽家から約1ヵ月間、集中的に指導を受ける。
- ・PMFではアカデミー生の経済的負担を減らし、あらゆる若手音楽家に参加の機会を提供するために、旅費、滞在費、指導料を含む会期中に係る費用のほとんどを主催者側で負担している。
- ・演奏会事業では、アカデミー生により編成される「PMF オーケストラ」を中心に、室内楽公演やGALAコンサート、野外での「ピクニックコンサート」などが行われる。

図表・13 パシフィック・ミュージック・フェスティバル 2014 の概要

会期	2014年7月12日～8月7日
会場	札幌コンサートホール Kitara、札幌芸術の森など
主催	公益財団法人パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会
公演数	約50公演
総事業費	約6.7億円

- ・2013年の演奏会の入場者は約3.7万人にのぼる。
- ・2014年は受験者総数1,351人から選抜され、26の国と地域から122人のアカデミー生が参加。
- ・これまでにPMFで学んだアカデミー生（PMF修了生）は、世界70ヶ国・地域から延べ3千名を超え<sup>22</sup>、修了生の多くが各地の主要なオーケストラに所属するなど、プロの音楽家として活躍している。

### 2-3. 観光産業の振興

ここでは観光産業の振興に貢献した事例を「観光地への新たな魅力の付加」と「観光地としての魅力の新生」の2つに分けて記述している。

「観光地への新たな魅力の付加」では、既に観光地として高く認知されているが、観光客の減少、観光客の高齢化、観光客の固定化、平均滞在日数の低下などの問題に対処するために、文化芸術によって新たな魅力を付加しようとし、それに成功した取り組みを取り上げている。具体的には、「(1) 十和田市現代美術館」、「(2) 金沢 21 世紀美術館」、「(3) 別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」」、「(4) 六甲ミーツ・アート」、「(5) アース・セレブレーション」、「(6) 富士山河口湖音楽祭」などを取り上げている。

<sup>21</sup> 久保田慶一「音楽祭の社会史」

<sup>22</sup> パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会 Web サイト

また、「観光地としての魅力の新生」では、元々は観光地として知名度が低かった場所を、文化芸術によって観光的魅力を新しく創造しようとし、それに成功した取り組みを取り上げている。具体的には「(1) たざわこ芸術村」、「(2) 瀬戸内国際芸術祭」、「(3) 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」、「(4) 中房総国際芸術祭 いちはらアート×ミックス」、「(5) 富山県利賀の演劇によるまちおこし」などを取り上げている。

### 1) 観光地への新たな魅力の付加

#### (1) 十和田市現代美術館

##### 概要と主な成果

- 青森県十和田市にて 2008 年に開館した、現代美術に焦点をあてた美術館。
- 33 組のアーティストによる 38 点の恒久設置作品が展示されている。
- 人口約 6.4 万人の十和田市において、美術館には年間約 14 万人の人々が訪れている。
- 従来から、十和田市には十和田湖・奥入瀬溪流があり多くの観光客が訪れていたが、40 代以上や男性の割合が高かった。十和田市現代美術館の来場者は 20 代・30 代や女性の割合が高く、十和田市が取り込めていなかった客層を惹きつけている。

##### 取り組みの背景

- ・十和田市は青森県の南部に位置する人口約 6.4 万人の町である。市には奥入瀬川が通り、また、十和田湖に面している。特別名勝及び天然記念物に指定されている奥入瀬溪流は人気の観光地であり、2013 年には約 97 万人が訪れている。
- ・十和田市の町の中心を、官庁街通り（駒街道）とよばれる総延長 1.1km の通りが貫いている。近年では、人口減少に加え、中央省庁の再編や市の合同庁舎の整備による出先機関の閉鎖により官庁街通りには空地が見られるようになっていた。
- ・十和田市では 2001 年よりこれらの空地の活用方法の検討を行い、2004 年に「野外芸術文化ゾーン基本構想」を策定し、官庁街通りにおけるアート作品の設置、アートセンターの整備、アートイベント（街中展覧会）の実施を計画した。

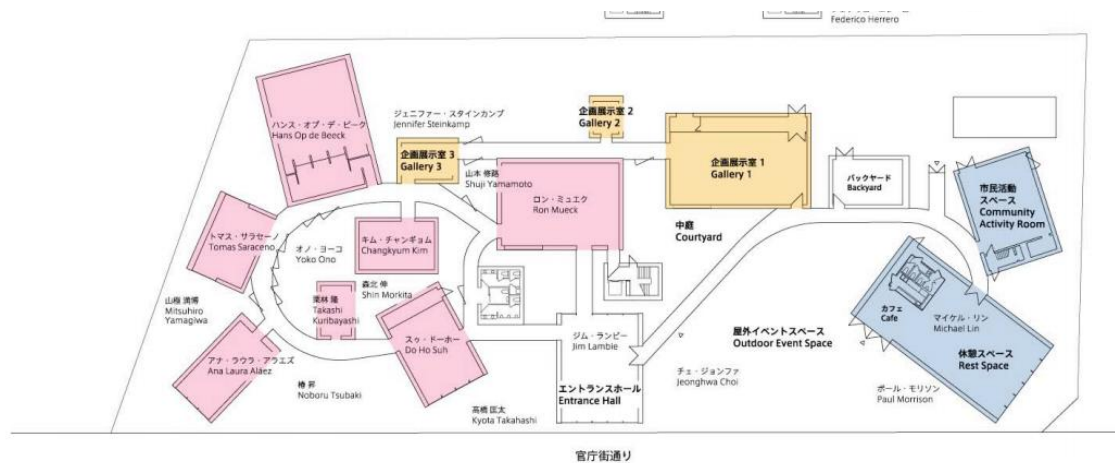
##### 取り組みの内容

- ・Arts Towada の中核となる十和田市現代美術館は西沢立衛氏により設計され、2008 年に開館している。
- ・常設展では十和田市現代美術館でしか見ることのできない、33 組のアーティストによる 38 点の恒久設置作品が展示され、そのほか企画展のスペースやカフェなども備えている。
- ・また、アート広場やストリートファニチャーも含め Arts Towada 全体は 2010 年に完成している。
- ・Arts Towada の整備に係る事業費は 23.7 億円<sup>23</sup>とされている。

<sup>23</sup> 2010/05/27 日本経済新聞



図表・14 十和田市現代美術館のフロアプラン



出所) 十和田市現代美術館「プレスリリース」(2007年12月)



### 取り組みの成果

- ・開館の年である2008年(4月~12月)には約14.7万人が、2009年には約18.6万人が来館した。東日本大震災後は東北への観光客数が落ち込んだため、十和田市現代美術館の来館者数も減少しているが、それでも14万人前後で推移している。

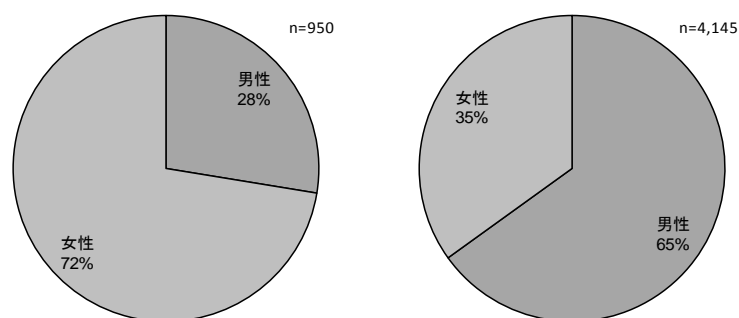
図表・15 十和田市現代美術館の来館者数(万人)

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
来館者数	14.7	18.6	17.6	14.1	13.4	14.1

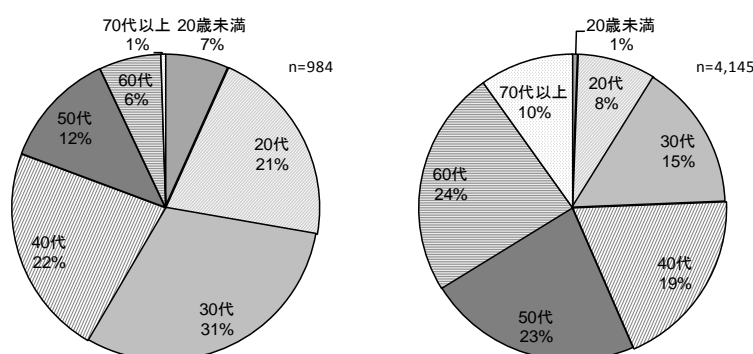
出所) 青森県観光国際戦略局「青森県観光入込客統計」

- ・十和田市現代美術館が2012年に実施した来館者アンケートによると、来館者の72%が女性、59%が30代以下であり、青森県の県内観光施設よりもこれらの割合が多いことがわかる（図表・16、図表・17）。
- ・また、56%が県外からの来館である。十和田湖・奥入瀬を訪問済・訪問予定であるとする割合は31%にとどまり、十和田市現代美術館を目的として十和田を訪問している方々も多いと推測される（図表・18）。

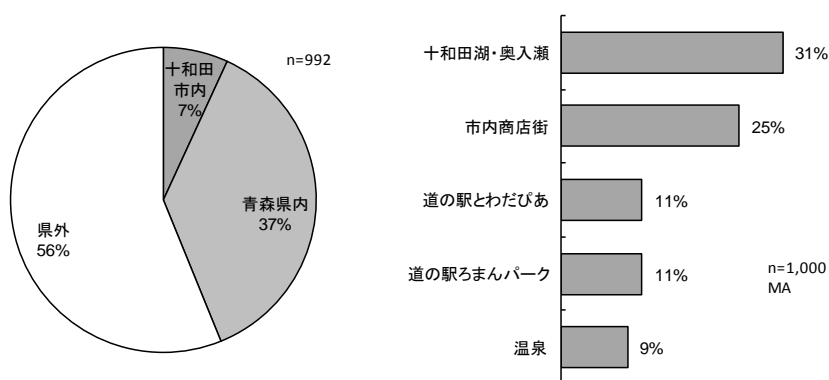
図表・16 来訪者の性別（左：十和田市現代美術館、右：青森県の観光施設）



図表・17 来訪者の年代（左：十和田市現代美術館、右：青森県の観光施設）



図表・18 十和田市現代美術館の来館者の居住地（左）・その他の訪問地（右）



※十和田市現代美術館「来館者 アンケート調査結果」、  
青森県観光国際戦略局「平成25年度 青森県観光入込客統計」を基に野村総合研究所作成。



## (2)金沢 21 世紀美術館

## 概要と主な成果

- 石川県金沢市にて 2004 年に開館した、建築、現代美術、工芸に焦点を当てた美術館。
- 美術館には展覧会ゾーン(有料)のほか、22 時まで開館している交流ゾーン(無料)も設けられ、市民が気軽に立ち寄ることができる。
- 人口約 46 万人の金沢市において年間約 150 万人の人々が訪れている。
- 金沢 21 世紀美術館の建設費・用地取得費は約 190 億円、作品購入費は約 30 億円とされている。開館 1 年目の金沢市への経済波及効果は約 328 億円と算出された。
- また、来訪者は金沢市の観光名所である兼六園の約 170 万人に次いで多く、新たな主要観光名所となっている。

## 取り組みの背景

- ・ 金沢市は人口約 46 万人の石川県の県庁所在地である。兼六園、金沢城、長町武家屋敷跡、茶屋街など観光資源も豊富な街である。
- ・ 金沢市では、1995 年 5 月に市内中心部にあった金沢大学附属小中学校の移転に伴う跡地などの活用に係る都心地区整備構想検討委員会を設置し、委員会の議論の内容を受ける形で、1995 年 12 月に美術館の建設を決定した。
- ・ 金沢市には既に古美術や近代美術に焦点をあてた石川県立美術館が存在するため、新たな美術館は現代美術に焦点をあてることとされ、2004 年 10 月に金沢 21 世紀美術館がオープンしている。

## 取り組みの内容

- ・ 美術館建築は、妹島和世氏と西沢立衛氏からなる建築ユニット SANAA によって設計され、「まちに開かれた公園のような美術館」をコンセプトとしている。美術館の 3 方向が道路に面していることから、美術館は正面のない円形をとり、どの道路からも美術館に入ることができるように 5 つの入口を設けている。この建築は、ベネチア・ビエンナーレ国際建築展展示部門「金獅子賞」受賞し、美術館オープン前から話題となった。

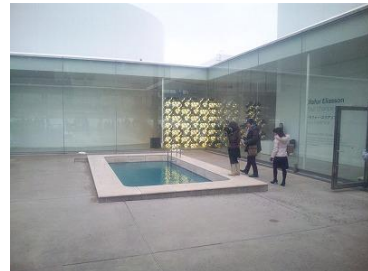
美術館外観①



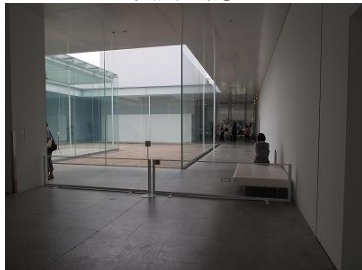
美術館外観②



美術館内観①



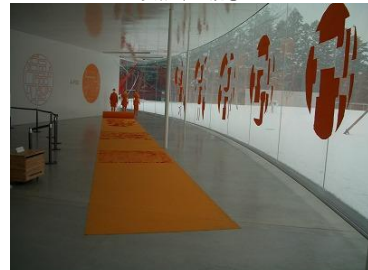
美術館内観②



美術館内観③



美術館内観④

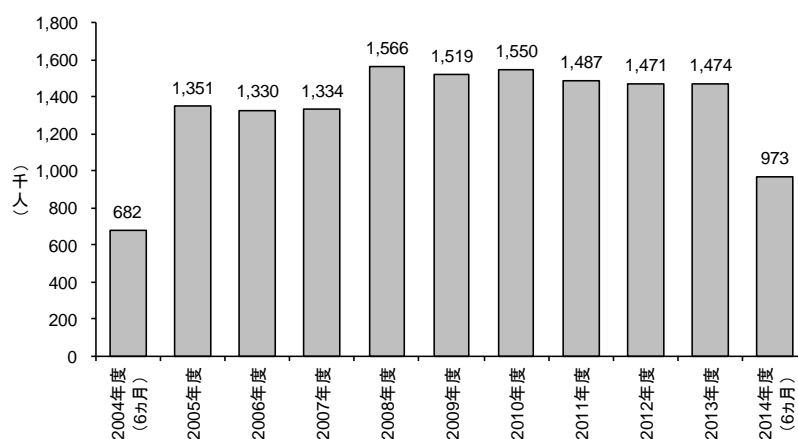


- ・美術館は、中心部の展覧会ゾーン（有料）の周りに交流ゾーン（無料）が設けられ、交流ゾーンの開館時間は9時～22時となっており、市民が気軽に立ち寄ることができる。
- ・特に子供や大人が参加・体験して楽しめる作品を多く揃えており、また、開館当初は金沢市内の小学4年生全児童を招待するプログラム「ミュージアム・クルーズ」を実施していた。

### 取り組みの成果

- ・金沢21世紀美術館の建設費は約113億円、用地取得費は約77億円、作品購入費が約30億円とされている<sup>24</sup>。美術館には開館の年である2004年度（9月～翌年3月）には約68万人が、2008年度には約157万人が来館した。その後も150万人前後で推移している。
- ・また、その数は金沢市の観光名所である兼六園の約170万人に次いで多くなっており（金沢城公園、県立美術館を上回っている）、新たな主要観光名所となっている<sup>25</sup>。
- ・開館1年目の金沢市への経済波及効果は、約328億円と算出された。

図表・19 金沢21世紀美術館の入館者数の推移



出所) 金沢21世紀美術館Webサイトを基に野村総合研究所作成

### (3) 別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」

#### 概要と主な成果

- 温泉の町として有名な大分県別府市で2009年から3年に1回実施されているアート・プロジェクト。これまでに2回実施されている。
- 文化庁、大分県、別府市などの支援をもとにNPO法人のBEPPU PROJECTが運営を行っている。
- 2012年の第2回は10月6日～12月2日(58日間)に実施され、人口が約12万人の別府市に、約11.7万人が訪れた。事業費は約1.2億円であった。
- 別府市では、観光客の高齢化(30代以下は約4割)、日帰り客の増加などが課題となっていたが、「混浴温泉世界」の来場者は30代以下が約7割を占め、また、九州以外からの来場者が約4割を占めるなど、これまでとは異なる客層の取り込みに貢献している。

<sup>24</sup> 2014/10/16 朝日新聞

<sup>25</sup> 平成25年の観光施設別利用者数は、兼六園が約170万人、金沢21世紀美術館が約148万人、金沢城公園が約101万人、県立美術館が約51万人であった。(金沢市経済局観光交流課「金沢市観光調査結果報告書(平成25年)」)

### 取り組みの背景

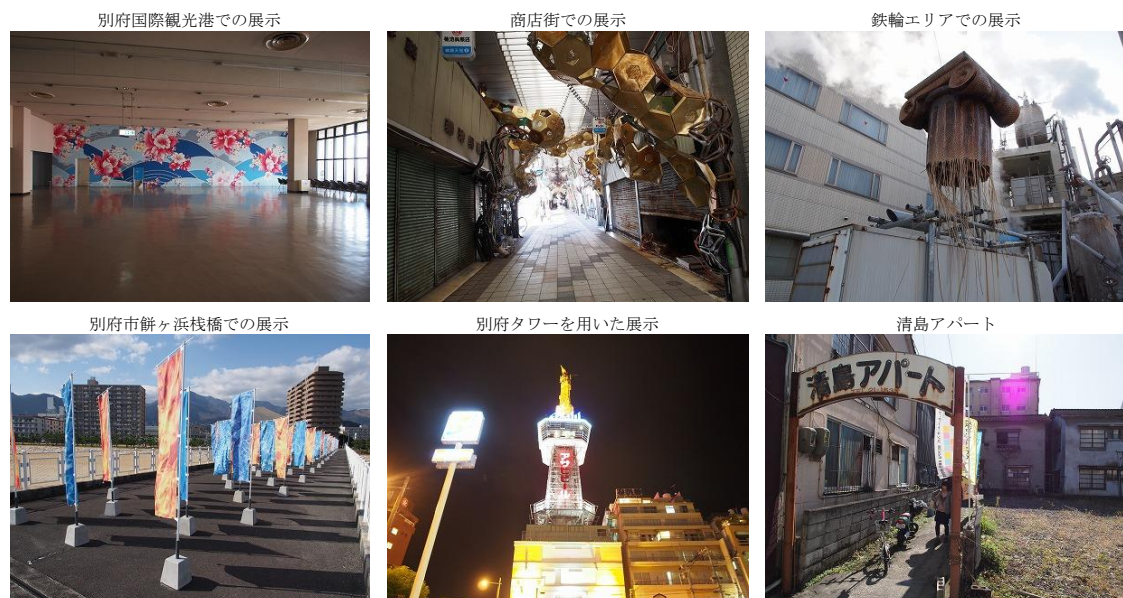
- ・大分県別府市の人口は約12万人であり、大分県で2番目に人口の多い都市である。豊かな温泉資源を持ち、源泉数、湧出量は日本で最大である。毎年約1,200万人の観光客が訪れ、約400万人が宿泊している。
- ・1975年以降別府市の観光客の合計は約1,200万人で推移しているが、日帰り客が増加し、宿泊客が減少しており、これまでとは異なった層を取り込むための魅力の発信が課題となっている。
- ・大分市出身のアーティスト山出淳也氏は、2005年に別府で国際芸術フェスティバルを開催することをmanifestoに掲げ BEPPU PROJECT を立ち上げた（設立時は任意団体、2006年にNPOの認定を受けている）。

### 取り組みの内容

- ・「別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」」（以下、混浴温泉世界）は、2009年から3年に1回の頻度で実施されており、BEPPU PROJECTを中心とした実行委員会方式で実施されている。
- ・2012年の混浴温泉世界では、別府市内各所で別府の特徴を活かした展示を行った。事業費は約1.2億円で、国庫補助金（文化庁）から約5,500万円、大分県から約1,000万円、別府市から約500万円が拠出されている。

図表・20 混浴温泉世界 2012 の概要

会期	2012年10月6日～12月2日（58日間）
会場	大分県別府市内各所 （中心市街地／浜脇エリア／鉄輪エリア／別府国際観光港エリア）
主催	別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会
作品数	8つのアート・プロジェクト
総事業費	約1.2億円
来場者数	約11.7万人

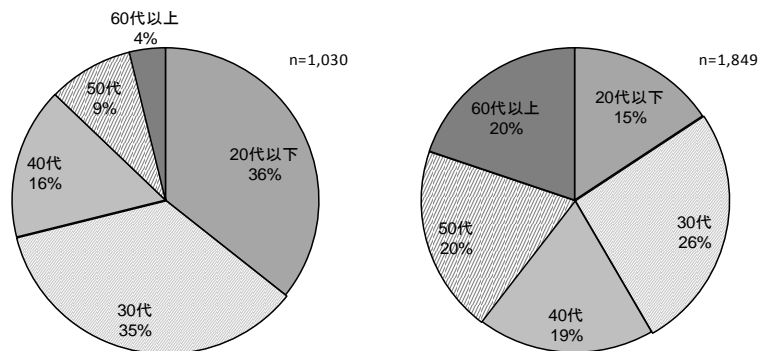


- ・また、2010 年からは毎年同時期に、ベップ・アート・マンスとよばれる事業を行っている。混浴温泉世界では国内外の一流のアーティストの作品を展示しているが、ベップ・アート・マンスでは、文化芸術に取り組む団体や個人を対象とし、別府市内であれば事前に申し込みを行うことで、どこでも作品展示やパフォーマンス開催が可能である。
- ・そのほか、中心市街地の空き店舗を、アートのスペース、アートギャラリー、カフェなどとして活用する platform 事業や、終戦直後に建てられた元下宿アパートをアーティストの制作場所兼発表場所とした「わくわく混浴アパートメント」の運営なども行っている。

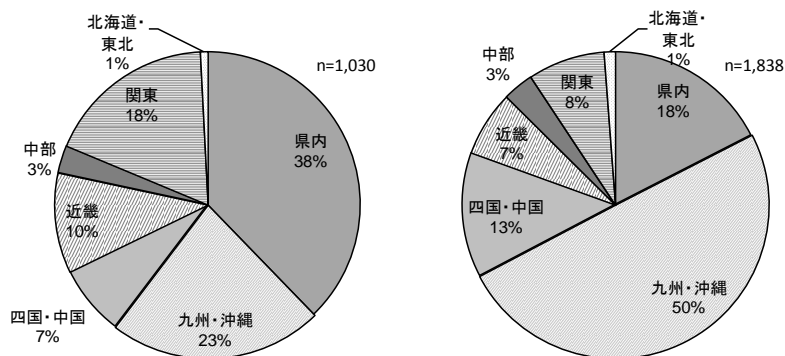
### 取り組みの成果

- ・2012 年の混浴温泉世界の来場者数は 11.7 万人であり、共通鑑賞券の販売は 7,676 枚であった。
- ・毎年、1,200 万人が訪れる別府においては多くはない数であるが、来訪者の年代（図表・21）をみると、別府市の観光客の年代よりも 20 代以下・30 代の割合が高いことが分かる。
- ・また、九州・沖縄以外の来場者割合が約 4 割と多いことがわかる（図表・22）。これらをみると混浴温泉世界は従来別府市を訪問していた人々とは異なる層を惹きつけていると考えられる。

図表・21 来訪者の年代（左：混浴温泉世界（2012 年）、右：別府市）



図表・22 来訪者の居住地（左：混浴温泉世界（2012 年）、右：別府市）



出所) 別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会「別府現代芸術フェスティバル2012「混浴温泉世界」事業報告書、大分県企画振興部観光・地域振興局「平成 22 年度大分県観光実態調査報告書」を基に野村総合研究所作成



## (4)六甲ミーツ・アート

## 概要と主な成果

- 2010 年から観光地である六甲の魅力を向上させるために民間企業が実施しているアート・プロジェクト。これまで5回実施されている。
- 2014 年の第5回は9月13日～11月24日(71日間)に実施され、42人・組の作家が参加し、9つの会場に37点の現代美術の作品が展示された。
- 2010 年の第1回の会期中には、前年同期に比べ約7万人多い約36万人が同エリアに来場した。
- また、六甲では若年層の取り込みや、公共交通機関の利用者の増加が課題となっていたが、六甲ミーツ・アートの来場者の約5割が20代であり、公共交通機関の利用者も2割増加した。

## 取り組みの背景

- ・六甲山は兵庫県神戸市に位置する山脈である。古くから観光施設の開発が進められ「神戸市立六甲山牧場」、「六甲ガーデンテラス」、「六甲オルゴールミュージアム」、「六甲高山植物園」などが存在する。特に、「神戸市立六甲山牧場」には毎年約30万人が訪れている。
- ・六甲の各種施設を運営している阪神電気鉄道と子会社の阪神総合レジャー<sup>26</sup>は2010年より六甲の魅力を高めるために「六甲ミーツ・アート芸術散歩」を実施している。

## 取り組みの内容

- ・「六甲ミーツ・アート」はこれまで5回実施されている。
- ・2014年の第5回は「六甲ガーデンテラス」、「自然体感展望台 六甲枝垂れ」、「六甲山カンツリーハウス」、「六甲高山植物園」、「六甲オルゴールミュージアム」、「六甲山ホテル」、「六甲ケーブル」、「天覧台」、「六甲有馬ロープウェー（六甲山頂駅）」など9つを会場として、42人・組の作家が参加し、37点の現代美術の作品が展示された。
- ・作品は各会場に配置されており、訪問者はハイキングをしながら作品を見て回る。

図表・23 六甲ミーツ・アート 2014 の概要

会期	2014 年 9 月 13 日～11 月 24 日（71 日間）
会場	六甲ガーデンテラス、自然体感展望台 六甲枝垂れ、六甲山カンツリーハウス、六甲高山植物園、六甲オルゴールミュージアム、六甲山ホテル、六甲ケーブル、天覧台、六甲有馬ロープウェー（六甲山頂駅）など9ヶ所
主催	阪神電気鉄道、六甲山観光
作品数	42 人・組の作家、37 点

六甲有馬ロープウェー（六甲山頂駅）での展示



六甲山ホテルでの展示



六甲高山植物園での展示



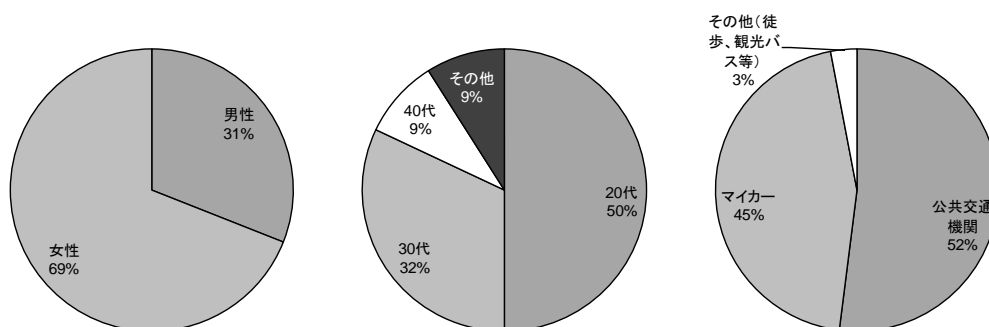
<sup>26</sup> 阪神総合レジャー(株)と六甲摩耶鉄道(株)は2013年に合併し、六甲山観光(株)に社名を変更。



### 取り組みの成果<sup>27</sup>

- ・初回となる「六甲ミーツ・アート芸術散歩 2010」の会期中には六甲ミーツ・アートの実施前である前年同期に比べ7万人増の約36万人が来場した。
- ・また、来場者の約7割が女性で、約5割が20代であった。そして、通常は、7~8割がマイカーでの来場であるが、「六甲ミーツ・アート芸術散歩 2010」では約5割が公共交通機関にて来場していた。

図表・24 「六甲ミーツ・アート芸術散歩 2010」の来場者の性別（左）・年代（中）・交通手段（右）



出所) 六甲ミーツ・アート芸術散歩発表資料を基に野村総合研究所作成

### (5)アース・セレブレーション

#### 概要と主な成果

- アース・セレブレーションは 1988 年から実施されている、「たたく」をテーマとした、文化や人の交流を通じて地球規模の絆を深める野外フェスティバルである。
- 1981 年に新潟県佐渡市に設立された太鼓芸能集団である「鼓童」により実施されている。
- 2014 年のアース・セレブレーションは、8 月 22 日～24 日(3 日間)に実施された。
- アース・セレブレーションには例年約 1 万人が来場する。また、リピーター率が高く、来場者の 20%を外国人が占めるなど、佐渡島における夏の最大規模のお祭りとして定着するとともに、国際的な発信力も有している。

#### 取り組みの背景

- ・佐渡島は日本海に浮かぶ島で新潟県の西部に位置し、その面積は東京 23 区の約 1.5 倍に相当する。2004 年に島内にあったすべての市町村が合併して佐渡市となり、現在の人口は約 5.9 万人である。

<sup>27</sup> 阪神総合レジャー(株)「六甲ミーツ・アート芸術散歩 2010」実施結果」

- ・南西部の旧小木町には「鼓童村」があり、そこを拠点とする太鼓芸能集団「鼓童」が国際的な活動を展開している。
- ・「鼓童」の前身である「佐渡の國鬼太鼓座」は1971年に結成され、日本の伝統文化の伝承と世界への発信を目的に、太鼓をたたいて世界各地を巡回した。そして1981年にその構成員により鼓童が設立された。
- ・初代代表・河内敏夫氏は、鼓童としての出発に際して佐渡に活動拠点を置きたいという思いから「鼓童村構想」を掲げ、それを実践するために「アース・セレブレーション（EC）」の計画を推進した。
- ・旧小木町は鼓童の理念に共鳴して、鼓童村のインフラの整備やアース・セレブレーション運営を積極的にサポートした。1988年に旧小木町に鼓童村が開設し、同年に島内10ヵ市町村（当時）との共催によって第1回アース・セレブレーションが実施された。なお、1997年以降は財団法人鼓童文化財団がフェスティバルの運営を担っている。

#### 取り組みの内容

- ・アース・セレブレーションは、鼓童と佐渡市の共催による国際芸術祭で、人間にとって根源的な行為である「たたく」をテーマに、文化や人の交流を通じて地球規模の絆を深める野外フェスティバルである。
- ・メインイベントである「城山コンサート」は会期中に3日間に渡って行われる。鼓童の国内外の活動を通じて培われたネットワークに基づき、民族音楽・芸能のアーティストが世界各地から招かれて、夕方から夜にかけて佐渡の豊かな自然の中でパフォーマンスを繰り広げる。

図表・25 アース・セレブレーション 2014 の概要

会期	2014年8月22日～8月24日（3日間）
会場	佐渡太鼓体験交流館（たたこう館）など
主催	アース・セレブレーション実行委員会

#### 取り組みの成果

- ・アース・セレブレーションは25年以上の歴史をもち、例年約1万人が来場する<sup>28</sup>。
- ・リピーター率が高く、来場者の20%を外国人が占めるなど<sup>29</sup>、佐渡島における夏の最大規模のお祭りとして定着するとともに、国際的な発信力も有している。

### （6）富士山河口湖音楽祭

#### 概要と主な成果

- 山梨県富士河口湖町では、1995年に最大3,000人が収容可能な野外音楽堂である河口湖ステラシアターが整備された。
- 富士山河口湖音楽祭は指揮者・佐渡裕氏の監修のもとステラシアターを主な会場として毎年夏に行われるクラシック音楽祭である。7月から開催されるプレ・イベントを経て、8月中旬からの約2週間を主な会期とする。2014年度には約45の公演が実施された。
- 音楽祭の参加者は毎年2万人を超え、県外からも多くの来場者があり、富士河口湖町のシンボリックなイベントとして位置付けられている。

<sup>28</sup> アース・セレブレーション実行委員会「プレスリリース」（2012/06/18）

<sup>29</sup> アース・セレブレーション実行委員会「プレスリリース」（2012/06/18）

### 取り組みの背景

- ・富士河口湖町は富士の北麓に位置する。富士五湖のうちの4つの湖と、富士山麓の広大な青木ヶ原樹海と富士ヶ嶺高原を有する人口約2.6万人の町である。
- ・1995年にオープンした河口湖ステラシアターは、最大3,000人が収容可能な、古代ローマ劇場を模した半円形の野外音楽堂である。
- ・クラシック音楽祭である富士山河口湖音楽祭は、この河口湖ステラシアターを主な会場として2001年から毎年夏に行われている。
- ・2001年、佐渡氏が首席指揮者を務めるシエナ・ウィンド・オーケストラの公演の内容や会場の雰囲気に魅せられた劇場職員らは、「(仮)佐渡裕音楽プロジェクト」を立ち上げ、これが音楽祭の実現につながった。

### 取り組みの内容

- ・富士山河口湖音楽祭は、指揮者・佐渡裕氏の監修の基に実施される音楽祭で、7月から開催されるプレ・イベントを経て、8月中旬からの約2週間を主な会期としている。これまで13回実施されている。
- ・初年度は約10だったプログラムは<sup>30</sup>、2014年度には約45まで拡大した<sup>31</sup>。
- ・例年、音楽祭のフィナーレを飾るのは、佐渡氏の指揮によるシエナ・ウィンド・オーケストラである。また、「フレンドシップコンサート」というシリーズでは、全日本吹奏楽コンクールで優れた実績を収めている高校の吹奏楽部が演奏を行う。
- ・有料公演の会場にはステラシアターのほかに、河口湖円形ホールが用いられ、室内楽などの公演が行われる。また、プレコンサートや会期中のミニコンサートなどは、無料イベントとしてJRの駅や商店街、河口湖オルゴールの森美術館などの近隣施設、富士山五合目の広場など、広域的に実施されている。

図表・26 富士山河口湖音楽祭2014の概要

会期	2014年8月9日～8月23日（15日間）
会場	河口湖ステラシアター、河口湖円形ホールなど
主催	富士山河口湖音楽祭実行委員会
公演数	約45公演

### 取り組みの成果

- ・ステラシアターはオープン当初から、県外からの人々の動員ツールとなるべくポップス系コンサートを取り上げるなど、ホールの立地条件や規模を踏まえ、野外音楽堂である特長を活かした企画を模索してきた。
- ・富士山河口湖音楽祭の参加者は毎年2万人を超え<sup>32</sup>、県外からも多くの来場者があり、富士河口湖町のシンボリックなイベントとして位置付けられている。

<sup>30</sup> 野沢藤司「富士山麓の野外音楽堂「河口湖ステラシアター」～ホールを通じて町づくり、人づくり～」(音楽文化創造「音楽文化の創造 51」)

<sup>31</sup> 「富士山河口湖音楽祭2014」チラシ

<sup>32</sup> 富士河口湖町教育委員会「平成26年度富士河口湖町教育委員会点検及び評価報告書」



## 2)観光地としての魅力の新生

### (1)たざわこ芸術村

#### 概要と主な成果

- 劇団「わらび座」により 1974 年に秋田県仙北市にわらび劇場が設立された。
- わらび劇場では、作品制作・上演、ワークショップ、貸館事業などを実施している。公演の回数は、年間 168 回を数え、小劇場を合わせると年間 300 回近い公演を行っている。
- 1996 年に、劇場のほか温浴施設、レストラン、森林工芸館などからなる「たざわこ芸術村」を形成。
- 修学旅行などの受け入れ事業にも注力しており、わらび劇場は、年間延べ 25 万人もの利用客が訪れる一大集客施設となっている。

#### 取り組みの背景

- ・ 1951 年に東京にて「民謡で戦後荒廃した日本人の心を癒したい」という理念の下、プロの劇団として、わらび座の前身となる「海つばめ」が設立された<sup>33</sup>。「海つばめ」は 1953 年に秋田に拠点を移し、劇団の名称を「わらび座」と改めた。
- ・ わらび座が活動が続ける中で、劇団員の間には専用劇場設立の要望が高まり、募金などの地道な活動が続け、1974 年に秋田県仙北市にわらび劇場が誕生した。

#### 取り組みの内容

- ・ 現在、わらび劇場では、作品制作・上演、ワークショップ、貸館事業などを実施している。公演の回数は、年間 168 回を数え、小劇場での公演を合わせると年間 300 回近い公演を行っている。これは、劇団四季、宝塚歌劇団に次ぐ公演回数である<sup>34</sup>。
- ・ また、公演のみならず、出演者によるワークショップ、交流会、バックステージ体験、文化公園化、観光物産展など、アウトリーチ事業にも力を入れている。
- ・ 劇場の運営主体である(株)わらび座は、1996 年に、リゾートエリアである「たざわこ芸術村」を形成し、温浴施設、レストラン、森林工芸館などの経営も行っている。
- ・ わらび座の取り組みは、単に「わらび劇場」における演劇の提供のみによるのではなく、たざわこ芸術村として、文化・芸術を面的に展開させ、地域全体のブランディングを成功させた点に特徴がある。

#### 取り組みの成果

- ・ 現在、わらび劇場は、年間延べ 25 万人もの利用客が訪れる一大集客施設となっている。
- ・ また、1977 年以降、修学旅行などの受け入れ事業にも注力しており、観劇のみならず、生徒自身による、活動の発表会や交歓会の会場としても活用されている<sup>35</sup>。

<sup>33</sup> 政策研究大学院大学「GRIPS 文化政策ケース・シリーズ たざわこ芸術村 劇団わらび座 わらび劇場」

<sup>34</sup> 小島克昭「劇団四季、宝塚に次ぐ動員力 地域劇団・わらび座の経営ノウハウ」(「事業構想」2014 年 9 月号)

<sup>35</sup> 政策研究大学院大学「GRIPS 文化政策ケース・シリーズ たざわこ芸術村 劇団わらび座 わらび劇場」

## (2)瀬戸内国際芸術祭

## 概要と主な成果

- 2010年より瀬戸内海の島・地域を舞台に、3年に1度実施されている、現代美術や舞台芸術を取り込んだ国際美術展。これまで2回実施されている。
- 第2回は2013年3月20日～11月4日の間を春・夏・秋の会期に分け、108日間開催された。
- 14の島・地域が舞台となり、26の国と地域から200組のアーティストが参加した。
- 来場者数は延べ約107万人であり、来場者の約7割が女性であった。
- 香川県内における経済波及効果は約132億円であった。また、各種メディアでの掲載・放送実績を広告費換算すると約33億円となった。
- 宿泊事業者の75%、飲食事業者及び商店街関係者の80%が芸術祭の開催効果があったと回答した。対前年比の宿泊客数は高松港周辺で10～30%、小豆島内で30%増加した。

## 取り組みの背景

- ・瀬戸内国際芸術祭は、2010年から瀬戸内海の8つの島・地域を舞台に3年に1度実施されている現代美術や舞台芸術を取り込んだ国際美術展である。これまで2回実施されている。
- ・香川県では、2003年から「アートツーリズム」を推進する取り組みを始めており、2004年には若手職員グループが、島々を舞台にした国際美術展の開催を知事に提言していたこと、また、1992年にベネッセハウス・ミュージアムを開館し、直島で活動していた直島福武美術館財団（当時）が、2005年にそれまでの活動を踏まえ、瀬戸内の島々をアートで結ぶ「瀬戸内アートネットワーク構想」を発表したことなどを背景に実施された<sup>36</sup>。

## 取り組みの内容

- ・2010年の第1回では、8つの島・地域を舞台とし、2013年の第2回では、14の島・地域に拡大した。第2回の会期中には26の国と地域から200組のアーティストとプロジェクトが参加した。
- ・第1回（2010年）は会期が7月～10月の約3ヶ月間だったが、第2回では春・夏・秋にそれぞれ1ヶ月間前後の会期を設定し、来場者の集中を避けると同時に、長期間に渡って来場者が地域を訪れるようになった。

図表・27 瀬戸内国際芸術祭 2013 の概要

会期	春：2013年3月20日～4月21日（33日間） 夏：2013年7月20日～9月1日（44日間） 秋：2013年10月5日～11月4日（31日間）
会場	直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、沙弥島、本島、高見島、栗島、伊吹島、高松港周辺、宇野港周辺
主催	瀬戸内国際芸術祭実行委員会
参加作家数	26の国と地域から200組の作家
総事業費	約10.2億円
来場者数	約107.0万人
パスポート販売枚数	約9.2万枚
パスポート価格	4,000円（一般・当日、1シーズンのみ）

<sup>36</sup> 美術出版社「瀬戸内国際芸術祭 2010」

図表・28 瀬戸内国際芸術祭 2010 の概要

会期	2010 年 7 月 19 日～10 月 31 日（105 日間）
会場	直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、高松港周辺
主催	瀬戸内国際芸術祭実行委員会
参加作家数	18 の国と地域から 75 組の作家
総事業費	約 6.9 億円
来場者数	約 93.8 万人
パスポート販売枚数	約 8.8 万枚
パスポート価格	5,000 円（一般・当日）

大島での展示



女木島での展示



男木島での展示①



男木島での展示②



小豆島での展示①



小豆島での展示②



### 取り組みの成果<sup>37</sup>

- ・第1回の来場者数は延べ約 94 万人、第2回の来場者数は延べ約 107 万人であった。
- ・各回ともに、来場者の約 7 割が女性であった。
- ・第2回に関して、新聞・テレビ・雑誌などの各種メディアで、1,699 件の掲載・放送があった。
- ・無料で掲載・放送された芸術祭関連記事を広告費換算すると約 33 億円であった  
（このうち、全国は約 8.7 億円、地方は約 5 千万円、地元ローカル（香川・岡山）は約 23.7 億円）。
- ・第1回瀬戸内国際芸術祭の香川県内における経済波及効果は約 111 億円、第2回は約 132 億円とされている<sup>38</sup>。
- ・第2回の関係者に対するアンケートの調査結果によると、宿泊事業者の 75%、飲食事業者及び商店街関係者の 80%が芸術祭の開催効果があったと回答した。高松港周辺の宿泊客数は対前年比 10~30%の増加、小豆島内では最大で対前年比 30%増となった。JR 高松駅の主な店舗の売上は対前年比 106%で推移した。
- ・また、瀬戸内国際芸術祭の開催を通じて、瀬戸内海を走るフェリーの本数は大幅に増えており、こうした点にも産業振興・観光地化における成果を認めることができる。

<sup>37</sup> 瀬戸内国際芸術祭実行委員会「瀬戸内国際芸術祭 2013 総括報告」、美術出版社「瀬戸内国際芸術祭 2010」、美術出版社「瀬戸内国際芸術祭 2013」

<sup>38</sup> 日本銀行高松支店「「瀬戸内国際芸術祭 2010」開催に伴う観光客増加による経済波及効果」、日本政策投資銀行「「瀬戸内国際芸術祭 2013」開催に伴う経済波及効果」

### (3)大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ

#### 概要と主な成果

- 新潟県越後妻有 6 エリアにおいて、2000 年から 3 年に 1 度実施されている国際美術展。これまで 5 回実施されている。
- 第 5 回は、2012 年の 7 月 29 日～9 月 17 日(51 日間)に実施され、310 組のアーティストによる 367 作品が出品された(新規は 175 組 178 作品)。
- 作品の制作・展開に参加した集落は 102 集落であった。
- 会期中の来場者数は約 49 万人であり、事業費は約 4.8 億円であった。
- 来場者の 62%が女性であり、62%が 30 代以下であった。また、新潟県外からの来場が 68%であった。
- 新潟県内に対する経済波及効果は約 46.5 億円であった。また、各種メディアでの掲載・放送実績を広告費換算すると約 14.5 億円であった。
- 約 40 の圏域業者により約 150 アイテムの土産・グッズが開発され、会期中の総売上は約 1.1 億円であった。

#### 取り組みの背景<sup>39</sup>

- ・越後妻有は、新潟県の南端に位置し、東京から電車で約 2 時間の距離にある日本有数の豪雪地帯である。東京 23 区より広い面積に、約 7.5 万人が居住している。そのうち 65 歳以上が約 3 割を占めている。
- ・大地の芸術祭は、3 年に 1 度、越後妻有 6 エリア（十日町市及び津南町、2005 年の合併前は十日町市、川西町、津南町、中里村、松代町、松之山町の 6 つに分かれていた）の里山で展開されるアート・プロジェクトである。田畑、民家、廃校・休校などを活かし、世界のアーティストたちが手掛けた作品が展示される。
- ・大地の芸術祭は、平成の市町村大合併を見据えた新潟県の政策の中で生まれた。きっかけは、当時の平山征夫知事のもとで 1994 年に策定された「ニューにいがた里創プラン」である。これは新潟県にある 122 市町村を 13 の広域圏にまとめ、その広域圏でソフト事業を行うもので、そのために 10 年間、最大 5 億円まで県が支援するという政策だった。
- ・このプランのもと、当時の十日町広域行政圏が第 1 号認定を受け、その後の様々な検討を経て、1996 年にアートを活用した地域活性化施策「越後妻有アートネックレス整備構想」が策定された。
- ・そしてこの越後妻有アートネックレス整備構想の成果を 3 年に 1 回発表する場として「大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ」が企画され、2000 年に第 1 回が開催された。

#### 取り組みの内容<sup>40</sup>

- ・2012 年に実施された第 5 回大地の芸術祭では、公募で選ばれた 67 点を含む、310 組の作家による 367 作品が出品された。そのうち 2012 年の新規及び継続展開作品は 175 組 178 作品だった。

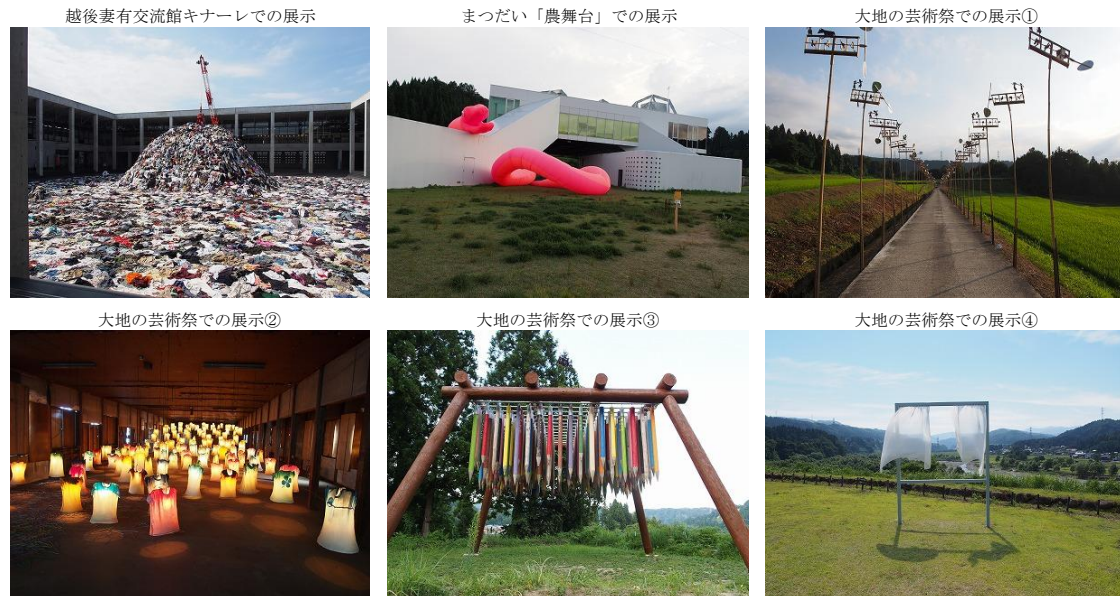
<sup>39</sup> 北川フラム「大地の芸術祭＜ディレクターズ・カット＞」及び新潟県十日町市 Web サイト

<sup>40</sup> 大地の芸術祭実行委員会「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2012 総括報告書」



図表・29 大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ 2012 の概要

会期	2012年7月29日～9月17日（51日間）
会場	越後妻有6エリア（十日町市及び津南町）
主催	大地の芸術祭実行委員会
参加作家数	310組の作家による367作品（175組178作品が新規作品）
総事業費	約4.8億円
来場者数	約48.9万人
パスポート販売枚数	約6.4万枚
パスポート価格	3,500円（一般、当日）



#### 取り組みの成果<sup>41</sup>

- ・2012年の会期中における入込者数は、約49万人となり、2009年の約38万人を11万人ほど上回る結果となった。また、作品の制作・展開に参加する集落も増加傾向にあり、2012年には102集落が参加して、公開作品数とともに過去最高を記録した。

図表・30 大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレの概要

	2000年	2003年	2006年	2009年	2012年
来場者数	16.3万人	20.5万人	34.9万人	37.5万人	48.9万人
参加集落	28集落	38集落	67集落	92集落	102集落

- ・また、来場者アンケートの結果によれば、来場者の62%が女性であり、年齢別では30代以下が62%であった。地域別来訪者数を見ると、新潟県外からの来場が68%であった。
- ・地域の情報発信に関しては、新聞285件、雑誌148件、テレビ34件、ラジオ16件、Web・メールマガジンなど42件、海外メディア27件（事務局把握分のみ）の掲載や報道があり、広告費の換算額は約14.5億円であった。
- ・新潟県内に対する経済波及効果は約46.5億円であった。
- ・土産・グッズに関しては、約40の圏域業者が参加し、約150アイテムが開発された。会期中に関連施設を中心に販売され、総売上は約1.1億円であった。

<sup>41</sup> 大地の芸術祭実行委員会「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2012 総括報告書」

#### (4)中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス

##### 概要と主な成果

- 千葉県市原市で 2014 年に始まったアート・プロジェクトで、3 年に 1 回実施されていく予定である。
- 「廃校の活用」、「小湊鐵道・乗物の活用」、「豊かな自然と食」、「アーティストの長期的な活動や異業種からの多様な人々の参加」をコンセプトに掲げ実施された。
- 2014 年の第 1 回には 13 ヶ国 66 組のアーティストが参加し、総来場者数は約 8.7 万人であった。経済波及効果は約 10.1 億円にのぼった。
- 来場者の 61%は女性であり、30 代以下が 60%を占め、47%が千葉県外から訪れていた。

##### 取り組みの背景<sup>42</sup>

- ・千葉県市原市は人口約 28 万人の町である。北部は臨海部の工業地帯で働く人々のベッドタウンとなっている。一方で、南部の農村地帯では人口減少に伴う学校の統廃合などが起こり、過疎高齢化の進行が課題となっている。
- ・「中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス」は、地方都市が抱える諸問題をアートの力で解決する「課題解決型芸術祭」というコンセプトのもと 2014 年より始められた。コンセプトは、「廃校の活用」、「小湊鐵道・乗物の活用」、「豊かな自然と食」、「アーティストの長期的な活動や異業種からの多様な人々の参加」としている。

##### 取り組みの内容<sup>43</sup>

- ・中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス 2014 には、13 ヶ国 66 組のアーティストが参加した。取り組みは「作品」、「イベント・ワークショップ」、「食プロジェクト」、「リ×ミックス商品の開発」に大別される。

図表・31 中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス 2014 の概要

会期	2014 年 3 月 21 日～5 月 11 日 (52 日間)
会場	・メイン会場：千葉県市原市南部地域 ・連携会場：中房総エリア
主催	中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス実行委員会
参加作家数	13 ヶ国 66 組の作家
総事業費	約 4.0 億円
来場者数	約 8.7 万人
パスポート販売枚数	約 1.1 万枚
パスポート価格	3,800 円 (一般・当日)

市原湖畔美術館



市原湖畔美術館での展示



湖での展示



<sup>42</sup> 現代企画室「中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス 2014」

<sup>43</sup> 中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス実行委員会「中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス 2014 総括報告書」



- ・小湊鐵道や閉校となった小学校を活用し、参加体験型の作品が多く作られた。また、現代美術の作品のみならず、パフォーミングアーツのアーティストや領域横断的なアーティストが積極的に起用された。
- ・リミックス商品の開発は、市原市を中心とするメーカーのアイテムを、新しい発想により生まれ変わらせる取り組みとして実施された。若手デザイナーへの指名制公募を行い、選考されたデザインを基にデザインパッケージを施し、11品目（約30種類）にのぼる新たなアイテムを創出した。会期終了後も本プロジェクトで誕生した「いちはら名産品」を各生産者が販売しており、一過性ではない地域活性化の取り組みが図られている。

#### 取り組みの成果<sup>44</sup>

- ・会期中の総来場者数は約8.7万人であった。
- ・アンケートによると、来場者の61%は女性であり、年齢別では30代以下が60%を占め、来場者の47%が千葉県外から市原市を訪れていた。
- ・中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス2014の経済波及効果は約10.1億円にのぼる。

### (5)富山県利賀の演劇によるまちおこし

#### 概要と主な成果

- 富山県利賀村(現・南砺市)では、1976年から演出家鈴木忠志氏の協力のもと合掌劇場「利賀山房」や野外劇場などを整備。
- 1982年に実施された第1回「利賀フェスティバル」では、6ヶ国12団体が公演し、人口約5.3万人の町に、国内外から約1.3万人の人々が集まった。
- 演劇の町としての利賀は世界的にも知名度が高く、演劇によるまちおこしの先駆的事例となっている。

#### 取り組みの背景

- ・富山県旧・利賀村(現・南砺市)は1973年、人口流出を食い止めるための施策として、合掌造りの民家5棟を百瀬川流域に集め「利賀村合掌文化村」とした。
- ・1976年、早稲田小劇場を率いていた演出家鈴木忠志氏は同地を訪れ、それ以降自身の演劇活動の拠点を東京から利賀に移すこととした。
- ・鈴木氏は劇団員とともに利賀村から5年契約で借り受けた合掌家屋1棟を「利賀山房」という名の稽古場兼劇場に改造し、公演が行われた。

<sup>44</sup> 中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス実行委員会「中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス2014総括報告書」



- ・利賀村と劇団との5年間の契約が終了するにあたり、利賀村は地域活性化のためにも大きな夢を与えてくれる可能性のある鈴木氏の活動をさらに継続拡大してもらうために、演劇活動に必要な施設の整備にとりかかった。
- ・1980年には、既存の利賀山房を劇団員の宿舎に改造し、合掌劇場「利賀山房」を開場。エントランス・ルームとしてホール棟も建設した。
- ・1982年に開催された第1回「利賀フェスティバル」では新たに野外劇場が建設され、6ヶ国12団体が公演し、国内外から約1.3万人の観客が訪れた。
- ・1984年に劇団名をSCOT (Suzuki Company of Toga) に改称。1994年には新利賀山房が完成し、利賀合掌文化村は富山県利賀芸術公園と改称した。
- ・利賀フェスティバルは1999年に終了し、その後の利賀村の主要な事業は、2000年に設立された財団法人舞台芸術財団演劇人会議によって引き継がれた。2008年以降SCOTは再び利賀村を拠点とし、現在に至るまでユニークな活動を行っている。

### 取り組みの内容

- ・現在、利賀村でのSCOTの最大の活動は毎年夏（8月～9月）に開催されるSCOTサマーシーズンである。2013年からはすべての公演に入場料金を設定しない新たな活動方針が定められ、国内外から多くの観客が訪れている。
- ・2014年のサマーシーズンでは8作品が上演された。

### 取り組みの成果

- ・SCOTサマーシーズンには、芸術的水準の高い作品を見るために国内外から多くの観客が集まっている。
- ・演劇の町としての利賀は世界的にも知名度が高く、演劇によるまちおこしの先駆的事例となっている。

## 参考)様々な芸術祭がもたらす経済効果

### 概要と主な成果

- 近年、我が国では様々な芸術祭が実施されている。また、一部には非常に集客力が高い事例もみられ、その経済波及効果が注目されている。
- 主な芸術祭の事業費と経済波及効果は以下のとおりである。

芸術祭名	事業費	経済波及効果
瀬戸内国際芸術祭 2013	10.2 億円	132.0 億円
大地の芸術祭 2012	4.8 億円	46.5 億円
いちばらアート×ミックス 2014	4.0 億円	10.1 億円
水と土の芸術祭 2012	2.8 億円	19.5 億円
ヨコハマトリエンナーレ 2011	8.7 億円	31.8 億円
あいちトリエンナーレ 2013	12.6 億円	58.2 億円

- ・以下に、経済波及効果を算出している主な芸術祭の経済波及効果を示している。それぞれの経済波及効果のロジックは異なるため、純粋に比較できるものでなく、便宜上比較していることに留意されたい。



瀬戸内国際芸術祭<sup>45</sup>

図表・32 瀬戸内国際芸術祭の概要

	歳出（3年間の合計）	来場者数	パスポート販売枚数
2010（第1回）	6.9億円	938,246人	88,437枚
2013（第2回）	10.2億円	1,070,368人	92,094枚

図表・33 瀬戸内国際芸術祭の経済波及効果

（単位：億円）	直接効果	1次波及効果	2次波及効果	総合効果
2010（第1回）	64	25	22	111
2013（第2回）	77	29	26	132

大地の芸術祭<sup>46</sup>

図表・34 大地の芸術祭の概要

	歳出（3年間の合計）	来場者数	パスポート販売枚数
2009（第4回）	5.8億円	375,311人	52,665枚
2012（第5回）	4.8億円	488,848人	63,801枚

図表・35 大地の芸術祭 2009（第4回）の経済波及効果

（単位：億円）	初期需要額	1次波及効果	2次波及効果	総合効果
建設投資	1.1	1.6	0.3	1.9
消費支出	24.0	29.3	4.4	33.7
経済波及効果	25.2	31.0	4.6	35.6

図表・36 大地の芸術祭 2012（第5回）の経済波及効果

（単位：億円）	初期需要額	1次波及効果	2次波及効果	総合効果
建設投資	2.3	3.2	0.6	3.8
消費支出	31.2	37.1	5.6	42.7
経済波及効果	33.5	40.3	6.2	46.5

いちはらアート×ミックス<sup>47</sup>

図表・37 いちはらアート×ミックスの概要

	歳出（3年間の合計）	来場者数	パスポート販売枚数
2014（第1回）	4.0億円	87,025人	11,473枚

図表・38 いちはらアート×ミックスの経済波及効果

（単位：億円）	直接効果	1次波及効果	2次波及効果	総合効果
2014（第1回）	6.7	1.9	1.6	10.1

<sup>45</sup> 瀬戸内国際芸術祭実行委員会「瀬戸内国際芸術祭 2013 総括報告」、美術出版社「瀬戸内国際芸術祭 2010」、美術出版社「瀬戸内国際芸術祭 2013」、日本銀行高松支店「「瀬戸内国際芸術祭 2010」開催に伴う観光客増加による経済波及効果」、日本政策投資銀行「「瀬戸内国際芸術祭 2013」開催に伴う経済波及効果」

<sup>46</sup> 大地の芸術祭実行委員会「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2009 総括報告書」、大地の芸術祭実行委員会「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2012 総括報告書」、

<sup>47</sup> 中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス実行委員会「中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス 2014 総括報告書」

## 水と土の芸術祭<sup>48</sup>

図表・39 水と土の芸術祭の概要・経済波及効果

	事業費	来場者数	パスポート販売枚数	経済波及効果
2009（第1回）	4.0 億円	549,423 人	27,797 人	12.5 億円
2012（第2回）	2.8 億円	724,211 人	21,589 人	19.5 億円

## ヨコハマトリエンナーレ 2011<sup>49</sup>

図表・40 ヨコハマトリエンナーレ 2011 の概要・経済波及効果

	事業費	来場者数	チケット販売枚数	経済波及効果
2011（第4回）	8.4 億円	333,739 人	166,459 枚	31.8 億円

## あいちトリエンナーレ

図表・41 あいちトリエンナーレの概要

	歳出（3年間の合計）	来場者数	パスポート販売枚数
2010（第1回）	12.9 億円	572,023 人	176,228 枚
2013（第2回）	12.6 億円	479,847 人	134,439 枚

図表・42 あいちトリエンナーレの経済波及効果

（単位：億円）	直接効果	1次波及効果	2次波及効果	総合効果
2010（第1回）	18.1	50.7	9.3	78.1
2013（第2回）	12.5	39.1	6.6	58.2

## 2-4. 産業（観光以外）の振興

観光以外の産業分野においても文化芸術が貢献している事例がみられる。ここで取り上げている「美濃和紙あかりアート展」は特産品のプロモーションに貢献しており、また、「金山町建築コンクール」は地場産業の技術継承に貢献していると考えられる。

### （1）美濃和紙あかりアート展

#### 概要と主な成果

- 岐阜県美濃市で1994年より実施されている、「美濃和紙」の再生と「うだつの上がる町並み」の活性化を目的としたアート・プロジェクト。
- 美濃和紙を使用したあかりのオブジェを一般・小中学生の両部門で全国公募し、「うだつの上がる町並み」に2日間にわたり屋外展示し審査を行っている。
- 出展数は約450、来場者数も約8万人に達する。
- 町の意識向上により電線地中化などの事業を達成し、景観の価値が高まった。

#### 取り組みの背景

- ・岐阜県美濃市では、1300年の歴史を誇る伝統産業「美濃和紙」の再生と「うだつの上がる町並み」の活性化・ブランド化を目的として、1994年に美濃市制40周年記念事業のサブイベントとして美濃和紙あかりアート展が開始された。

<sup>48</sup> 事業費は2年間の合計

<sup>49</sup> ㈱浜銀総合研究所「「ヨコハマトリエンナーレ 2011」開催結果について」

- ・「うだつ」とは、屋根の両端を一段高くし、火災の時の類焼を防ぐ防火壁のことである。後に装飾が施され富の象徴となった<sup>50</sup>。また、「うだつの上がる町並み」は、この「うだつ」のある建築が集積し、重要伝統的建造物群保存地区に指定されているの旧市街の通称である。

#### 取り組みの内容

- ・美濃市観光協会では商工会議所、青年会議所、和紙関係事業者、観光に興味を持つ女性達などの多様な主体による実行委員会を設置し、美濃和紙を使用したあかりのオブジェを一般・小中学生の両部門で全国公募し「うだつの上がる町並み」に2日間にわたり屋外展示し審査を行っている。

図表・43 第21回美濃和紙あかりアート展の概要

会期	2014年10月10日～10月11日（2日間）
会場	岐阜県美濃市 うだつの上がる町並み
主催	美濃市観光協会、美濃和紙あかりアート展実行委員会
参加作家数	一般部門 308点、小中学生部門 141点
来場者数	約8万人

- ・地域活性化アドバイザー花井孝氏の提案による美濃和紙あかりアート展は、好評により翌年より継続事業となり、2014年で21回目を数える。
- ・美濃和紙あかりアート展の主催は美濃市ではあるものの、実際にはボランティアが実行委員となって運営されている。
- ・また、アート展の開催中は、街角コンサートや特産品の販売、手すきの実演など、様々なイベントが連動して開催され、辺りにはにぎわいをみせる。
- ・美濃和紙あかりアート展の期間外にも、作品の鑑賞が可能な美濃和紙あかりアート館を開館している。

#### 取り組みの成果

- ・美濃和紙あかりアート展の出展数は約450で、来場者数も約8万人に達し、町に活気と誇りをもたらすイベントとして育っている。
- ・その他の大きな成果は、町の意識向上に伴う、電線地中化などの事業を達成したことであるという<sup>51</sup>。整備にあたっては、1つの区間で半年から1年かかり、その間、工事が行われている区間は通行止めになることもあり、特に町中で商売を営む人にとっては商売の大きな障壁となるため、地元の反発は非常に大きかった。しかし、将来を見据えた市長の決断により電線地中化が完全実施され、それまで、うだつはあるものの、電線によりその趣が損なわれていた景観が見事によみがえり、現在の非常に情緒ある町並みへと変貌した。

## (2) 金山町建築コンクール

#### 概要と主な成果

- 1978年より山形県金山町で大工の技術向上を目的として始められた建築コンクール。
- 金山町民や金山で勤務している人が建てた町内の住宅を審査の対象としている。
- 1992年以降は、住宅と周囲の環境・景観についても審査を行うようになった。
- 本コンクールは地場産業である林業の継承と景観の向上に多大なる貢献をしている。

<sup>50</sup> 美濃商工会議所 Web サイト

<sup>51</sup> 坂口香代子「美濃和紙あかりアート展」（「中部圏研究」168号）

### 取り組みの背景

- ・ 金山町は、山形県北部の山間部に位置している。地元の杉を活用した街並みが形成されている。
- ・ 現在、町民のうち、3割以上は、町外に職場を持ち、外部からの移住者は少なく、人口は微減を続けている。
- ・ 町では、職人の技術を継承するために、金山杉を用いて、独自の様式で住宅を建てることを推奨している。新築のほとんどは、既存の住宅の建て替えである。町の努力もあり、大工職人が生計を立てられる程度には仕事がある状況である。
- ・ 1978年からは、金山杉の活用を促し、地場の大工の技術向上のために、金山町建築コンクールが実施されている。

### 取り組みの内容

- ・ 金山町建築コンクールは、最上地域に建築された住宅で、金山町民もしくは金山の工務店などに勤務している人が建てた住宅を対象として審査を行っている。
- ・ 当初は金山町の大工の技術向上を目的として始められたが、1992年以降は、住宅と周囲の環境・景観についても審査を行うようになった。審査員には、建築士のみならず主婦や消防士、芸術大学の教員などが就任しており、様々な観点から審査を行う。

### 取り組みの成果

- ・ 林業は、長く時間がかかる取り組みであり、本コンクールは地場産業である林業の継承と景観の向上に多大なる貢献をしている。

## 2-5. 遊休物件の活用

少子化の影響により日本各地で毎年多くの廃校が生まれている。2012年度は598校、2013年度は482校の廃校が生まれ、2002~2013年度の間には5,801校の廃校が生まれている<sup>52</sup>。

廃校は体育施設、教育施設、企業・法人向け施設などに多く活用されており、文化施設での活用事例も多く見られる。具体的には、現代美術のレジデンス施設・展示場所、舞台芸術の稽古場・発表場所としての活用が多い。教室のサイズや天井高は現代美術の作品の制作・展示に適しており、また、体育館は劇場として活用がしやすい。

廃校以外にも、文化芸術の力により、必要とされなくなった建築物に新たな機能を付加する事例が増えている。活用している建築物の事例としては住宅、オフィスビル、倉庫、工場など様々である。また、東山アーティスト・プレイスメント・サービス（HAPS）のようにこのような建築物の持ち主と、活用主体を結びつける活動を行う団体も見られる。

### 1) 廃校・休校の活用

#### (1) にしすがも創造舎

##### 概要

- 2001年に閉校した東京都の豊島区立朝日中学校を改修し、2004年から舞台芸術の稽古場・劇場として活用されている。
- NPO法人の「アートネットワーク・ジャパン」と「芸術家と子どもたち」が共同運営を行っている。

<sup>52</sup> 文部科学省「廃校施設活用状況実態調査」

- ・にしすがも創造舎は、2001年に閉校した東京都の豊島区立朝日中学校を活用し、2004年にオープンした文化施設である。
- ・豊島区は廃校の活用策について公募を行い、NPO法人の「アートネットワーク・ジャパン」と「芸術家と子どもたち」の案が採択され、共同運営を行っている。
- ・「都内の劇団にとっては、稽古場不足は深刻な問題で、安い公民館や集会所を転々とすることが多い」状況に対応し、「大声を出しても大丈夫で、大道具を置くスペースもある<sup>53</sup>」という学校の特色に注目し活用している。
- ・学校は無料で受託者に貸出を行っており、5つの教室、音楽室、体育館が舞台芸術の稽古場・発表場所として活用されている。



図表・44 にしすがも創造舎のフロアマップ



出所) にしすがも創造舎公式Web サイト

## (2) 京都芸術センター

### 概要

- 1993年に閉校した京都市の明倫小学校を活用し、2000年にオープンした文化施設。
- 美術、舞台芸術、シンポジウムなど様々な用途にて活用されている。

- ・京都芸術センターは、1869年に開校し1993年に閉校した歴史のある京都市の明倫小学校を活用し、2000年にオープンした文化施設である。

<sup>53</sup> 2004/08/21 東京読売新聞



- ・（公財）京都市芸術文化協会が指定管理者として運営しており、展覧会や茶会、伝統芸能、音楽、演劇、ダンスなどの舞台公演やさまざまなワークショップ、芸術家・芸術関係者の発掘、育成や伝統芸能の継承、創造を目指す先駆的な事業のほか、制作や練習の場である「制作室」の提供、アーティスト・イン・レジデンス・プログラムでの国内外の芸術家の支援などを実施している<sup>54</sup>。



図表・45 京都芸術センターのフロアマップ



出所) 京都芸術センター公式Web サイト

### (3)アーツ千代田 3331

#### 概要

- 東京都千代田区の旧練成中学校を活用し、2010 年にオープンしたアートセンター。
- アートギャラリー、オフィス、カフェなどからなる複合施設として活用されている。

- ・アーツ千代田 3331 は 2005 年に閉校した旧練成中学校を活用し、2010 年にオープンしたアートセンターである。
- ・運営は合同会社コマンド A が行い、アーティストである中村政人氏が統括ディレクターを担っている。
- ・各教室にはアートギャラリー、オフィス、カフェなどが入居し、展覧会、ワークショップ、講演会、アートフェアなどを実施している。



<sup>54</sup> 京都芸術センターWeb サイト



## (4) アルテピアッツァ美唄

## 概要

- 1981年に閉校した北海道美唄市の旧栄小学校をその周辺の土地とともに整備を行い、世界的に活躍する彫刻家の安田侃氏の彫刻公園として活用。

- ・アルテピアッツァ美唄は北海道の炭鉱の町として栄えた美唄市に立地する野外彫刻公園である。
- ・世界的に活躍する彫刻家の安田侃氏が、日本におけるアトリエを探していたところ、1981年に閉校した旧栄小学校を見つけ、美唄市が学校の建築と周辺の広大な広場を活用して彫刻公園として整備し、1992年にオープンした。
- ・敷地内には安田氏の大小の作品が約40点展示されており、認定NPO法人 アルテピアッツァびばいが管理を行っている。

## (5) 各種芸術祭での活用

## 概要

- 地方で行われている芸術祭の多くでは、廃校・休校が作品の展示場所として積極的に活用されている（瀬戸内国際芸術祭 2013:5校、大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ 2012:11校、国際芸術祭いちはらアート×ミックス:4校）。

- ・地方で行われている芸術祭の多くでは、廃校・休校が作品の展示場所として積極的に活用されている。特に、瀬戸内国際芸術祭 2013 で5校の、大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ 2012 で11校の、国際芸術祭いちはらアート×ミックスで4校の廃校・休校が活用された。
- ・瀬戸内国際芸術祭 2013 で活用された、男木小中学校（男木島）は2011年に休校となったが、芸術祭開催をきっかけとして3世帯の家族が男木島にUターンで居住を行い、2014年4月に再開している。

瀬戸内国際芸術祭(旧福田小学校)



大地の芸術祭(旧清水小学校)



国際芸術祭いちはらアート×ミックス(旧白鳥小学校)



瀬戸内国際芸術祭(旧男木小中学校)



大地の芸術祭(旧三省小学校)



国際芸術祭いちはらアート×ミックス(旧里見小学校)



図表・46 瀬戸内国際芸術祭 2013 での廃校・休校利用

作品・施設名	学校名
福武ハウス	旧福田小学校（小豆島）
大岩オスカー「大岩島 2」	旧伊吹小学校（伊吹島）
昭和 40 年会「男木学校 PSS40」	旧男木小中学校（男木島）
大竹伸朗「女根/めこん」	旧女木小学校（女木島）
神戸芸術工科大学「沙弥島アートプロジェクト」	旧沙弥小中学校（沙弥島）

図表・47 大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ 2012 での廃校・休校利用

作品・施設名	学校名
鉢&田島征三「絵本と木の実の美術館」	旧真田小学校
アジア写真映像館	旧名ヶ山小学校
Soil Museum もぐらの館	旧東下組小学校
開発好明「大竜宮城」	旧飛渡第二小学校体育館
内田晴之「大地の記憶」など	旧枯木又分校
クリストドロス・パナイトウ「もし明日がなかったら」	旧赤倉小学校
比野克彦「明後日新聞社文化事業部」	旧筋平小学校
川俣正「CIAN」	旧清水小学校
三省ハウス	旧三省小学校
クリスチャン・ボルタンスキー+ジャン・カルマン「最後の教室」	旧東川小学校
サンプル／松井周「キオク REVERSUBLE」 ※演劇	旧清津峡小学校

図表・48 国際芸術祭いちばらアート×ミックス 2014 での廃校・休校利用

作品・施設名	学校名
大成哲雄「内田百鬼夜行」など	旧内田小学校
栗林隆「プリンシパル オフィス」など	旧里見小学校
吉田夏奈「もぐら」など	旧白鳥小学校
シャオ・ミン「経幢」など	旧月出小学校

## 2)その他の物件の活用

### (1)BankART 1929

#### 概要と主な成果

- BankART 1929 は 2004 年に設立された NPO 法人である。
- 横浜市では、これまで歴史的建造物である旧富士銀行、旧第一銀行、旧日本郵船倉庫などの活用を NPO 法人である BankART 1929 に委託し、**展覧会・公演、スクール、ショップ、飲食事業など様々な形で活用してきた。**

- ・ BankART 1929 は、横浜市の旧富士銀行と旧第一銀行の建造物を文化芸術拠点として活用する事業の運営のために 2004 年に設立された NPO 法人である。
- ・ BankART 1929 は、これらの施設において、展覧会・公演、スクール、ショップ、飲食事業など様々な事業を行ってきた。
- ・ 旧富士銀行は 2005 年 4 月から東京藝術大学が活用し、旧第一銀行は 2009 年 5 月から創造都市センターとなったため、現在の BankART 1929 は改修した約 3,000m<sup>2</sup>の旧日本郵船倉庫（BankART Studio NYK）を主な活動拠点として活用している。

BankART NYKの外観



BankART NYKの内観①



BankART NYKの内観②



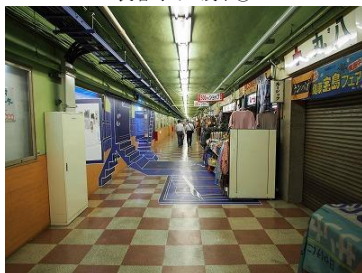
## (2) あいちトリエンナーレ

### 概要と主な成果

- 2010 年より、3 年に 1 度実施されている芸術祭。これまでに 2 回実施されている。
- 2013 年の第 2 回は名古屋市と岡崎市を会場として実施された。
- 名古屋市では問屋街の各種遊休ビルやスペース、元ボウリング場が、岡崎市では駅ビル、遊休店舗、ショッピングセンターの遊休スペースなどが活用された。

- ・ あいちトリエンナーレは 2010 年より、3 年に 1 度実施されている芸術祭である。2010 年の第 1 回は名古屋市のみを会場としていたが、2013 年の第 2 回より岡崎市も会場として加わった。
- ・ あいちトリエンナーレは開催の目的として、「新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献する」、「現代芸術などの普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図る」、「文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図る」の 3 点を掲げており、初回より街中の様々な商業施設でも作品が展示されている。
- ・ 第 2 回では、名古屋市の会場として愛知芸術文化センターや名古屋市美術館などの会場のほか、名古屋市随一の問屋街である長者町では各種遊休ビルやスペースが活用された。また、納屋橋会場として元ボウリング場が活用された。岡崎市では駅ビル、遊休店舗などが活用されるとともに、ショッピングセンターの遊休スペースが活用された。

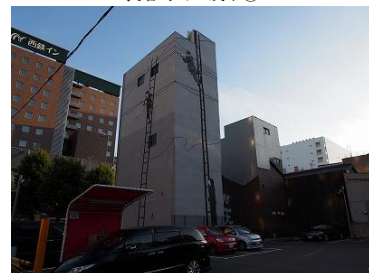
長者町での展示①



長者町での展示②



長者町での展示③



長者町での展示④



ショッピングセンターでの展示①

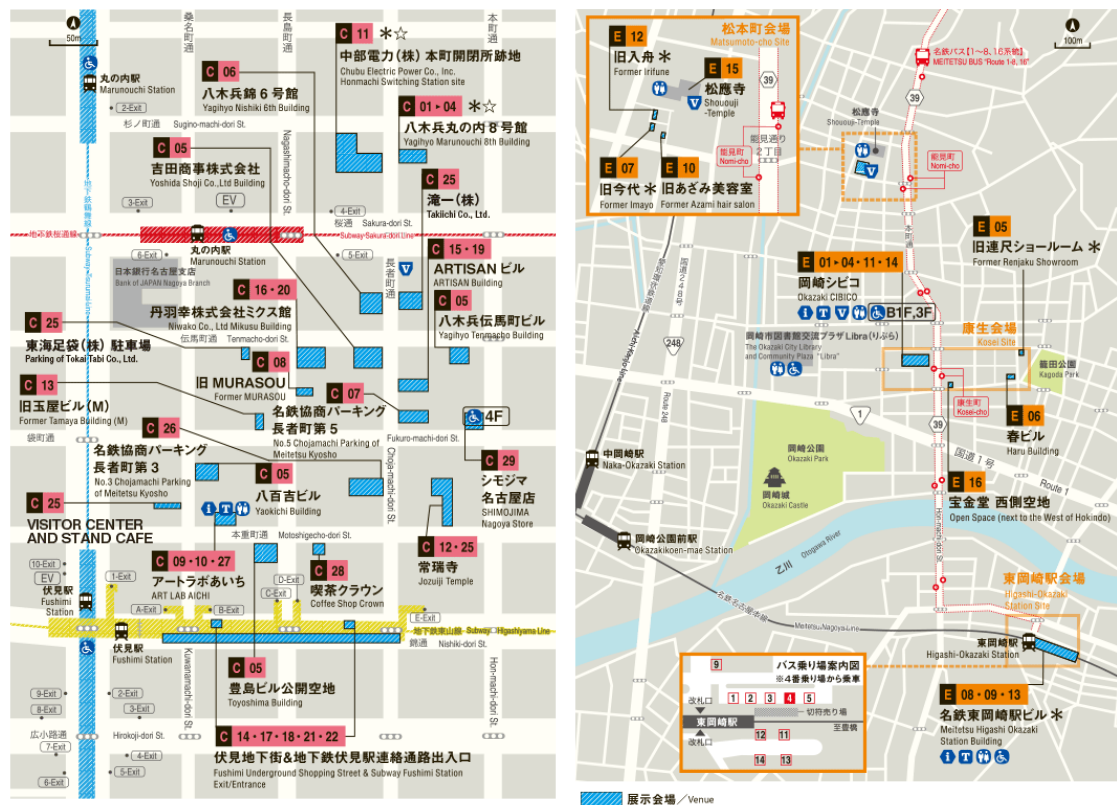


ショッピングセンターでの展示②





図表・49 あいちトリエンナーレ 2013 の会場（左：長者町会場、右：岡崎会場）



出所) あいちトリエンナーレ 2013 Web サイト

### (3)東山アーティスト・プレイスメント・サービス(HAPS)

#### 概要と主な成果

- 東山アーティスト・プレイスメント・サービス(HAPS)は、京都市の「京都文化芸術都市創生計画」の一貫として 2011 年に設立された組織である。
- アーティストの「住む」、「つくる」、「みせる」を支援している。
- 「住む」では、自由に制作できる場を求めるアーティストと、借り手が見つからず困っている大家のマッチングを行っており、2014 年度には 25 件のマッチングを成約させている。

- ・京都市では 2007 年に「京都文化芸術都市創生計画」を策定し、そのなかで「若手芸術家等の居住・制作・発表の場づくり」事業を計画した。そして、2011 年にその事業を実施する主体として「東山 アーティスト・プレイスメント・サービス実行委員会」(HAPS)が設立された<sup>55</sup>。
- ・HAPS はアーティストの「住む」、「つくる」、「みせる」に関して支援を行うとともに、支援を行う人とのマッチングを行っている。
- ・「住む」に関しては、京都市全域を対象に、「自分で改装してオリジナルの家になりたい、大きな音を出してもよい環境が欲しい」など、様々な要望を持つアーティストと、「家の一部を余らせていたり、ボロボロになって借り手が見つからずどうしようもないと困っている」大家とのマッチングを行っている。
- ・HAPS には年間 350 件を超える相談がもたらされ、事務局の 3 人が対応している。
- ・2013 年度には 14 件、2014 年度には 25 件のマッチングを成約させている。

<sup>55</sup> HAPS Web サイト

## 参考)その他の事例

## 概要と主な成果

- これまでに取り上げた事例以外にも、様々な施設が用途変更され文化芸術活動のために活用されている。
- 基本的には住宅、オフィスビルなどが転用される事例が多いものの、以下のように特徴的な施設も活用されている。

事業・施設名称	用途	所在地	用途変更前
アーツ前橋	美術館	群馬県前橋市	専門店ビル
下山芸術の森 発電所美術館		富山県入善町	水力発電所
犬島精錬所美術館		岡山県岡山市	銅製錬所
藁工ミュージアム		高知県高知市	藁倉庫
所沢ビエンナーレ	芸術祭会場	埼玉県所沢市	学校給食センター
鶴岡まちなかキネマ	映画館	山形県鶴岡市	絹織物工場
クリエイティブセンター大阪	文化複合スペース	大阪府大阪市	造船所
金沢市民芸術村		石川県金沢市	紡績工場
デザイン・クリエイティブセンター神戸		兵庫県神戸市	生糸検査所
急な坂スタジオ	舞台芸術拠点	神奈川県横浜市	結婚式場
永久別府劇場	劇場	大分県別府市	ストリップ劇場

## 2-6. 若者の転入の増加

文化芸術の事業をきっかけに地域に来訪者の増加や注目度の向上をもたらし、文化芸術と親和性の高い若者の移住を後押ししていると思われる事例も現れている。ここでは、香川県直島町、徳島県神山町の取り組みを取り上げている。

## (1)直島町

## 概要と主な成果

- 直島町では 1989 年より現代美術に係る様々な施設の開発や事業の実施が行われてきた。
- 1992 年にはベネッセハウスが開館し、1998 年には空き家を活用した家プロジェクトが開始され、2004 年には地中美術館が開館した。2010 年からは瀬戸内国際芸術祭が実施されている。
- 直島町は現代美術の町という認識が浸透しており、芸術祭が行われていない 2012 年度にも地中美術館には約 13.9 万人が訪れた。
- 直島町の認知度の向上は転入・転出にも波及していると考えられ、1994 年には転出が転入を 127 人上回っていたが、近年は 10 人程度まで縮まっている。
- また、扱っている作品が現代美術であるという特性から直島町への転入者にも若者が多いと考えられ、直島町の 20 代・30 代が全人口に占める割合は上昇傾向にある。

### 取り組みの背景

- ・香川県直島町は瀬戸内海に位置する大小27の島々（有人島は3つ）によって構成されている。
- ・直島町では1917年に製錬所が設立され、島は急速な発展を遂げ、1960年代前半の最盛期には人口が約7,800人となった。しかし、1970年代以降は銅の国際価格の低下により精錬の需要が低下し、人口は減少の一途をたどり、現在の直島の人口は約3,100人である。現在も、減少に歯止めがかかっていない。
- ・直島では1960年代から藤田観光がリゾート開発を試みていたが、1970年代にはいと資金面や規制面で次第に障害にぶつかるようになる。1987年に福武書店（現、ベネッセコーポレーション）が藤田観光から165ヘクタールの土地を約8億円で購入し、ベネッセコーポレーション（以下、ベネッセ）の直島への関与がはじまる<sup>56</sup>。

### 取り組みの内容

- ・ベネッセは土地の購入後、直島文化村構想を掲げ、1989年に島の南部に国際キャンプ場を建設。その3年後の1992年にベネッセハウスを開館した。ベネッセハウスは宿泊施設、美術館、レストランが一体となった当時としては珍しい施設であった。
- ・その後も、ベネッセは家プロジェクト（1998年～）、「スタンダード」展（2001年）、地中美術館（2004年）、直島銭湯「I♥湯」（2009年）、李禹煥美術館（2010年）、瀬戸内国際芸術祭（2010年、2013年）など現代美術に係る様々な施設の開発や事業の実施を主導してきた。

図表・50 直島町での主な実施事項

時期	実施事項	実施概要
1989年	直島国際キャンプ場開館	・モンゴルから移築されたパオでの滞在により、瀬戸内の自然を体感する場所として一般に開放。 ・各種屋外彫刻が設置。
1992年	ベネッセハウス開館	・現代美術の展示スペースとホテル客室を備えた施設。
1998年～	家プロジェクト開始	・本村地区において、開始。直島では現在7ヶ所に拡大。
2001年	「スタンダード」展開催	・島全体のさまざまな家や施設、路地を舞台とした展覧会を開催。
2004年	地中美術館開館	・「自然と人間を考える場所」として開館。
2006年	「直島スタンダード2」展開催	・「スタンダード」展以来5年ぶりの企画展。
2009年	直島銭湯「I♥湯」営業開始	・見るだけでなく、実際に入浴できる美術施設。
2010年	李禹煥美術館開館	・国際的に評価の高いアーティスト、李禹煥氏の個人美術館。
2010年	第1回 瀬戸内国際芸術祭実施	・直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、高松港周辺を舞台に開催。
2013年	第2回 瀬戸内国際芸術祭実施	・上記に加え、沙弥島、本島、高見島、栗島、伊吹島、宇野港周辺も会場に。

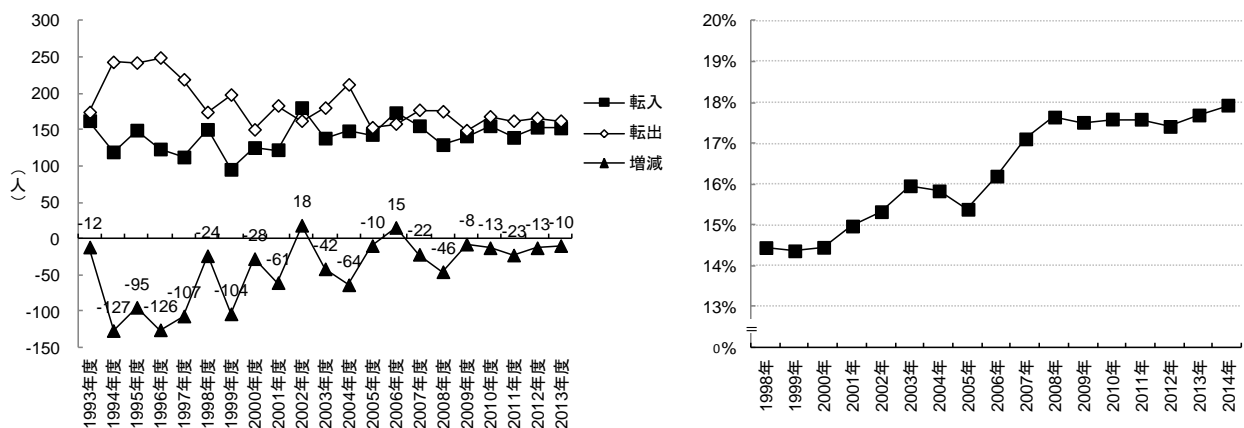
<sup>56</sup> 2004年には、財団法人 直島福武美術館財団（2012年より公益財団法人 福武財団）が設立され、各施設や事業の運営は本財団が行っている。



## 取り組みの成果

- ・第1回瀬戸内国際芸術祭の来場者数は延べ約94万人、第2回の来場者数は延べ約107万人であった。また、直島町は現代美術の町という認識が浸透しており、芸術祭が行われていない時期の2012年度の地中美術館への来館者数は約13.9万人であった（2013年度は約18.1万人）。
- ・直島町の認知度の向上は転入・転出にも波及していると考えられ、人口は依然として減少しているものの、1994年には転出が転入を127人上回っていたが、近年はこの幅は減少傾向にあり10人程度で推移している。
- ・また、扱っている作品が現代美術であるという特性から直島町への訪問者も若者が多い傾向があり、転入者にも若者の占める割合が多いと考えられ、直島町の20代・30代が全人口に占める割合は1998年に約14.5%であったが、2014年には約18%に上昇している。

図表・51 直島町の転入・転出者数の推移（左）・20代・30代が全人口に占める割合（右）



出所）直島町Webサイトを基に野村総合研究所作成

## (2) 神山村

## 概要と主な成果

- 徳島県神山村では、1999年からNPO法人グリーンバレー（当時は神山村国際交流協会）によりアーティスト・イン・レジデンス事業が行われている。
- 2005年からは神山村がすすめる移住支援業務を受託している。
- 移住とともにオフィスを設置する事例が現れてきており、現在11社が神山にオフィスを構えている。
- 転入者数は減少傾向にあったが、グリーンバレーの移住支援後は2008年度の113人から、2013年度の159人に増加している。

## 取り組みの背景

- ・神山村は徳島県の中央部に位置し、徳島市から車で50分の距離にある人口約5,900人の町である。
- ・従来は林業が盛んであったが、その後の木材の価格低迷により停滞、人口が減少しつづけている。
- ・神山村では1992年に町の有志により神山村国際交流協会が設立され住民や企業の道路美化運動「アドプト・ア・ハイウェイ」（1998年～）や「神山アーティスト・イン・レジデンス」（1999年～）などが実施されてきた。2004年には神山村国際交流協会など5つのボランティア団体が一体化されNPO法人グリーンバレーとなった。

# 取り組みの内容

- ・「神山アーティスト・イン・レジデンス」では毎年3人の芸術家（2名は外国人、1名は日本人）が招聘され、空き家や学校の空き教室を住居やアトリエとして提供を受け、作品制作を行っている（支給内容：旅費、住宅、アトリエ、生活用品、生活費15万円、材料費25万円）。
- ・作品制作は8月末ごろから約2ヶ月間行われ、完成した作品は神山町に引き渡され、神山町内に展示される。神山がこれまでに招いたアーティストは50名を超える。
- ・そのほか、神山町では2005年に公共施設や各家庭に光ファイバー網や無線LANを敷設。地方としては早い時期からITインフラの整備を行ってきた。2007年には総務省の地域ICT活用モデル事業に採択され、ポータルサイト「イン神山」の構築を行った。

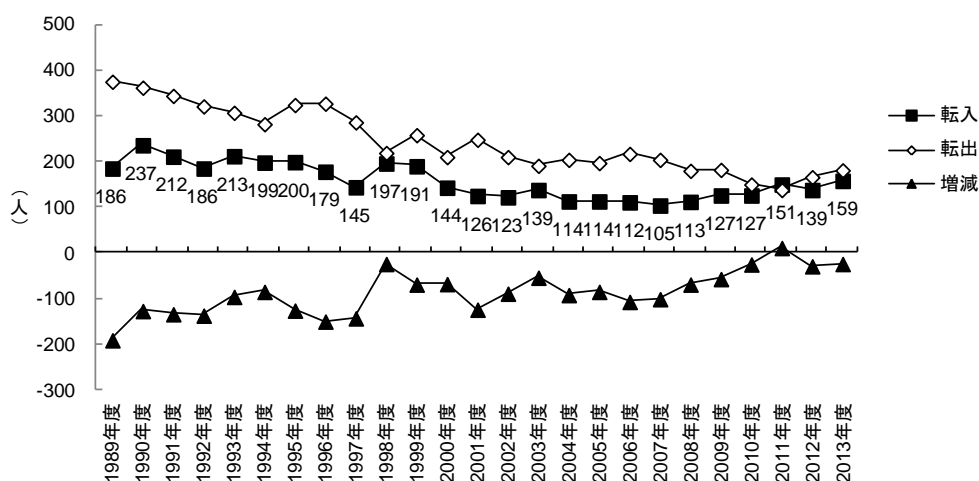


- ・2005年から徳島県は移住の支援に乗り出し、各市町村に移住交流支援センターを設置し、2007年からはこの業務をグリーンバレーが受託している。「イン神山」の設計と運営もグリーンバレーが行っている。

# 取り組みの成果

- ・神山では、移住やワーク・イン・レジデンスの実績に注目した企業がオフィスを設置する事例が増えている。2010年10月に名刺管理システムを開発・提供する企業が神山にオフィスを設置し、現在11社が神山にオフィスを設置している。
- ・神山への転入者は長い間、減少傾向にあったが、グリーンバレーが移住支援を始めた2008年以降は、その減少に歯止めがかかり、近年は増加傾向にある。2008年度は転入者が113人であったが、2013年度は159人に増加している。

図表・52 神山町の転入・転出者数の推移



出所) 神山町webサイトを基に野村総合研究所作成

### 2-7. にぎわいの創出

我が国では中心市街地の衰退が課題となっている地域も多い。文化芸術施設を整備することで、にぎわいの創出に取り組み、成果が生まれている事例もみられる。ここでは、鳥取県鳥取市の「鳥の劇場」、青森県八戸市の「八戸ポータルミュージアム「はっち」」、大阪府大阪市の「天満天神繁昌亭」の取り組みを取り上げている。

#### (1) 鳥の劇場

##### 概要と主な成果

- 2006年に鳥取市にて演出家の中島諒人氏を中心に設立された劇場及び劇団。
- 廃校となった小学校の体育館を劇場、幼稚園の遊戯室をスタジオとして活用している。
- 2008年からは鳥取市の支援のもと「鳥の演劇祭」を開催している。
- 鳥取市では過疎が進行している。こうした状況の中、鳥の劇場は、地域内外から人々が集い、にぎわいを創出する拠点としての役割を果たしている。

##### 取り組みの背景

- ・鳥の劇場は、2006年に演出家の中島諒人氏を中心に設立された劇場及び劇団の名称である。鳥取県鳥取市に拠点を置いている。
- ・2001年に廃校になった旧鹿野小学校の体育館を劇場として、2005年に廃止された鹿の幼稚園の園舎をスタジオなどの劇場施設として活用している。

##### 取り組みの内容

- ・鳥の劇場では、毎月1回定期的に作品発表（公演）を行い、演劇活動を継続している。
- ・また、鳥の劇場が位置する鳥取市鹿野町は、まちづくりに劇場が有効だと考え、2008年から「鳥の演劇祭」を開催している。「鳥の演劇祭」は、鳥取県、鳥取市、鳥の劇場の三者共同で実施されている<sup>57</sup>。
- ・「鳥の演劇祭」は2014年に7回目を迎え、2014年9月13日～28日に実施された。国内外の9劇団による10演目が上演され、そのほかにも「鹿野ぶらぶら町歩き」や鹿野の町中にある空き家や空き店舗で行う「週末だけのまちのみせ」など様々な企画が行われた。

##### 取り組みの成果

- ・鳥取市では、1960年頃をピークに年々人口が減少を続けており、過疎が進行している。こうした状況の中、鳥の劇場は、地域内外から人々が集い、にぎわいを創出する拠点としての役割を果たしている。
- ・鳥の演劇祭には毎年1万人を超える人が来場し（8割が県内住民）、活況を呈している。
- ・鳥の劇場では、地元との関係を重視しており、地域に根差した活動を実施している。その結果、東京や大阪などの小規模劇場では顧客層が偏りがちなのに対して、鳥の劇場では、小学生から高齢者まで幅広い来場者を集めており、地域の多様なニーズに応えている<sup>58</sup>。

<sup>57</sup> 伊藤裕夫・松井憲太郎・小林真理編「公共劇場の10年 ―舞台芸術・演劇の公共性の現在と未来」

<sup>58</sup> 鳥取大学地域学部附属芸術文化センターWeb サイト

## (2) 八戸ポータルミュージアム「はっち」

### 概要と主な成果

- 青森県八戸市は中心市街地の衰退を解決する拠点として、2011年に八戸ポータルミュージアム「はっち」を整備した。
- 「はっち」では中心市街地賑わい創出事業、文化芸術振興事業、ものづくり振興事業、観光振興・フィールドミュージアム推進事業など様々な事業が行われている。
- 2014年5月には、総入館者数が300万人を突破した。
- 街のにぎわいの1つの指標となる歩行者通行量は、八戸市の中心市街地全体で、「はっち」開館前の2010年度に比べ、2012年度は40%増加した。
- 開館後の約2年間で、中心市街地にて50の事業所・店舗が新規開設した。

### 取り組みの背景<sup>59</sup>

- ・青森県八戸市は、人口約24万人の町で、北東北一の工業地帯でもある。
- ・八戸市では中心市街地が衰退しており、こうした傾向に歯止めをかけ、中心市街地に新たな魅力を生み出しつつ発展を図るため、2011年に八戸ポータルミュージアム「はっち」が整備された。
- ・八戸市の文化担当部署は、かつて教育委員会の中に設置されていたが、2010年、市長直属の「まちづくり文化観光スポーツ部」が組織され、現在、「はっち」も本部が所管している。

### 取り組みの内容<sup>60</sup>

- ・八戸ポータルミュージアム「はっち」の目的は、「新たな交流と創造の拠点として、にぎわいの創出や、観光と地域文化の振興を図ることで、中心市街地と八戸市全体の活性化」とされている。
- ・「自主事業」として、中心市街地賑わい創出事業（市民による企画公募、子育て支援、スクールなど）、文化芸術振興事業（情報発信、アーティスト・イン・レジデンス、鑑賞機会提供、ワークショップなど）、ものづくり振興事業（スペースを活用したものづくり支援、オリジナルグッズ開発など）、観光振興・フィールドミュージアム推進事業（観光展示、伝統文化発信、観光ツアー、観光ボランティアガイド育成など）などを行っている。

### 取り組みの成果<sup>61</sup>

- ・入館者数は、2011年度の約85万人、2012年度の約89万人と増え続け、2014年5月30日には、総入館者数が300万人を突破した。
- ・街のにぎわいの1つの指標となる歩行者通行量は、八戸市の中心市街地全体で、「はっち」開館前の2010年度に比べ、2012年度は40%増加した。また、開館後の約2年間で、中心市街地にて50の事業所・店舗が新規開設した<sup>62</sup>。

<sup>59</sup> 八戸市「八戸ポータルミュージアム施設活用基本計画書」及び八戸市 Web サイト

<sup>60</sup> 八戸ポータルミュージアムはっち Web サイト、八戸市「八戸ポータルミュージアム施設活用基本計画書」

<sup>61</sup> 八戸ポータルミュージアムはっち Web サイト

<sup>62</sup> 2014/02/13 東奥日報

## (3)天満天神繁昌亭

## 概要と主な成果

- 天満天神繁昌亭は、2006 年に大阪市の天神橋筋商店街にオープンした。
- 関西では戦後 60 年ぶりの復活となる落語専門の定席である。
- オープンの翌年には、経済波及効果が 116 億円に及ぶと試算された。
- 天満天神繁昌亭の利用客のうち、約半数は周辺地域で買い物をしているか、またはする予定であった。
- 天神橋筋商店街の店舗においても、8 割以上が通行者の増加を実感していた。

## 取り組みの背景

- ・天満天神繁昌亭は、総延長 2.6km の日本一長い商店街である天神橋筋商店街に立地している。天神橋筋商店街は、大型スーパーの進出もあり、1950 年代後半頃から活気を失い始め、1980 年頃には付近の工場が移転した影響もあって、空き家が目立つようになった。
- ・1978 年に、現在の天神橋筋商店街連合会会長の土居年樹氏が、「天神橋 3 丁目を良くする会」を有志で結成し、委員長として商店街を活性化させるための仕掛けを考え始めた。カルチャーセンター設置や修学旅行生の誘致、ストリートミュージシャンの育成などを通じて商店街の活性化に努めてきた<sup>63</sup>。
- ・2006 年に、土居氏が「笑いの文化は地域を元気にする」という発想から、天満天神繁昌亭の立ち上げに至った。元々、天満宮の周辺は、明治から昭和の初めまで多くの寄席が隣接する土地であった。その際に、上方落語協会会長の桂三枝氏の協力や、大阪天満宮からの土地無償提供、企業や市民からの寄付金（約 2.4 億円）によって、開席が実現した<sup>64</sup>。

## 取り組みの内容

- ・天満天神繁昌亭は、関西では戦後 60 年ぶりの復活となる落語専門の定席である。
- ・公演は、朝席と年中無休で公演される昼席・夜席からなる。昼席は、毎回 10 組の出演者で構成され、様々な演目が披露される。まお、演目は当日まで明かされない。また、仲入りと呼ばれる休憩の前後では、手品や大道芸など、落語以外の演目もプログラムに組み込まれる。一方夜席では、演目が決まっていることも多く、個々の噺家の独演会形式となっている。
- ・また、通常の公演に加え、平日の午前中に、小学校から高校までを対象にした学校向けプログラム「上方落語体験講座」も実施している。

取り組みの成果<sup>65</sup>

- ・天満天神繁昌亭オープンの翌年には、経済波及効果が 116 億円に及ぶと試算された。大阪商工会議所が実施した来場者アンケートによれば、全体の 1 割強は、近畿圏以外の関東、東海、北陸から来ていたことがわかった。
- ・天満天神繁昌亭の利用客のうち、約半数は周辺地域で買い物をしているか、またはする予定であった。天神橋筋商店街の店舗においても、8 割以上が通行者の増加を実感していた<sup>66</sup>。

<sup>63</sup> 観光庁 Web サイト<sup>64</sup> サービス産業生産性協議会 Web サイト<sup>65</sup> 大阪商工会議所「天満天神繁昌亭の経済波及効果調査結果及び地元商店街でのヒアリング調査結果について」<sup>66</sup> 2007/09/05 朝日新聞





### 第3章 居住問題の解決

### 3-1. 居住問題に係る課題と解決に貢献した事例

ここでは「居住問題」を、さらに「地域のイメージの悪化」、「治安の悪化」の2つの問題に分類している。これらの問題に関して、文化芸術は「負のイメージを持たれた地域のイメージアップ」、「治安の回復・維持」などの課題の解決に貢献できると考えられる。

図表・53 「居住問題」に係る課題の解決に貢献した主な事例

問題		課題	事例		
居住	地域のイメージの悪化	← 負のイメージを持たれた場所のイメージアップ	舞洲工場	モエレ沼公園	ホスピタイル・プロジェクト
	治安の悪化	← 治安の回復・維持	黄金町バザール	豊島区の文化政策	

### 3-2. 負のイメージを持たれた場所のイメージアップ

負のイメージを持たれやすい傾向の場所が存在する。このような場所を文化芸術の力を活用し、むしろユニークな場所に転化している事例がみられる。ここでは、大阪府大阪市のごみ焼却施設である「舞洲工場」、北海道札幌市の元ごみの埋立地である「モエレ沼公園」、鳥取県鳥取市の元病院を活用した「ホスピタイル・プロジェクト」を取り上げている。

#### (1) 舞洲工場

##### 概要と主な成果

- 舞洲工場は大阪市の埋立地である舞洲に立地する、ごみ焼却施設である。
- 2001年に画家のフリーデンスライヒ・フンデルトヴァッサー氏のデザインにより竣工した。
- インパクトのある舞洲工場は観光スポットになっており、年間約1.5万人の見学申し込みがある。
- 小中学生のほか企業や自治体の研修、海外からの視察も多い。

##### 取り組みの背景

- ・ 舞洲工場は大阪市の埋立地である舞洲に立地するごみ焼却施設である。当時、大阪では2008年の夏季オリンピックの誘致を行っており、舞洲はオリンピックのメイン会場が置かれる予定の場所であった。この舞洲にごみ焼却施設が建設されることになり、大阪市では市民が親しみを持ち、また、シンボリックな建物とすることを目指した。
- ・ オーストリアのウィーンでは、1991年に完成したごみ焼却施設（シュピッテラウ焼却場）をフリーデンスライヒ・フンデルトヴァッサー氏がデザインしており、観光名所として人気であった。大阪市はこれに注目し、「自然と人の共生を感じさせる外観に」と舞洲の焼却施設のデザインをフンデルトヴァッサー氏に依頼した<sup>67</sup>。

##### 取り組みの内容

- ・ 舞洲工場は建物が地域に根ざして、技術・エコロジー・芸術の融和のシンボルとなるように意図され、自然界に直線や同一物が存在しないことから、各所の形状には意識的に曲線が採用される

<sup>67</sup> 2000/04/24 大阪読売新聞

とともに、建物は自然との調和の象徴として多くの緑で囲まれている<sup>68</sup>。

- ・1997年3月に着工、2001年4月に竣工している。事業費は609億円でフンデルトヴァッサー氏には約6,600万円の支払いが行われた。
- ・また、舞洲工場に隣接して、下水処理施設の舞洲スラッジセンターのデザインもフンデルトヴァッサー氏に依頼され、2004年4月に竣工している。

舞洲工場①



舞洲工場②



舞洲工場③



舞洲工場④



スラッジセンター①



スラッジセンター②



#### 取り組みの成果

- ・2008年の夏季オリンピックの誘致は実現しなかったものの、インパクトのある舞洲工場は観光スポットになっており、年間約1.5万人の見学申し込みがある。小中学生のほか企業や自治体の研修、海外からの視察も多い<sup>69</sup>。

## (2)モエレ沼公園

#### 概要と主な成果

- 2005年に北海道札幌市にオープンした不燃ごみの埋立地を活用した芸術公園。
- 彫刻家のイサム・ノグチ氏の設計により、ガラスのピラミッド、森、山、噴水、遊具、陸上競技場、野球場、テニスコート、野外ステージなどが整備されている。
- 不燃ごみの埋立地という背景を持った場所にも関わらず、モエレ沼公園は多くの人びとに愛され、2013年度の入場者数は約73万人であり、札幌の主要な観光スポットの中では2番目に多かった。

#### 取り組みの背景

- ・札幌市では1970年代から不燃ごみの埋立地の不足が課題となっており、モエレ沼の内側をその場所とする計画があがった。周辺住民は計画に反対したが、市側は埋め立て後は公園にすることを条件として住民の理解を取り付けた。

<sup>68</sup> 舞洲工場パンフレット

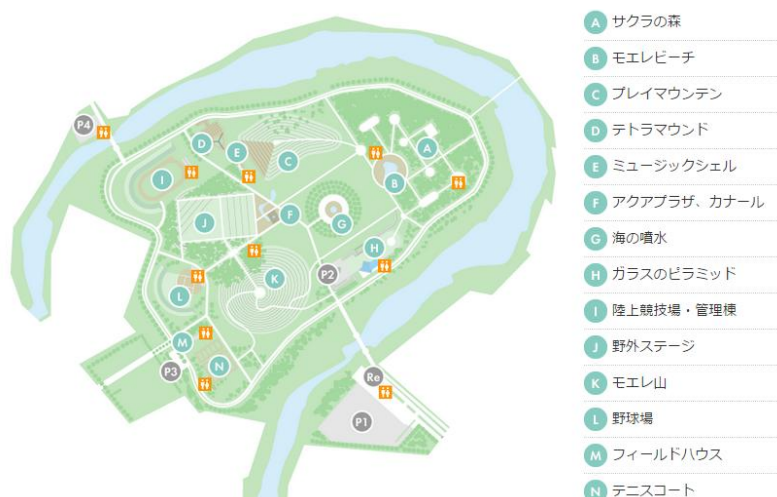
<sup>69</sup> 2009/08/10 産経新聞

- ・札幌市としては、標準的な公園として整備する予定であったが、1988年3月に芸術家のイサム・ノグチ氏がモエレ沼を訪れ、この場所に惚れ込み自身のプロジェクト実現を市に提案した。ところが、イサム・ノグチ自身は基本設計を行った直後の1988年12月に死去してしまう。
- ・札幌市は「マスタープランが完成済みであることと、詳細の指示を受けていたイサム・ノグチ財団の監修と活動を支援してきた人々の協力を得られることになったことから、公園造成を継続することに決定し<sup>70)</sup>」、1989年から公園の造成が始められた。

#### 取り組みの内容

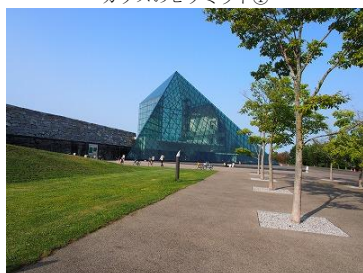
- ・モエレ沼公園は1982年に着工し、「全体をひとつの彫刻作品とする」というコンセプトの基に造成が進められ、2005年にグランドオープンした。約189万m<sup>2</sup>の土地に様々なガラスのピラミッド、森、山、噴水、遊具、陸上競技場、野球場、テニスコート、野外ステージなどが整備されている。なお、モエレ沼公園の造成工事費は約270億円であった。

図表・54 モエレ沼公園のマップ



出所) モエレ沼公園公式Web サイト

ガラスのピラミッド①



ガラスのピラミッド②



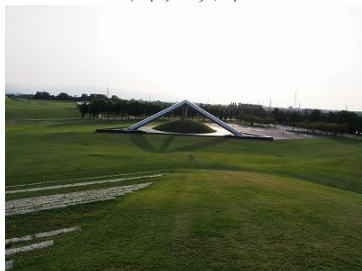
海の噴水



モエレ山



テトラマウンド



プレイマウンテン

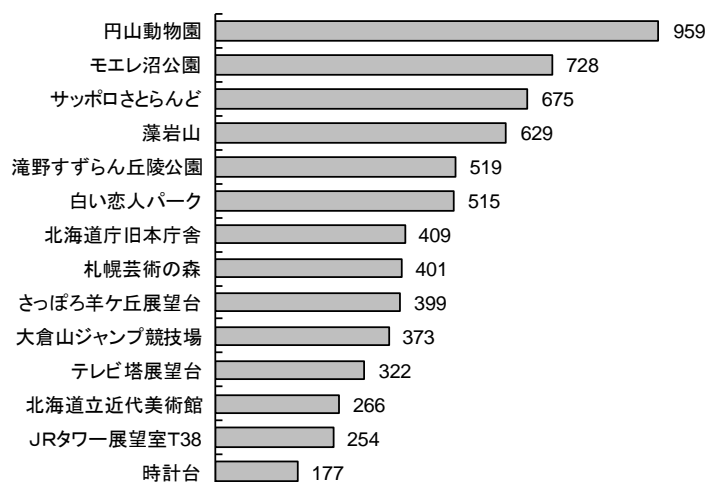


<sup>70)</sup> モエレ沼公園公式 Web サイト

### 取り組みの成果

- ・不燃ごみの埋立地という背景を持った場所にも関わらず、モエレ沼公園は多くの人びとに愛され、2013年度の入場者数は約73万人であった。これは札幌の主要な観光スポットの中では2番目に多かった。
- ・年代は「10代」が最も多く、次いで「10代未満」、「30代」、「20代」が多い。居住地は札幌市内が58%と多く、特に東区が一番多く、地域住民の若者に愛される公園となっている<sup>71</sup>。

図表・55 札幌市の主な観光施設の入場者数



出所) 札幌市「平成25年度観光客入り込み状況」

### (3)ホスピテイル・プロジェクト

#### 概要と主な成果

- 鳥取県では閉院した鳥取市の胃腸外科の病院を2012年よりアートイベントスペースとして活用。
- 2012年3月に実施された「Hospitale ホスピテイル」という企画では約2週間の会期中に約600人が来場した。
- 定期的にイベントが実施され、地域のコミュニティ強化に貢献している。

#### 取り組みの背景

- ・鳥取駅から徒歩圏内に立地する横田医院は、1956年に開院した胃腸外科の病院である。病院は横田院長自らが設計を行い、3階建ての円形型のユニークな建築となっている。この病院は1996年に閉院となり、長い間廃墟となっていた。本来持っていた病院の機能から、この廃墟は必ずしも住民にとっては良いイメージのものではなかったと考えられる。
- ・文化政策・創造都市論を研究する鳥取大学地域学部の野田邦弘教授は、この建築の立地の良さと建築そのものの魅力から、アートによる活用を企画。2012年からホスピテイル・プロジェクトを実施している。

#### 取り組みの内容

- ・ホスピテイル・プロジェクトのホスピテイルとは、「後期ラテン語で「来客のための大きな館」を意味し、外来者を迎え入れる host、宿泊施設の hotel や病院を表す hospital、またもてなしを

<sup>71</sup> 入場者アンケート結果は非公開であるが、札幌市「指定管理者評価シート（モエレ沼公園）」を参考に、作成した。



意味する hospitality の語源<sup>72</sup>」である。

- ・ホスピテイル・プロジェクトではギャラリー展示、アーティスト・イン・レジデンス、トークシリーズなどを実施している。各種企画の運営は鳥取大学地域学部の4つの研究室（野田研究室、小泉研究室、藤井研究室、浅井研究室）と鳥取県立博物館の現代美術部門のキュレーターである赤井あずみ氏らからなる実行委員会により行われている。

#### 取り組みの成果

- ・2012年3月に実施された「Hospitale ホスピテイル」という企画では約2週間の会期中に約600人の入場者があったとされている<sup>73</sup>。定期的にイベントが実施され、地域のコミュニティ強化に関して貢献していると考えられる。

### 3-3. 治安の回復・維持

治安が悪化した地域において、文化芸術の施設や事業を展開することで、集客を行い、治安の回復・維持に努める事例もみられる。ここでは神奈川県横浜市で行われている「黄金町バザール」、東京都豊島区の文化政策を取り上げている。

#### (1) 黄金町バザール

##### 概要と主な成果

- 違法売買春の温床となっていた神奈川県横浜市の黄金町一帯で、アートによる街の再生を目指して2008年より開催されているアートフェスティバル。
- 160店あった空き店舗のうち75店舗を借り上げ、そのうち、約40店舗がアトリエやスタジオとして活用されている。運営はNPO法人黄金町エリアマネジメントセンターが行っている。
- 定量的な変化は確認できていないものの、居住者の多くからは以前よりも治安が改善したという声がかかっている。

##### 取り組みの背景<sup>74</sup>

- ・「黄金町バザール」は、神奈川県横浜市中区の黄金町一帯で、アートによる街の再生を目指して2008年より開催されているアートフェスティバルである。
- ・NPO法人黄金町エリアマネジメントセンターが横浜市の補助を受け実施している。
- ・黄金町は長らく違法売買春の街だった。このような環境の改善を求めて、2003年に黄金町と周辺地域の住民が中心となって「初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会」が設立された。同協議会は行政と警察、大学と連携しながら安心して安全なまちづくりを推進してきたが、ついに2005年に警察による一斉摘発「バイバイ作戦」によってすべての特殊飲食店の閉店及び立ち退きが強制された。
- ・ところが特殊飲食店の撲滅の結果、空き店舗が急増。そのため、街の治安は依然として不安定だった。そこで、アーティストを街に常駐させ、アートによって街のにぎわいを絶え間なく演出することで、安心して安全なまちづくりを実現しようとする計画が実施された。

<sup>72</sup> ホスピテイル・プロジェクト公式 Web サイト

<sup>73</sup> 2013/02/22 日本海新聞

<sup>74</sup> おもに福住廉「想像力という理路—黄金町バザールと都市再開発をめぐる」

取り組みの内容<sup>75</sup>

- ・「黄金町バザール」では、国内外のアーティスト、キュレーター、建築家を招聘し、街を実験の場として開放し、地域コミュニティに新たな可能性が生み出されることを目指している。
- ・2014年8月～11月に開催された「仮想のコミュニティ・アジア黄金町バザール2014」では、国内外から38組のアーティストが黄金町に集まり、街の中に作品を展示した。
- ・アーティストは、ゲストキュレーター及び国内外の関係団体による推薦、国内外に向けた公募による選考のほか、黄金町で活動するアーティストが参加し、新作を発表した。2014年は、台湾、韓国、中国、インドネシア、フィリピン、ベトナム、タイなどアジアのアーティストが多数招聘された。
- ・「黄金町バザール」を運営するNPO法人黄金町エリアマネジメントセンターは、通年のプログラムも数多く実施している。アートや建築についてのオルタナティブスクールである「黄金町芸術学校」をはじめ、子供向けのワークショップやフリーマーケット、チャリティイベントなどのほか、近年では空き店舗をスタジオとして活用するアーティスト・イン・レジデンス事業や国際交流事業も手がけている。

取り組みの成果<sup>76</sup>

- ・横浜市では、2008年から160店あった空き店舗のうち75店舗を借り上げ、そのうち、約40店舗がアトリエやスタジオとして活用されている。運営は黄金町エリアマネジメントセンターが行っている<sup>77</sup>。
- ・定量的な変化は確認できていないものの、居住者の多くからは以前よりも治安が改善したという声がきかれている<sup>78</sup>。

<sup>75</sup> 黄金町バザール Web サイト

<sup>76</sup> NPO 法人黄金町エリアマネジメントセンターWeb サイト

<sup>77</sup> 2015/01/12 東京読売新聞

<sup>78</sup> 2012/06/28 毎日新聞、2010/10/17 東京読売新聞など

## (2) 豊島区の文化政策

### 概要と主な成果

- 東京都豊島区は、2007 年以降、人口密度が 1 位となり、また、昼間人口 1 万人あたりの粗暴犯認知件数は 10 件を超え、危険な区と認知されていた。
- これと前後して、豊島区では、2005 年に「文化創造都市宣言」を行い、にしすがも創造舎、舞台芸術の専門施設あうるすぽっとが整備され、日本最大級の舞台芸術の祭典であるフェスティバル/トーキョーも実施されている。
- 刑法犯認知件数は減少しており、2012 年度には、2003 年と比較して 47%減少している。これは、区内における地道な防犯活動に依る部分が大きいものの、文化によるまちづくりが一翼を担っていたと想定される。

### 取り組みの背景

- ・ 豊島区は、渋谷や新宿と並ぶ文化発信地として知られ、1970 年代以降、西武美術館をはじめとする文化施設の建設が相次いだが、2007 年以降、人口密度が 1 位となり、また、昼間人口 1 万人あたりの粗暴犯認知件数は 10 件を超え、東京 23 区中最も危険な区と認知されていた<sup>79</sup>。

### 取り組みの内容

- ・ これと前後して、豊島区では、1999 年から文化によるまちづくりを標榜し、2004 年に「豊島区の文化政策に関する提言」、2005 年に「文化創造都市宣言」を行い、2006 年に豊島区文化芸術振興条例を施行、2010 年には豊島区文化政策推進プランを策定し、文化政策を推し進めてきた。
- ・ これらの施策に基づく事業としては、2004 年ににしすがも創造舎が、2007 年に舞台芸術の専門施設のあうるすぽっとが整備された。また、都営の東京芸術劇場も池袋に立地しており、池袋界限の文化拠点で開催されるフェスティバル/トーキョーは日本最大級の舞台芸術の祭典として注目を集めている。

### 取り組みの成果

- ・ 豊島区による一連の活動が評価され、2008 年度には、文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）を受けている。
- ・ 豊島区につきまっていた「危険な地区」のイメージであるが、2003 年から 10 年連続で刑法犯認知件数は減少しており、2012 年度には、2003 年と比較して 47%減少している<sup>80</sup>。これは、区内における地道な防犯活動に依る部分が大きいものの、文化によるまちづくりが一翼を担っていたことも否定できない。

<sup>79</sup> 池田利道・小口達也「豊島区 火災・犯罪リスクが最も高い「人口過密地域」が抱える課題」

<sup>80</sup> 豊島区「報道発表資料」（2013 年 10 月）

## 第4章 健康・福祉問題の解決

### 4-1. 健康・福祉問題に係る課題と解決に貢献した事例

ここでは「健康・福祉問題」を、さらに「過大なストレスの発生」、「高齢化・医療費の増大」の2つの問題に分類している。文化芸術は「心のケア」、「健康の増進」などの課題の解決に貢献できると考えられる。

図表・56 「健康・福祉問題」に係る課題の解決に貢献した主な事例

問題		課題	事例			
健康・福祉	過大なストレスの発生	←心のケア	←ARCT	JCDN	劇団四季（こころの劇場）	アーツプロジェクト
	高齢化・医療費の増大	←健康の増進	←北名古屋歴史民俗資料館	田んぼdeミュージカル委員会	さいたまゴールドシアター	さくら苑

### 4-2. 心のケア

離別・死別などのように人々が心に課題なストレスを受けた際に、文化芸術には心のケアの効果があることは従来から認識されていることである。ここでは、「Art Revival Connection TOHOKU (ARCT)」、「ジャパン・コンテンポラリー・ダンス・ネットワーク (JCDN)」、「劇団四季（こころの劇場）」、「アーツプロジェクト」といった団体の活動を取り上げている。

#### (1) Art Revival Connection TOHOKU (ARCT)

##### 概要と主な成果

- 東日本大震災で被害にあった人々を対象に、舞台表現者たちが津波被災地の避難所を回り、トラックの荷台を舞台に公演を行ったことをきっかけに生まれた団体。
- 現在では、様々な地域の幼児、老人などを対象として造形やダンスなどの活動を支援している。

##### 取り組みの背景

- ・ Art Revival Connection TOHOKU（略称：ARCT）は東日本大震災後、精神的にダメージを受けた人々に寄り添い、日常を忘れて夢中になる時間を提供している。震災直後は、舞台表現者たちが津波被災地の避難所を回り、トラックの荷台を舞台に公演していたが、地域からのニーズが高まったことから、Art Revival Connection TOHOKU の設立に至った。

##### 取り組みの内容

- ・ ARCT での活動は、出前部、招聘部、創作部、調査部に分かれている。
- ・ 出前部では、現地からのニーズに応じて、児童館、幼稚園、保育園などの幼児向けワークショップ、小学生向けのイベントへの協力、老人福祉施設などでの「美術の時間」や「ダンスの時間」などの提供を行っている。
- ・ 招聘部では、他地域において演劇の上演やシンポジウムなどを開催することにより、地方と地方の交流を促進し、地域ごとの魅力を再発見する場としている。これまで、東北地方のみならず、岡山県や福岡県での招聘にも応じている。
- ・ 創作部では、ARCT のネットワークを利用し、個々の活動の可能性を広げるために、地元アーティストの自発的創作活動を支援している。



### 取り組みの成果

- ・東日本大震災は人々に甚大な被害を与え、心に大きな傷跡を残した。その中で、ARCT では、「日常を忘れて夢中になる時間」を提供することで、人々の心のケアに寄与している。建物の再建など、物理的には復興が進行しつつあるが、喪失感を抱えた人たちが、物質的な側面と精神的な側面の間にギャップを感じていると考えられ、そのギャップを埋める緩衝剤として、ARCT が機能しているといえる。

## (2) ジャパン・コンテンポラリー・ダンス・ネットワーク(JCDN)

### 概要と主な成果

- 2001 年 4 月に活動を開始した京都市の NPO 法人。
- 「ダンスの持っている力を社会の中で活かしていくこと、子供から老人まで日常生活の中でダンスに触れる機会を創ること、その為の環境を創ること」をミッションとしている。
- コンテンポラリーダンスのアーティストが全国のパフォーマンススペースを巡回する「踊りに行くぜ!!」、人々と一緒にダンス作品を作る「踊りに行くぜ!!Ⅱ」を展開し、東日本大震災後は東北の郷土芸能や文化を“習い”に行く「習いに行くぜ! 東北へ!!」と題した取り組みも行っている。
- JCDN の取り組みは「社会との接点」となるとともに、過度なストレスが発生し、芸術的なことが排除され得る現代社会における心のケアの一助としても捉えることができる。

### 取り組みの背景

- ・ジャパン・コンテンポラリー・ダンス・ネットワーク (JCDN) は、2001 年に活動を開始し、同年 7 月に認証を受けた NPO 法人である。
- 「ダンスの持っている力を社会の中で活かしていくこと、子供から老人まで日常生活の中でダンスに触れる機会を創ること、その為の環境を創ること」をミッションとしている。

### 取り組みの内容

- ・JCDN では 2000~2009 年までコンテンポラリーダンスのアーティストが全国のパフォーマンススペースを巡回する「踊りに行くぜ!!」を開催してきた。「踊りに行くぜ!!」では「地元以外の場所でアーティストが公演する機会を提供し、新しい観客との出会いによってアーティストも観客も育っていくことで新しいムーブメントを生み出すこと<sup>81</sup>」が目的とされていた。
- ・2010 年よりダンス作品をつくるプロジェクト「踊りに行くぜ!!Ⅱ<セカンド>」として再スタートし、他ジャンルのアートでは表現できない新しいダンス作品のアイデアを全国公募より選出し、作品制作のサポート及び全国での巡回公演を実現している。
- ・このほか JCDN は 2013 年からはアーティストができることを行いに被災地へ行くのではなく、東北の郷土芸能や文化を“習い”に行く「習いに行くぜ! 東北へ!!」と題した取り組みも行っている。

### 取り組みの成果

- ・「社会との接点」としてすべての人のためのダンス活動を行う JCDN の取り組みは、芸術的に一定の成果を上げていることは勿論だが、過度なストレスが発生し、芸術的なことが排除され得る現代社会における心のケアの一助としても捉えることができる。

<sup>81</sup> 国際交流基金「Performing Arts Network Japan」

### (3) 劇団四季(こころの劇場)

#### 概要と主な成果

- 劇団四季により 2008 年から実施されている、全国の子どもたちを無料で公演に招待するプロジェクト。
- 1 年間で 40～50 万人を目標に実施しており、将来的には劇団の公演回数 4,000 回のうち 1,000 回程度を本プロジェクトにあてることを目標としている。

#### 取り組みの背景

- ・ 1953 年に結成された劇団四季は、1960 年に有限会社劇団四季として法人化した。日生劇場の運営に携わり 1967 年には四季(株)に改組した。その後「CATS」や「ライオンキング」のロングラン公演に成功し、現在は日本の商業演劇を代表する劇団として日本各地で公演を行っている。

#### 取り組みの内容

- ・ 「こころの劇場」は 2008 年に創立 55 周年を迎えたことをきっかけに「子どもたちの心に、生命の大切さ、人を思いやる心、信じあう喜びなど、人が生きていく上で最も大切なものを、舞台を通して語りかけたい<sup>82)</sup>」という思いのもと誕生したプロジェクトである。
- ・ 劇団四季は 1964 年以来に始まったニッセイ名作劇場を源流として、多くの企業や組織と協力して全国の子どもたちを無料で公演に招待する活動を行い、これまでに約 800 万人を招待してきた。
- ・ 本プロジェクトはその規模を拡大して行うもので、多くの企業の協賛のもと、1 年間で 40～50 万人を目標に実施。将来的には劇団の公演回数 4,000 回のうち 1,000 回程度を本プロジェクトにあてるのが目標だという<sup>83)</sup>。

#### 取り組みの成果

- ・ 本事業を実施することによって日本全国の子どもたちに演劇の魅力を伝え、生きていく上で大切なことを伝える劇団四季の目的は一定程度達成されているものと判断できる。
- ・ また観劇した子どもたちからは、「もっと命を大事にしようと感じました」、「人を最後まで思いやる優しさに感動しました」、「生きる勇気をもらいました」、「友だちの大切さを改めて感じました」、「このお芝居をみんなで観た後、学校でいじめがなくなりました」といった感想が寄せられており<sup>84)</sup>、各地の子どもたちの心のケアにも寄与しているものと思われる。

### (4) アーツプロジェクト

#### 概要と主な成果

- 「アートをもって、病院などの医療環境をより快適な癒しの空間とすること」を目的とする NPO 法人。
- 病院の依頼に対して芸術家を派遣し、作品制作を行っている。これまでに、約 30 の医療機関でアートを展開している。
- 京都造形芸術大学と連携して、壁画制作を行っている京都府立医科大付属病院では、地下通路の印象について「快適」と答えた人の割合は制作前の 1.9%から 79.1%に増加するなど、病院を快適な空間にするという点に効果が現れている。

<sup>82)</sup> 劇団四季「こころの劇場」Web サイト

<sup>83)</sup> 2008/07/15 デイリースポーツ

<sup>84)</sup> 劇団四季「こころの劇場」Web サイト

**取り組みの背景**

- ・アーツプロジェクトは「アートの力をもって、病院などの医療環境をより快適な癒しの空間とすること<sup>85)</sup>」を目的とする NPO 法人である。
- ・当時、ホスピタル・アートが比較的浸透していたイギリスに居住していた造形作家の森口ゆたか氏らが岩尾啓子氏らとともに 1999 年に立ち上げた。

**取り組みの内容**

- ・アーツプロジェクトが展開するホスピタル・アートとは、無機質な病院の空間を壁画などのアートによって心地よい空間と変化させる試みである。
- ・アーツプロジェクトは、病院の依頼に対して芸術家を派遣し、病院のニーズに応じた作品制作を行っている。これまでに、関西労災病院、堺市耳原総合病院、松下こどもクリニックなど約 30 の医療機関でアートを展開している。
- ・2013 年にオープンした四国こどもとおとなの医療センターでは、アーツプロジェクトに所属している森合音氏が、ホスピタルアートディレクターとして従事している。
- ・また、2009 年からは京都造形芸術大学と連携して、京都府立医科大付属病院を舞台として壁画制作やワークショップを行う「HAPii+（はぴい）」を行っている。

**取り組みの成果**

- ・例えば、京都府立医科大付属病院の外来利用者や病院職員らを対象に行った調査では、地下通路の印象について「快適」と答えた人の割合は制作前の 1.9%から 79.1%に増加するなど、病院を快適な空間にするという点に効果が現れている。

**4-3. 健康の増進**

高齢者を対象として、文化芸術を通して健康の増進を行おうとする取り組みもみられる。ここでは愛知県北名古屋市の「北名古屋市歴史民俗資料館」、北海道むかわ町で行われている「田んぼ de ミュージカル委員会」、埼玉県さいたま市の彩の国さいたま芸術劇場で行われている「さいたまゴールド・シアター」、神奈川県横浜市の「さくら苑」の取り組みを取り上げている。

**(1)北名古屋市歴史民俗資料館****概要と主な成果**

- 愛知県北名古屋市に立地する昭和に焦点をあてた資料館(別名「昭和日常博物館」)。
- 2002 年より認知症やひきこもりの患者のケア方法の一種である「回想法スクール」を開催している。
- 当初から回想法に参加していた高齢者については、認知機能が活性化していることが確認されている。「なつかしい」と思うことで、脳の血流が良くなり、コミュニケーションも活発化しやすい。
- 資料館の利用者はオープン以降減少を続けていたが、回想法を実施したことにより増加し、現在は 4 万人台で推移を続けている。

**取り組みの背景**

- ・愛知県北名古屋市では、1990 年に歴史民俗資料館をオープンした。当初は、一般の資料館と同じく、縄文時代から農村の歴史を展示し、現代へと至るような通史展示であった。

<sup>85)</sup> アーツプロジェクト Web サイト

- ・1993年頃からは消えゆくものを残していくという館のコンセプトに従い、対象とする時代を昭和にシフトしていった。現在では、「昭和日常博物館」を全面に打ち出している。

### 取り組みの内容

- ・元々、古い物は資料館に寄贈するという意識は広まっていたが、戦後の遺物のごみとして捨てられてしまっていた。そこで当資料館では、昭和の変化を物によって記録していく取り組みを始め、基本的にどの時代の物でも寄贈を受け付けるが、1955年前後を中心とした展示を行っている。今日では、寄贈者が送料を負担してでも無料で資料館に寄贈してくれるようになっている。
- ・北名古屋歴史民俗資料館では、2002年より「回想法スクール」の取り組みを開始している。回想法とは、1960年頃から米国で提唱され始めた認知症やひきこもりに陥っている患者のケア方法の一種である。日本でも、病院などで研究が進められており。その取り組みを博物館でも実施している。
- ・回想法スクールでは、10人1グループとなり、週に1度、1時間程度集まり、懐かしい話をする。これを8週間続けて1クールとし、1度は歴史民俗資料館を会場としている。スクールは毎年4回実施され、毎回新規メンバーを募集する。対象者は、北名古屋に住む高齢者である。
- ・1クールを終えたグループについても、自主的に旅行や飲み会を開催したり、運動会やお祭りを開いたりするなど、定期的に集まるイベントを開催している。
- ・現在では、50グループ以上が存在している。回想法スクールを終えた参加者たちは、「いきいき隊」となり、スクールを支援する側に回る。

### 取り組みの成果

- ・当初から回想法に参加していた高齢者については、認知機能が活性化していることが確認されている。「なつかしい」と思うことで、脳の血流が良くなり、コミュニケーションも活発化しやすい。
- ・近年では、資料館における子ども向けワークショップの講師を高齢者が務めている。また、児童館での講演も行っている。子どもは高齢者と関わる機会が減っているため、保護者からも良い機会だと評価されている。
- ・資料館のオープン当初は年間2.2万人が利用していたが、翌年以降は減少を続けていた。しかし、回想法を実施したことにより、利用者が増加し、現在は4万人台で推移を続けている。

## (2) 田んぼ de ミュージカル委員会

### 概要と主な成果

- 北海道むかわ町は65歳以上の町民が人口の約3分の1を占める過疎の町である。
- 2002年から崔洋一映画監督の協力のもと平均年齢82歳の「田んぼ de ミュージカル委員会」が発足した。これまでに4つの映画作品を発表している。
- 高齢者の生き生きとした姿を映し出した作品は全国的に話題となり、新聞やテレビなどのメディアに取り上げられ、日本全国へ高齢者の生きがいを問いかけたほか、ソウル老人映画祭など海外でも紹介されるなど、各方面に影響を与えた。

### 取り組みの背景

- ・北海道むかわ町は2006年3月に「鵠川町」と「穂別町」の2つの町が合併してできた町であり、

現在の人口は約9千人である<sup>86</sup>。65歳以上の町民が人口の約3分の1を占める。過疎化が進む中2001年に行われた文化講演会で崔洋一映画監督を講師に招き、映画づくりの楽しさを教えてもらったのをきっかけとして、翌年2002年に崔監督の協力のもと「田んぼ de ミュージカル委員会」実行委員会が発足した。

#### 取り組みの内容

- ・「田んぼ de ミュージカル委員会」は穂別地区を拠点とする高齢者（最高年齢91歳、平均年齢は82歳）による映画製作団体である。これまでに4つの作品を発表している。
- ・崔洋一氏が総指揮を務めた第1作「田んぼ de ミュージカル」は、道町村会からの助成金200万円といった少ない予算の中、2002年の開町90周年を記念して町議会議員の伊藤好一氏が監督を担当し、町職員の斉藤征義氏が脚本を担当するなど、約40名の町民が製作に関わった。
- ・高齢者の生き生きとした姿を映し出した映画は全国的に話題となり、2004年には第2弾として黄昏時の田んぼを舞台に繰り広げられる華やかなファッションショーを題材とした「田んぼ de ファッションショー」を製作した（以降、2008年に第3作、2011年に第4作を制作）。

#### 取り組みの成果

- ・本取り組みは高齢者の生きがい創出、地域活性化につながっていると考えられる。
- ・過去の4作はそれぞれ新聞やテレビなどのメディアに取り上げられ、日本全国へ高齢者の生きがいを問いかけたほか、ソウル老人映画祭など海外でも紹介されるなど、各方面に影響を与えた。

### (3)さいたまゴールド・シアター

#### 概要と主な成果

- 彩の国さいたま芸術劇場芸術監督の蜷川幸雄氏が2006年に立ち上げたシニア世代による劇団。
- 「年齢を重ねた人々が、その個人史をベースに、身体表現という方法によって新しい自分に出会う場を提供する」ことを目的としている。64歳から89歳までの39名の団員が在籍している。
- この取り組みは、高齢者の生きがいの創出につながるほか、高齢化社会の有様に問いかけるモデルケースとしても社会的意義を発揮している。また海外公演にも度々招聘されるなど、さいたまゴールド・シアターは芸術的にも高い評価を獲得している。

#### 取り組みの背景

- ・彩の国さいたま芸術劇場は1994年に開館した。2005年に蜷川幸雄氏が芸術監督に内定すると、就任後第一に取り組むべき事業として「年齢を重ねた人々が、その個人史をベースに、身体表現という方法によって新しい自分に出会う場を提供する」ための集団作りを提案。
- ・その後オーディションを経て、2006年にさいたまゴールド・シアターを設立した。現在、64歳から89歳までの39名の団員が在籍している。

#### 取り組みの内容

- ・団員に対しては2006年から1年間に渡って演技、ダンス、日本舞踊、発声、座学、殺陣などの基礎レッスンが施された。その後中間発表公演を経て、第1回公演は現代劇作家の岩松了氏が新作を書き下ろし、その後もケラリーノ・サンドロヴィッチ氏や松井周氏など若手劇作家による書

<sup>86</sup> むかわ町 Web サイト



き下ろし作品が提供され、年配の演出家と俳優たちが若い才能と格闘する方向性が築かれた。  
・「鴉よ、おれたちは弾丸をこめる」は、埼玉のみならず国内外の諸都市でもツアー上演された。

### 取り組みの成果

- ・この取り組みは、高齢者の生きがいの創出につながるほか、高齢化社会の有様に問いかけるモデルケースとしても社会的意義を発揮している。また海外公演にも度々招聘されるなど、さいたまゴールド・シアターは芸術的にも高い評価を獲得している。

## (4) さくら苑

### 概要と主な成果

- 1999年から鍵盤ハーモニカ奏者、ピアニストの野村誠氏が特別養護老人ホームさくら苑で行っている、高齢者を対象としたワークショップ。
- ワークショップは毎回2時間程度で、参加者は固定されておらず、10～20名が参加する。ここでは野村氏とお年寄りやスタッフとが、新しい音楽をともに生み出すことが試みられる。
- お年寄りは野村氏のピアノに合わせて、自由気ままに楽器で音を出したり歌ったりするなど、自然に時間が流れていく。結果としてこのワークショップで生み出された音楽には美学的な評価もなされている。

### 取り組みの背景

- ・独自の作曲スタイルを持つことで知られる鍵盤ハーモニカ奏者、ピアニストの野村誠氏は、子どもや高齢者との「共同作曲」を通じてさまざまな作品を発表してきた。
- ・さくら苑は横浜市内にある特別養護老人ホームで、社会福祉法人秀峰会によって運営されている。
- ・1999年、野村氏の「長い人生経験のある、潜在的に優れた発想力を持つお年寄りの感覚をつむいで作曲をしてみたい」という動機を受け、NPO法人アーツフォーラム・ジャパン（芸術文化交流の会）が野村氏とさくら苑の橋渡しを行い実現した。

### 取り組みの内容

- ・野村氏とお年寄りとの共同作曲は、基本的に月1回ペースで開催されるワークショップを通じて行われる。ワークショップは毎回2時間程度で、参加者は固定されておらず、アーティストやコーディネーター、施設職員も含めて、10～20名が参加する。ここでは野村氏とお年寄りやスタッフとが、音楽を提供し、提供されるという関係性ではなく、新しい音楽をともに生み出すことが試みられる。
- ・野村氏のワークショップは「即興セッション」を特長とし、参加者の顔ぶれやその日の雰囲気やゆるやかに始まり、お年寄りは野村氏のピアノに合わせて、自由気ままに楽器で音を出したり歌ったりするなど、自然に時間が流れていく。

### 取り組みの成果

- ・野村誠氏とさくら苑のお年寄りによる共同作曲は、活動開始以来、様々なメディアに取り上げられ、広く注目を集めてきた。アーティストが高齢者施設に赴く活動として先駆的であったと同時に、桜井苑長がワークショップ後の参加者の表情の充実について言及するなど<sup>87</sup>、野村氏とお年寄りとの関係性から生まれる音楽と体験は独自性の高いものと捉えられている。

<sup>87</sup> 吉本光宏「アートが拓く超高齢社会の可能性 高齢者の潜在力を引き出すアートのポテンシャル」

## 第5章 人権問題の解決

### 5-1. 人権問題に係る課題と解決に貢献した事例

ここでは「人権問題」を、さらに「孤立感の拡大」、「マイノリティの排除」の2つの問題に分類している。文化芸術は「個々の存在意義・アイデンティティの確認」、「社会包摂」、「移住者・外国人」、「身体障害者・ひきこもり」などの課題の解決に貢献できると考えられる。

図表・57 「人権問題」に係る課題の解決に貢献した主な事例

問題		課題		事例			
人権	孤立感の拡大	個々の存在意義・アイデンティティの確認		南三陸 きりこプロジェクト			
	マイノリティの排除	社会的包摂	移住者・外国人	釜ヶ崎芸術大学	可児市文化創造センター		
			身体障害者・ひきこもり	アルス・ノヴァ	音遊びの会	otto & orabu	日本センチュリー交響楽団

### 5-2. 個々の存在意義・アイデンティティの確認

文化芸術の力を使って、個々の存在意義・アイデンティティなどを視覚化・聴覚化し、確認することが可能であり、このことで孤立感が解消されることがある。ここでは「南三陸 きりこプロジェクト」を取り上げている。

#### (1) 南三陸 きりこプロジェクト

##### 概要と主な成果

- 宮城県南三陸町で2010年から始められているプロジェクト。商店街各戸の家のテーマを聞き取り、そのテーマにあった「きりこ」といわれる半紙で作る神棚飾りを模した切り紙を作り、軒先に飾る。
- 東日本大震災によって南三陸町が被災した後は、絵柄を白いボードにして、流出した家の跡地に建てられた。
- きりこプロジェクトは、被災地における心のケアとしての側面もさることながら、きりこの制作を通して人が自ら表現することにより個々の存在意義やアイデンティティを再発見している。

##### 取り組みの背景

- ・きりこプロジェクトは、アートの力でまちの見えざる価値、人と人との間に見えざる絆をつなぎ、新たな活力を生み出す活動を行っている ENVISI によって運営されている。
- ・ENVISI 代表の吉川由美氏は、従来から地元の仙台で住民を巻き込んだまちづくり事業を実施しており、鳴子温泉郷での「生きる博覧会」などのプロジェクトに取り組んでいた。
- ・2010年からは地域の女性十数名とともに、宮城県本吉郡南三陸町志津川地区の商店街各戸にその家のテーマを聞き取り、そのテーマにあった「きりこ」とよばれる南三陸の神社が氏子たちのために半紙で作る神棚飾りを模した切り紙を作り、軒先に飾るプロジェクトを行っていた。このとき制作されたきりこは650枚に及んだ。

### 取り組みの内容

- ・ こうして制作されたきりこは、東日本大震災によってきりこもろともまち全体が津波にのみこまれた。それでもなお、このきりこプロジェクトは継続しており、震災後には、絵柄を白いボードにして、流出した家の跡地に建てられている。

### 取り組みの成果

- ・ 東日本大震災後のきりこプロジェクトでは、これら一連の取り組みが評価されて、2014年には、ティファニー財団賞の伝統文化振興賞を受賞した。
- ・ きりこプロジェクトは、被災地における心のケアとしての側面もさることながら、きりこの制作を通して人が「自ら表現することにより個々の存在意義やアイデンティティを再発見すること」に大きな意義がある。
- ・ 震災前、きりこプロジェクトが始動したころ、町の住民が一堂に会してきりこを制作しながら、きりこの由来や自らの生い立ちを語ることで、お互いの人となりや理解されたり、会話の機会がなかった隣人とのコミュニケーションが促進されたりした。このように、表現する術を持たない人たちにとって、表現をするための手法を発掘し、個々のアイデンティティを確認する一助となりえたことは、本プロジェクトの大きな意義といえる。

## 5-3. 社会的包摂

社会に溶けこむことに困難を感じている移住者、外国人、身体障害者などのマイノリティの方々や引きこもりの方々を対象として、文化芸術をコミュニケーション・ツールとして、社会的に包摂を行おうとする事例がみられる。文化芸術は、必ずしもスキルの習得や共通の言語を前提としないため、このような場面において活用される機会が多い。

### 1) 移住者・外国人

#### (1) 釜ヶ崎芸術大学

##### 概要と主な成果

- NPO 法人こえとことばとこころの部屋(ココルーム)が主宰する、おもに釜ヶ崎の地域住民を「学生」とする講座やワークショップなどの自主プログラム。
- 2012年から大阪市西成区の釜ヶ崎地域にある様々な会場で、年間40～60の講座やワークショップを開いている。無料またはカンパ制で、年齢、地域問わず、誰でも参加できる。
- 音楽、狂言、合唱、ダンス、写真、詩など様々な活動が行われ、毎回30名以上が参加している。
- 2014年には現代美術の国際展・ヨコハマトリエンナーレ2014に釜ヶ崎芸術大学として参加し、横浜美術館において展示やイベントを行った。
- 釜ヶ崎芸術大学及びココルームの活動は、「教える／教えられる」という関係性さえ揺るがしながら活動を続ける中で、長期的かつ生活に根ざした社会包摂活動を展開している。

### 取り組みの背景<sup>88</sup>

- ・大阪市西成区の釜ヶ崎（あいりんとも呼ばれる）は、かつて日本の高度経済成長期を寄せ場として支え、日雇い労働者の町として知られたが、バブル崩壊後は公共事業の縮小などで求人が減り、ホームレスになる者が増えた。劣悪な労働環境から労働者による暴動などが起こった歴史を持つ。
- ・釜ヶ崎芸術大学は2012年から実施されている、おもに釜ヶ崎の地域住民を「学生」として実施されている講座やワークショップなどの自主プログラムの総称である。
- ・詩人の上田假奈代氏を代表とし、釜ヶ崎の商店街でカフェやメディアセンターを運営し、地域住民に対して、出会い、協働、会話の機会をつくっているNPO法人こえとことばとこころの部屋（ココルーム）が主宰している。
- ・釜ヶ崎芸術大学は釜ヶ崎の住民の「やることがない。話をする人もいない。朝からお酒を飲むしかない」という声を受け、構想がスタートした。

### 取り組みの内容<sup>89</sup>

- ・釜ヶ崎芸術大学では、年間40~60の講座やワークショップを開いている。無料またはカンパ制で、年齢、地域問わず、誰でも参加できる。1度だけの受講も可能である。参加者には「学生証」が発行される。
- ・例年、最後に成果発表会を設けており、2012年度は詩の朗読、音楽演奏、映像上映、2013年度は音楽、狂言、合唱、ダンス、写真、詩、2014年度は「釜ヶ崎オ！ペラ」の上演が行われている。
- ・また、2014年には現代美術の国際展・ヨコハマトリエンナーレ2014に釜ヶ崎芸術大学として参加し、横浜美術館において展示やイベントを行った。2014年度全体の活動及びヨコハマトリエンナーレへの参加のために行ったクラウドファンディングでは、300万円以上の寄付を集めた。

### 取り組みの成果<sup>90</sup>

- ・釜ヶ崎芸術大学の講座やワークショップには、釜ヶ崎の地域住民を中心に、毎回10~20名、多い時で30名強の参加者が集まっている。2012~13年の第1期には、184名（延べ576名）が参加した。
- ・釜ヶ崎芸術大学及びココルームの活動は、「教える／教えられる」という関係性さえ揺るがしながら活動を続ける中で、長期的かつ生活に根ざした社会包摂活動を展開している。

## （2）可児市文化創造センター

### 概要と主な成果

- 岐阜県可児市において2002年に開館した劇場。
- 2009年度から実施されているalaまち元気プロジェクトでは、市民が元気なまちをつくることを目指し、教育機関、福祉施設、病院、企業、多文化共生施設、市民を対象として音楽や演劇、ダンスなどのワークショップを行っている。児童生徒や障害者、高齢者、不登校や在住外国人の子どもらも対象として、年間400回以上実施されている。
- またalaでは毎年大型市民参加プロジェクトを実施しており、毎回100名ほどの市民が参加している。

<sup>88</sup> 釜ヶ崎芸術大学クラウドファンディングページ及び釜ヶ崎芸術大学Webサイト

<sup>89</sup> 釜ヶ崎芸術大学クラウドファンディングページ及び釜ヶ崎芸術大学Webサイト

<sup>90</sup> 釜ヶ崎芸術大学2012報告書及び釜ヶ崎芸術大学クラウドファンディングページ



### 取り組みの背景

- ・岐阜県可児市は県庁所在地の岐阜市及び愛知県名古屋からともに約 30 km の距離にあり、1970 年代前半からこれらのベッドタウンとして急激に人口が増加した街である<sup>91</sup>。2015 年現在の人口は約 10 万人である<sup>92</sup>。
- ・外国籍住民が総人口の 5.6% を占めており、多文化共生事業を推進しているのも同市の特徴の 1 つである。
- ・可児市文化創造センター（ala）は市制施行 20 周年の目玉として 2002 年に開館した。2007 年からは衛紀生氏が館長兼芸術総監督を務めている。同氏は「劇場が市民の「生きる意欲」の生まれる場所でありたい。「望む力」の生まれる場所にしたい。「いのちの格差」のないまちにする装置でありたい。」と語っており、「社会貢献型劇場経営（Cause Related Management）」を標榜した劇場運営を行っている<sup>93</sup>。

### 取り組みの内容

- ・ala は様々なプロジェクトを実施している。そのうちの 1 つで、2009 年度から実施されている「ala まち元気プロジェクト」では、「市民が元気なまち」をつくることを目指し、教育機関、福祉施設、病院、企業、多文化共生施設、市民を対象として音楽や演劇、ダンスなどのワークショップを行っている。児童生徒や障害者、高齢者、不登校や在住外国人の子どもらも対象として、年間 400 回以上実施されている。
- ・初年度は 24 プログラムが 267 回実施され、2010 年度は 328 回、2011 年度は 354 回、2012 年度は 423 回、2013 年度は 422 回実施されている<sup>94</sup>。
- ・プログラムは「劇場をとびだして、まちじゅうへ」をキャッチフレーズに、劇場に足を運ぶ人の基に文化芸術を届けるものを実施している。
- ・また ala では毎年大型市民参加プロジェクトを実施しており、毎回 100 名ほどの市民が参加している。その目的は「制作過程において多くの市民が関わり創りあげていくことで、参加者同士の絆を育み、地域への愛着を深めること」、「プロのスタッフ・キャストの方々と共同・共演することにより、市民の創作意識を高め、地域の活性化を図ること」である<sup>95</sup>。3 年毎にミュージカル、コンテンポラリーダンス、演劇というサイクルで作品が制作されている。

### 取り組みの成果

- ・衛氏が館長に就任してから ala の来館人数は増加し、2012 年度時点での来館者数は 43.8 万人、観客聴衆はそのおよそ 10% と、就任時との比較では来館者数で 1.7 倍、観客数で 3.2 倍となっている<sup>96</sup>。
- ・その中でも特徴的なのは年間 400 回以上行われる ala まち元気プロジェクトであり、その中でも「たくさんの「違い」を持った人々が出会い、語り合い、分かり合うためのプログラム」として「多文化共生」が行われていることである。これは移住者や外国人に対する社会包摂機能を果たしており、マイノリティの排他といった社会課題に対する 1 つの応答と見ることができる。

<sup>91</sup> 桜井孝治「市制施行 30 周年、アーラ開館 10 周年に想う」

<sup>92</sup> 可児市 Web サイト

<sup>93</sup> ala Web サイト

<sup>94</sup> 「ala まち元気プロジェクトレポート」

<sup>95</sup> ala Web サイト

<sup>96</sup> ala Web サイト

## 2)身体障害者・ひきこもり

### (1)アルス・ノヴァ

#### 概要と主な成果

- NPO 法人クリエイティブサポートレッツの運営するたけし文化センターが 2008 年から始めた「障害者がその人らしく生きる」ことを奨励する事業。
- その人のやりたいこと、好きなこと、熱意を持って取り組んでいることをサポートしている。

#### 取り組みの背景

- ・アルス・ノヴァは、NPO 法人クリエイティブサポートレッツの運営するたけし文化センターが 2008 年から始めた「障害者がその人らしく生きる」ことを奨励する事業の一環として誕生した。「アルス・ノヴァ」とは、「新しい芸術」を意味するラテン語である。
- ・クリエイティブサポートレッツでは、「障害や国籍、性差、年齢などのあらゆる「ちがい」を乗り越えて人間が本来持っている「生きる力」「自分を表現する力」を見つめていく場を提供し、様々な表現活動を実現するための事業を行い、すべての人々が互いに理解し、分かち合い、共生することのできる社会づくり<sup>97</sup>」を理念に掲げている。

#### 取り組みの内容

- ・アルス・ノヴァでは、「大人のためのサービス」と「子どものためのサービス」が提供されている。いずれにおいても、それぞれの個性を尊重し、本人が表現したいことを表現することを通じて、「面白さ」を感じ取ることが重視されている。
- ・日常的に行うことを尊重し、その様子そのものに「面白さ」を発見し、アートと位置づけている。

#### 取り組みの成果

- ・アルス・ノヴァでは、「知的障害者の行動を奇行と考えずに、オリジナルな価値観とらえ直す<sup>98</sup>」ことによって、排除されがちなマイノリティの人々への社会包摂を打ち出している。

### (2)音遊びの会

#### 概要と主な成果

- 知的障がい者とその家族、アーティスト、音楽療法家などによる即興音楽グループ。
- 即興音楽を通して新しい音楽表現の地平を開拓することを目的に、月 2 回のワークショップや公演を重ねている。
- 演奏を通じて多様な人々がかかわり合う場であり、障がい者の社会参加の場であるとともに、アーティストが障がい者やその関係者との交流を通して自身の表現活動を新たな視点から考えるきっかけをつかむ場という側面もある。

<sup>97</sup> クリエイティブサポートレッツ Web サイト

<sup>98</sup> 2015/03/05 朝日新聞

### 取り組みの背景

- ・音遊びの会は、知的障がい者とその家族、アーティスト、音楽療法家などによる即興音楽グループである。
- ・2005年4月に神戸大学大学院で音楽療法を研究していた大学院生らによって結成され、同年9月から明治安田生命保険相互会社及びエイブル・アート・ジャパンによる助成を受けて「音遊びプロジェクト」を開始した<sup>99</sup>。

### 取り組みの内容

- ・音遊びの会の主たる活動は、即興演奏を通じたワークショップである。障がいのある子どもや健常者であるアーティストらが即興演奏をともにするという枠組みを前提として、メンバーが相互に触発し合うことで、障がい者や健常者の「どちらによるものでもない音楽<sup>100</sup>」が生まれ、予測不能なパフォーマンスが生起する空間が形成される。メンバーは自閉症やダウン症などの16名の知的障がい者<sup>101</sup>と保護者、アーティストなどで約50名<sup>102</sup>におよぶ。
- ・2005~2006年の「音遊びプロジェクト」の後、音遊びの会はメンバーによる即興演奏のライブや公演だけでなく、保護者による企画や、他団体や施設とのコラボレーションに基づくワークショップなど、さまざまな形式の活動を展開してきた。活動範囲は兵庫県から徐々に各地に広がっている。
- ・2013年には、初めての海外ツアーとしてイギリスで公演やワークショップを実施し、その模様がNHKで放映されて反響を呼んだ。
- ・公演活動に加え、音遊びの会はこれまでにCD及びDVDをリリースしている。

### 取り組みの成果

- ・また、音遊びの会には、アーティストが障がい者やその関係者との交流を通して自身の表現活動を新たな視点から考えるきっかけをつかむ場という側面もある。音遊びの会と縁の深い音楽家の一人である大友良英氏は、著作の中で「自分自身の音楽が大きく変わるきっかけになりました<sup>103</sup>」と明言している。

## (3) otto & orabu(しょうぶ学園)

### 概要と主な成果

- しょうぶ学園は、鹿児島県にある知的障がい者のための社会福祉施設で、1973年に設立された。
- 2001年には、現施設長の福森伸氏が指揮者を務めるかたちで、「otto&orabu」というパーカッショングループが設立された。
- 「otto&orabu」のフリースタイルのパフォーマンスは次第に評価され、ライブを行ったり、CMソングに使われたりしている。
- 現在、しょうぶ学園は福祉施設であると同時に地域交流の拠点として機能し、年間10,000人以上の来訪者を数える。同学園の一連の取り組みは、2013年度に新しい福祉デザインとして「グッドデザイン賞」を受賞した。

<sup>99</sup> 明治安田生命「プレスリリース」

<sup>100</sup> 大友良英「MUSICS」

<sup>101</sup> 日本音楽即興学会 2012大会報告「ラウンドテーブル「無目的なコミュニティ：即興表現が語るもの」」

<sup>102</sup> デザイン・クリエイティブセンター神戸 KIITO Web サイト

<sup>103</sup> 大友良英「MUSICS」

### 取り組みの背景

- ・ しょうぶ学園は、鹿児島県にある知的障がい者のための社会福祉施設で、1973年に設立された。
- ・ 1985年に始まった「工房しょうぶ」の活動は、文化創造事業（つくりだすくらし）の中核をなす、多彩かつ独創的なプログラムである。
- ・ 工房の利用者だけでなく、サポートに携わるスタッフも表現者という同じ立場でコラボレーションを重ねながら、障がい者施設そのものが「与えられる」側から「創り出す」側に立つことを目指している<sup>104</sup>。
- ・ 2001年には、現施設長の福森伸氏が指揮者を務めるかたちで、「otto&orabu」という音パフォーマンス集団が結成された。民族楽器を中心とするパーカッショングループ「otto（おっと）」とヴォイスグループ「orabu（おらぶ）」（鹿児島弁で「叫ぶ」の意）から成り、施設利用者とスタッフで構成されている。2006年には入所施設の全面改築に伴って、施設内にパン工房やギャラリー、地域交流スペースなども整備され、表現活動と社会とをリンクさせる場が拡大した。

### 取り組みの内容

- ・ しょうぶ学園では障がい者の入所者と健常者のスタッフがともに創造的な活動を行っている。otto & orabu はそれを象徴するグループで、民族楽器を用いながら純粋に楽しくセッションすることによって、一般的な音楽では好まれない「不揃い」や「ズレ」をバランス良く調和させたパフォーマンスを展開する。
- ・ この取り組みには、施設長の福森氏の考え方が反映されている。福森氏は、「いわゆる“健常者”のように振る舞えるように訓練する<sup>105</sup>」という障がい者施設の在り方と、「揃うことが美しい」という一般的な美的概念を転換させ、入所者のピュアさを否定しない状態で、不揃いな音の心地良い配置を模索する。スタッフの役割は、入所者から発せられる音を受けて、健常者で形成された社会に「不揃い」の良さが受け入れられるよう考えをめぐらすことである。
- ・ 2001~2004年にかけて、otto & orabu は主に鹿児島県内のイベントなどに出演した。また、「屋久島エコ・フェスタ 2001」におけるプロのアーティストとのセッションを期に、フリースタイルのパフォーマンスからオリジナルの楽曲が生み出されるようになり、2012年には otto&orabu の「ポンピドゥー~道化師の唄」がアパレルブランドのテレビCMに使用された。ライブの回数は2009年頃から増え始め、近年では活動範囲が県外へも広がっている。
- ・ 公演活動に加え、2013年にDVDが、2014年にはCDがリリースされている。

### 取り組みの成果

- ・ 現在、しょうぶ学園は福祉施設であると同時に地域交流の拠点として機能し、年間10,000人以上の来訪者を数える。同学園の一連の取り組みは、2013年度に新しい福祉デザインとして「グッドデザイン賞」を受賞した<sup>106</sup>。
- ・ しょうぶ学園が高く評価されるポイントの1つには、知的障がい者である入所者の創造力を引き出し、表現活動の機会を創出するとともに、社会とリンクさせる場を提供していることが挙げられる。

<sup>104</sup> 工房しょうぶ Web サイト

<sup>105</sup> greenz.jp 「福森伸さんが語る「”ちょいヘタ”のカッコよさ」知的障がい者施設しょうぶ学園から生まれた音パフォーマンス集団「otto&orabu」

<sup>106</sup> 公益財団法人日本デザイン振興会 Web サイト

## (4) 日本センチュリー交響楽団

## 概要と主な成果

- 大阪に拠点を置くプロ・オーケストラの1つ。2014年の楽団創立25周年記念を機に music project 「The Work」を開始した。
- 「The Work」は、若者就労支援施設とのコラボレーション企画であり、「働きたいという意志を持ち行動を起こすものの、就労に至っていない若者」を対象とする。
- 楽器に限定せずに、音が出るものすべてを扱い、参加者とオーケストラの楽団員がともに音楽を創作する体験型のプログラムとなっており、自身の就労や日々の暮らしに必要な社会人基礎力を身に付けることを目的とする。
- Facebook を通して発信されるワークショップのレポートからは、メンバーはプログラムの途中から自主練習に取り組むようになり、ワークショップへの参加が自信や誇りにつながっていることや、メンバーが互いに刺激し合うことで苦手意識に立ち向かい、本番に臨む空気感が醸成されたことが伺える。

## 取り組みの背景

- ・日本センチュリー交響楽団は、大阪に拠点を置くプロ・オーケストラの1つである。前身である大阪センチュリー交響楽団は、大阪府によって1989年に創設された。大阪府文化振興財団を運営母体とし、1990年代を通じて府から手厚い支援を受けて活動した。
- ・2008年、大阪府が提示した「財政再建プログラム（案）」を発端として、楽団への補助金の大幅削減が検討されることになり<sup>107</sup>、運営をめぐる状況が一変して楽団存続の危機に陥った。
- ・大阪府文化振興財団は2009年に自立化・民営化の方針を決定した後、2011年に解散し、楽団は「公益財団法人日本センチュリー交響楽団」に改組された。
- ・創設以来「府民のオーケストラ」を掲げて教育プログラムなどを展開してきたにもかかわらず、それらの活動が補助金の存続理由として認められなかったことへの危機意識から、2013年に同楽団マネジャーの柿塚拓真氏が「BBC 交響楽団「Diverse Orchestra Japan」派遣プログラム」に参加し、イギリスにおける多様な教育プログラムを視察した。
- ・柿塚氏はその経験を活かし、「よい音楽を聴いてもらうだけでなく、もっと社会課題に踏み込んだ活動をしなければ楽団は生き残れない<sup>108</sup>」と考え、社会課題に取り組んでいる専門団体との連携を模索するようになった。

## 取り組みの内容

- ・日本センチュリー交響楽団は、2014年の楽団創立25周年記念を機に、「芸術家と社会との創造的でインタラクティブな関係の構築」、「社会におけるオーケストラの新しい価値、新しい役割の創造」を目指して、music project 「The Work」を開始した<sup>109</sup>。
- ・実施に当たっては、コミュニティプログラムディレクターのポストを新設して作曲家の野村誠氏を迎えたとともに、若者の就労・就業支援を行っているNPO法人スマイルスタイルとの連携体制を敷いた。スマイルスタイルは参加者募集の協力のほか、コンセプトの構築や各種資料など作成にも携わった。

<sup>107</sup> 大阪府庁 Web サイト<sup>108</sup> 山下里加「今月のレポート 日本センチュリー交響楽団×仕事ライブラリーハローライフ music project「The Work」(「地域創造レター」No.232)<sup>109</sup> 日本センチュリー交響楽団「PRESS RELEASE」(2014/03/19)



- ・「The Work」は、スマイルスタイルの運営する若者就労支援施設・ハローライフ（大阪市西区）とのコラボレーション企画であり、「働きたいという意志を持ち行動を起こすものの、就労に至っていない若者」を対象とする。楽器に限定せずに、音が出るものすべてを扱い、参加者とオーケストラの楽団員がともに音楽を創作する体験型のプログラムとなっており、自身の就労や日々の暮らしに必要な社会人基礎力を身に付けることを目的とする。
- ・2014年4月～6月の3ヶ月間に月2回のワークショップが行われ、ハローライフ登録者の中から10名が参加した。7月には成果発表の場として、ディレクター・野村誠氏作曲の「日本センチュリー交響楽団のテーマ」と、参加メンバーによる「ハローライフ協奏曲」が演奏された。

### 取り組みの成果

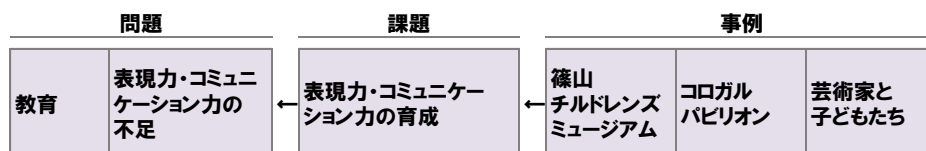
- ・「The Work」は始まってまもない取り組みであるが、Facebookを通して発信されるワークショップのレポートでは、就労活動中の参加メンバーの行動や意識が変化するプロセスが示されている。メンバーはプログラムの途中から自主練習に取り組むようになり、ワークショップへの参加が自信や誇りにつながっていることや、メンバーが互いに刺激し合うことで苦手意識に立ち向かい、本番に臨む空気感が醸成されたことが伺える。

## 第6章 教育問題の解決

## 6-1. 教育問題に係る課題と解決に貢献した事例

「教育問題」では「表現力・コミュニケーション力の不足」という問題に対して、文化芸術は「表現力・コミュニケーション力の育成」といった課題の解決に貢献できると考えられる。

図表・58 「教育問題」に係る課題の解決に貢献した主な事例



## 6-2. 表現力・コミュニケーション力の育成

主に子供を対象として、文化芸術を通して豊かな表現力やコミュニケーション力を育成しようとする取り組みがみられる。ここでは、兵庫県篠山市の「篠山チルドレンズミュージアム」、山口県山口市のYCAM（山口情報芸術センター）が展開する「コロガルパビリオン」、東京都豊島区に拠点を構える「芸術家と子どもたち」の活動を取り上げている。

## (1) 篠山チルドレンズミュージアム

## 概要と主な成果

- 兵庫県篠山市にある、旧多紀中学校の校舎を利用した自然の中の遊びの体験型子ども博物館。2001年に開館した後、一度は閉館したが、2013年に再開した。
- 篠山チルドレンズミュージアムでは、子どもの想像力を伸ばすワークショップにも力を入れている。

## 取り組みの背景

- ・ 篠山チルドレンズミュージアムは統廃合にともなう施設移転により廃校になった木造の中学校（旧多紀中学校）の校舎を利用した自然の中の遊びの体験型子ども博物館である。
- ・ 2001年に開館した後、一度は閉館したが、2013年に再開した。再開後は、地域活動や親子活動のほか、イベントやワークショップ、人形劇なども開催されている。なお、篠山市内に住所を有していれば、中学生以下は入館料が無料となる。

## 取り組みの内容

- ・ 篠山チルドレンズミュージアムでは、学校統合で閉鎖された中学校を活用することで、創造性豊かな人づくりと子供たちの「生きる力」を育む拠点づくりを目的としている。
- ・ 本ミュージアムでは、特に子どもの想像力を伸ばすワークショップにも力を入れている。ワークショップでは、子どもたちが普段の生活で何気なく見過ごすことに気づき、「共有すること」、「かんじること」ができるようにすることを重視している。また、黒豆農家とのコラボレーション企画など、地域の特色を生かしたワークショップの企画にも取り組んでいる。

## 取り組みの成果

- ・ 2002年には、文部科学省の廃校リニューアル50選に選出された。
- ・ 2013年7月には、リニューアル後の来場者数が1万人に、2014年6月には4万人に、2014年9月には5万人に達した。

## (2)コロガルパビリオン

## 概要と主な成果

- YCAM(山口情報芸術センター)に設けられた、メディアテクノロジーを活用した多様な仕掛けと不定形の床面からなる公園型インスタレーション。
- 公園の遊具のような画一的な「遊び」を提供するのではなく、子供たちの感覚を刺激し、自発的な「遊び」の創造を促す「環境」として機能した。
- 1日700~900人の子供たちが来場、約4ヶ月間の会期中に4.7万人が利用した。のちに子供たちを中心に会期延長の署名活動が起こり、2週間で約1,000人の署名が集まった。それを山口市長に届けた結果、2014年に1ヶ月間の特別再開が行われた。

## 取り組みの内容

- ・ YCAM(山口情報芸術センター)では、2012年に開催された展覧会「glitchGROUND-メディアアートセンターから提案する新しい学び場環境」において、「公園型インスタレーション・コロガル公園」が制作された。
- ・ この「コロガル公園」には、約3ヶ月の会期中に3.7万人以上の人々が訪れ、盛況を博した。
- ・ その成功を受け、2013年のYCAM 10周年記念祭の一環として、「コロガル公園」をバージョンアップさせた「コロガルパビリオン」をYCAMに隣接する山口市中央公園にオープンした。
- ・ 2013~2014年の「コロガルパビリオン」は、メディアテクノロジーを活用した多様な仕掛けと不定形の床面からなる公園型インスタレーションであり、円筒状の外観が特徴的な大小2つの建築の内部には、照明やスピーカーなどのメディアテクノロジーが多数埋め込まれていた。
- ・ ここに屋外環境ならではの自然がゆるやかに結びつくことで、公園の遊具のような画一的な「遊び」を提供するのではなく、子供たちの感覚を刺激し、自発的な「遊び」の創造を促す「環境」として機能した。
- ・ また、関連イベントとしてコロガルパビリオンを利用する小中学生を対象に「子どもあそびばミーティング」が開催された。参加者はYCAM内に設置された研究開発チーム「YCAM InterLab」のスタッフとともに、パビリオンに追加したい機能を議論し、最終的に採用されたアイデアは、パビリオンの新しい機能として追加された。

取り組みの成果<sup>110</sup>

- ・ 夏休みの期間から始まったこともあり、1日700~900人の子供たちが来場、約4ヶ月間の会期中に約4.7万人が利用した。
- ・ コロガル公園及びコロガルパビリオンでは禁止事項が少なく、ルールの中で遊ぶというより、子供たちがルールを作っていく仕組みにしたため、コミュニケーション能力の向上が促された。
- ・ 子供たちは自分たちで施設のチラシを作り、そうした作業の中で「公共」の概念が育まれた。
- ・ 閉鎖間際には、公園がなくならないように、子供たちを中心とする署名活動が始まった。2週間で約1,000人の署名が集まり、それを山口市長に届けた結果、2014年に1ヶ月間再開することになった。子供たちは意見を形にすることで世の中を変える経験をした。それは彼らの将来的な社会参加を促すものでもあったと考えられる。

<sup>110</sup> 野村総合研究所による会田大也氏ヒアリング

### (3) 芸術家と子どもたち

#### 概要と主な成果

- 地域をテーマに親子を対象とした事業を展開している NPO 法人。1999 年から活動を行っている。
- 現代アーティストが幼稚園や小中学校などに赴き、ワークショップを実施する「ASIAS」、子どもや親子を中心に、地域との連携を図りながらプロジェクトを推進する「ACTION!」、プロの現代アーティストを都内の学校やホールなどに派遣し、子どもたちとともにオリジナル舞台を制作し、公演を行う「パフォーマンスキッズ・トーキョー(TKP)」などを実施。
- アウトリーチによる教育への働きかけの草分け的な存在となった。

#### 取り組みの背景

- ・「芸術家と子どもたち」の活動は、現代表の堤康彦氏が、イベントホールのスタッフとして子ども向けのワークショップなどを企画・実施してきた経験に基づき、1999 年に ASIAS (Artist's Studio In A School) のプロジェクトを開始したことから始まる。
- ・2001 年には、NPO 法人化し、2004 年以降はにしすがも創造舎に拠点を置き、活動を続けている<sup>111</sup>。

#### 取り組みの内容

- ・芸術家と子どもたちでは、現代アーティストと子どもたちが出会う場づくりに取り組んでおり、主に、以下に挙げる 3 つの活動に取り組んでいる。
- ・「ASIAS」では、芸術家と子どもたちがアーティストを仲介し、提供する授業の内容について教師と事前の打ち合わせを行ったうえで、アーティストにより数週間から数か月に渡って複数回のワークショップを行われる<sup>112</sup>。ここでは、作品を完成させることよりも、そのプロセスやコミュニケーションの過程が重視される。
- ・「ACTION!」では、子どもや親子を中心に、地域との連携を図りながらプロジェクトを推進する。年齢の異なる子どもたちや世代間での交流も促進している。
- ・「パフォーマンスキッズ・トーキョー (TKP)」では、アーティストを都内の学校やホールなどに派遣し、10 日間程度のワークショップを通して子どもたちとともにオリジナル舞台を制作し、公演を行う。

#### 取り組みの成果

- ・芸術家と子どもたちによる活動は、一般的な学校教育における「鑑賞教育」による芸術の提供とは異なり、アーティストと子どもたちとの間に緊張感と親密性のある双方向の関係が生み出され、子どもたちの芸術創造体験として機能している点が高く評価されている<sup>113</sup>。
- ・近年、芸術のアウトリーチによる教育への働きかけは全国各地にみられるが、草分け的な存在となったのが、芸術家と子どもたちの活動である<sup>114</sup>。

<sup>111</sup> 「アート NPO の取り組み、その広がり課題」(アート NPO データバンク Web サイト)

<sup>112</sup> 吉本光宏「“アート”から教育を考えるー国内外のチャレンジからー」(「ニッセイ基礎研 REPORT」2007 年 7 月号)

<sup>113</sup> 第 1 回アサヒビール芸術賞受賞理由

<sup>114</sup> 吉本光宏「“アート”から教育を考えるー国内外のチャレンジからー」(「ニッセイ基礎研 REPORT」2007 年 7 月号)

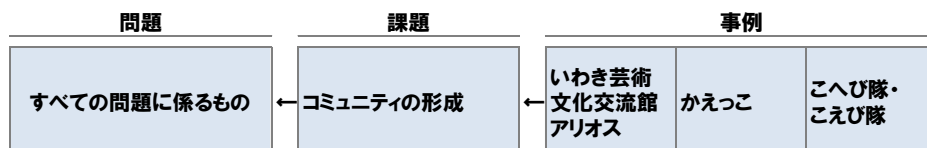


## 第7章 コミュニティの形成

## 7-1. すべての問題に係るもの

ここでは、すべての問題解決に資すると考えられる「コミュニティの形成」について取り上げている。

図表・59 「コミュニティの形成」に貢献した主な事例



## 7-2. コミュニティの形成

コミュニティが形成されることで、個々の人々が問題に直面した際に、人々で助け合いうことで問題を乗り越えられる可能性が高まる。ここでは、そのコミュニティの形成において文化芸術が貢献している事例として、福島県いわき市の「いわき芸術文化交流館アリオス」、全国の様々な場所で実施されている「かえっこ」、大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレや瀬戸内国際芸術祭をきっかけとして生まれた「こへび隊・こえび隊」を取り上げている。

## (1) いわき芸術文化交流館アリオス

## 概要と主な成果

- 2008年に設立された福島県いわき市の総合文化会館。
- 通常の音楽や演劇の公演を行うだけでなく、市民参加型のワークショップなども積極的に実施し、芸術の交流拠点としての役割を担っている。
- 支配人の大石時雄氏は、今後の人口減少社会において、地域内でのコミュニケーション創造のために、文化施設を機能させることを主張している。
- いわき芸術文化交流館アリオスでは、公演がない日であっても、子どもを連れた母親や勉強をする高校生などの姿が見られる。

## 取り組みの背景

- ・ いわき芸術文化交流館アリオス（以下、アリオス）は、2001年にいわき市で策定された「新・いわき市総合計画」の中で、中心市街地における新たな文化ホールの整備が位置づけられたことを受け、建設されることとなった。
- ・ 検討の中では、単なるホールではなく、「いわき市における芸術文化の拠点として、また、あらゆる世代にわたる市民の交流空間として整備することにより、中心市街地のにぎわいづくりや交流人口の拡大につなげることをミッションとする<sup>115)</sup>」ことが方向づけられ、2008年に開館を迎えた。
- ・ 2011年3月の東日本大震災によって、アリオスは被災者の避難場所となり、当面の臨時休館となった。11月には、いわき市の臨時の分庁舎として機能していた別館がアリオスに戻り、再オープンを果たした。再開後のコンサートの入場者数は増加している。

<sup>115)</sup> いわき芸術文化交流館アリオス Web サイト

### 取り組みの内容

- ・アリオスの建物は、本館と別館から構成される。本館は、大ホール棟、交流ロビー棟、中劇場棟の3構造からなる。この中に、大ホール（最大1,840席）、中劇場（最大687席）、小劇場（最大233席）、大・中リハーサル室、スタジオ、カスケード（交流ロビー）、カンティーン、レストラン、ショップ、カフェ、総合案内、運営事務局が配置されている。別館には、音楽小ホール、小練習室、中練習室、稽古場が用意されている。交流ロビーは、誰もがいつでも憩い、くつろげる交流スペースが設けられている。
- ・施設では、通常の音楽や演劇の公演を行うだけでなく、市民参加型のワークショップなども積極的に実施され、芸術の交流拠点としての役割を担っている。また、東日本大震災以降は、市内の小中学校へのアウトリーチにも力を入れており、芸術家の派遣を行っている。
- ・ワークショップとして象徴的な事例としては、「アリオス・プランツ！」が挙げられる。「プランツ！」は自由参加の市民が自分のやりたい活動について発表するテーブルセッションである。この活動の結果として、多くの市民グループが誕生した<sup>116</sup>。
- ・また、出張型事業の「おでかけアリオス」では、施設型及びコミュニティ型の2つの側面で、音楽や演劇、詩、落語などのアウトリーチ事業を実施している。特に、コミュニティ型のおでかけアリオスでは、施設からの一方的な活動提供ではなく、地域住民と一緒に考え、活動を行うことにより、近隣を巻き込んだイベントなどの開催が可能となっている。こうした活動の中で、単純に文化芸術に触れる機会を提供するだけでなく、人々が集い、言葉を交わす機会が生まれている<sup>117</sup>。

### 取り組みの成果

- ・アリオスでは、公演がない日であっても、子どもを連れた母親や勉強をする高校生などの姿が見られる。支配人の大石時雄氏は、今後の人口減少社会において、地域内でのコミュニケーション創造のために、文化施設を機能させることを主張している<sup>118</sup>。その点において、アリオスは、「生活支援型アートセンター」として、市民自らが担い手となる芸術活動を促進している。

いわきアリオス外観①



いわきアリオス外観②



いわきアリオス内観



<sup>116</sup> 藤浩志「地域を変えるソフトパワー アートプロジェクトがつなぐ人の知恵、まちの経験」

<sup>117</sup> 財団法人地域創造「文化・芸術を活用した地域活性化に関する調査研究 別冊資料集」

<sup>118</sup> 大石時雄「地域のコミュニケーション空間の創造（いわき）」（文化芸術による復興推進コンソーシアム「平成24年度報告書」）

## (2)かえっこ

### 概要と主な成果

- 不要になったおもちゃを使って、地域に様々な活動をつくり出すシステムで、2000年に現代アーティストの藤浩志氏により発案されて以来、国内外1,000カ所で5,000回以上開催されてきた。
- 「かえっこ」は子供たちの社会化を促すだけではなく、開催する大人たちにとっても、コミュニティの形成を促進し、コミュニケーションを媒介する効果を持っている。

### 取り組みの背景

- ・「かえっこ」は、不要になったおもちゃを使って、地域に様々な活動をつくり出すシステムである。2000年に現代アーティストの藤浩志氏に発案されて以来、2012年までに国内外1,000カ所で5,000回以上開催されてきた。
- ・基本的な仕組みは、いらなくなったおもちゃを持って行くと、その内容に応じて子供通貨「カエルポイント」が発行され、そのポイント数で別のおもちゃに交換できる、というものである。
- ・「かえっこ」は、2000年春、福岡県・福岡アジア美術館で開催された「アジア楽市楽座」という、アーティストがフリーマーケットをつくるプログラムをきっかけに生まれた<sup>119</sup>。

### 取り組みの内容<sup>120</sup>

- ・現在では藤浩志氏はほとんど関わっておらず、全国に数カ所の拠点的な開催地（団体）があり、福岡の「かえっこ事務局」は藤容子氏が一人で運営している。「かえっこ」のウェブサイトには実施の仕方が公開されているので、希望者はそれを見て事務局に問い合わせ、「かえっこ」に必要なカードとスタンプを取り寄せる。このカードとスタンプは世界共通の子供通貨とされ、「子供の心を持った人だけが使える」という前提で共有される。
- ・ワークショップの内容としては、おもちゃを磨く、インフォメーションセンターをつくる、警察になりきってパトロールする、放送局をつくる、チラシを配る、看板をつくる、来場者にインタビューするなど、社会性のある活動子供が行うものが多い。また、このワークショップの部分に、地域が抱える様々な問題に対応する動きを誘発する機能をもたせることができる。

### 取り組みの成果

- ・「かえっこ」を実施したNPO法人水戸こどもの劇場副代表の横須賀聡子氏は、「「かえっこ」を体験した子供たちは、ものの見方が変わり、自分が社会に参加しているという感覚を強く持つようになったのではないかと証言している<sup>121</sup>。
- ・「かえっこ」は単に子供たちの社会化を促すだけではなく、開催する大人たちにとっても、コミュニティの形成を促進し、コミュニケーションを媒介する効果を持っている。

<sup>119</sup> 藤容子「「かえっこ」はじめてものがたり」、3331 Arts Chiyoda「藤浩志のかえるワークショップ」

<sup>120</sup> 3331 Arts Chiyoda「藤浩志のかえるワークショップ」

<sup>121</sup> 3331 Arts Chiyoda「藤浩志のかえるワークショップ」

## (3)こへび隊・こえび隊

## 概要と主な成果

- 大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ、瀬戸内国際芸術祭のボランティアグループの名称。
- 常設作品のメンテナンス、イベントの企画・運営、カフェやレストランの運営サポート、作品制作のサポート、作品の受付・パスポートのチェック、作品の紹介・ツアーガイドなどを行っている。
- 芸術祭期間中、こへび隊には約 700～800 人、こえび隊には約 3,000 人が参加している。
- こへび隊・こえび隊は、地域を超えた強固なコミュニティ形成の媒体となっている。
- 例えば、東日本大震災後には、こえび隊が中心となり約 25 名のメンバーが宮城県石巻市のがれき処理・家財搬出を行い、そのほかのメンバーも香川県が受け入れた被災者の心のケアなどの支援を行った。

## 取り組みの背景

- ・ こへび隊とこえび隊はそれぞれ、大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ、瀬戸内国際芸術祭のボランティアグループの名称である。
- ・ こへび隊は大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ開催前年の 1999 年に、こえび隊も瀬戸内国際芸術祭開催前年の 2009 年に発足している。

## 取り組みの内容

- ・ こへび隊・こえび隊ともに、性別・年齢・国籍は不問であり、希望すれば参加することができる。
- ・ 通年では常設作品のメンテナンス、イベントの企画・運営、カフェやレストランの運営サポートを行っており、芸術祭の時期にはこれらに加えて、作品制作のサポート、作品の受付・パスポートのチェック、作品の紹介・ツアーガイドなどを行う。
- ・ 大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ 2012 に参加したこへび隊は 700～800 人<sup>122</sup>で、アンケートによると、女性が 63%、10 代が 12%、20 代が 42%、30 代が 26%であった。また、「新たな人との出会い」を参加動機としている割合が約 60%であった<sup>123</sup>。
- ・ また、瀬戸内国際芸術祭 2013 に参加したこえび隊は約 3,000 人<sup>124</sup>で、アンケートによると、女性が 67%、10 代が 4%、20 代が 30%、30 代が 31%であった。最年長の参加者は 77 歳であった。「印象に残っていること」として最も多かったのが「こえび隊同士の出会い」であり、「世代、地域を越えて、普段は出会うことのない人たちと協力・交流できたこと」だという<sup>125</sup>。

## 取り組みの成果

- ・ こへび隊・こえび隊は、地域を超えた強固なコミュニティ形成の媒体となっている。
- ・ 例えば、東日本大震災後には、こえび隊が中心となり約 25 名のメンバーが宮城県石巻市のがれき処理・家財搬出を行い、そのほかのメンバーも香川県が受け入れた被災者の心のケアなどの支援を行った。

<sup>122</sup> 2012/09/08 日本経済新聞

<sup>123</sup> 越後妻有アートトリエンナーレ公式サポーター「こへび隊」事務局「数字で見る こへび活動―越後妻有アートトリエンナーレ 2012」

<sup>124</sup> 2012/09/08 日本経済新聞

<sup>125</sup> 「瀬戸内国際芸術祭 2013 参加者アンケート集計結果」





平成26年度文化庁委託事業

社会課題の解決に貢献する文化芸術活動の事例に関する調査研究 報告書

平成 27 年 3 月 31 日

■委託元

文化庁長官官房政策課

〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2

■発行

株式会社野村総合研究所

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-6-5 丸の内北口ビル



コピーOK

障害者OK

学校教育OK

利用の際は必ず下記サイトを確認下さい。

[www.bunka.go.jp/jiyuriyo](http://www.bunka.go.jp/jiyuriyo)